水産庁委託事業

令和６年度

水産多面的機能発揮対策支援委託事業

調査報告書

令和７年３月

全国漁業協同組合連合会
全国内水面漁業協同組合連合会
公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会
一般社団法人水産土木建設技術センター
株式会社水土舎

目　　次

１．水産多面的機能発揮対策事業の評価・検証 1
1-1. 自己評価結果のとりまとめ 1
1-2. 実施状況取りまとめ報告書のデータベース化 1
1-3. 評価検討部会の開催 2
２．水産多面的機能発揮対策事業の技術サポートの推進 2
2-1. 講習会の開催 2
(4)-2 運営編講習会アンケート結果 23
(4)-3 地域講習会アンケート結果 31
2-2. サポート専門家による技術的指導 51
(1) サポート専門家の登録 51
(2) サポート専門家による指導と参考資料の作成 58
(3) 指導内容の整理と参考資料の作成 63
2-3. 保全手法等の開発と普及 64
(1) 環境生態系保全向け活動記録アプリの改良（継続） 64
(2) ワークショップの開催（継続） 64
2-4. 水産多面的機能発揮対策事業の情報提供・共有 64
(1) 模範、参考となる活動組織の抽出 64
(2) 事例集の作成・配布 65
(3) 事例報告会の開催 65
(4) 各種媒体による情報提供 82
(5) 国民の理解・増進に資する取組手法の周知 87
2-5 非営利団体・企業との連携についての分析・整理 88
2-6 他分野における連携事例の収集と整理 89
３．令和６年度支援事業の成果と課題 90
3-1. 活動組織による自己評価 90
3-2. 講習会の開催 90
3-3. サポート専門家による技術的指導 95
3-4. 保全手法等の開発と普及 96
3-5. 模範、参考となる活動組織の抽出および事例集の作成・配布 99
3-6. 事例報告会（シンポジウム）の開催 100
3-7. 国民の理解・増進に資する取組手法の周知 100
3-8. 非営利団体･企業との連携についての分析･整理 101

資料編１　モニタリング結果　・・・・・・・・・・・・　資 1-1
資料編２　令和５年度実施状況とりまとめ結果　・・・・・・・・・・・・　資 2-1
資料編３　検討委員会議事録　・・・・・・・・・・・・　資 3-1
資料編４　講習会議事録　・・・・・・・・・・・・　資 4-1
資料編５　サポート専門家による個別サポート報告書　・・・・・・・・・・・・　資 5-1
資料編６　技術開発等報告書　・・・・・・・・・・・・　資 6-1
資料編７　報告会議事録　・・・・・・・・・・・・　資 7-1
資料編８　他分野における連携事例の取集と整理　・・・・・・・・・・・・　資 8-1

別冊１　令和６年度自己評価結果とりまとめ報告書
別冊２　講習会テキスト
別冊３　報告会資料
別冊４　事例集
別冊５　モニタリングの手引き 改定案

１．水産多面的機能発揮対策事業の評価・検証

平成 25 年 5 月 16 日付け元水港第 1960 号水産庁長官通知「水産多面的機能発揮対策交付金実施要領の運用（以下「実施要領の運用」という。)」第 6 の 10 に規定する対象活動組織が行なった前年度（令和 5 年度）の自己評価及び地域協議会の 2 次評価を基に、成果実績その他の評価結果を活動項目別に集計・整理し、令和 5 年度における活動組織の成果を評価した。

1-1. 自己評価結果のとりまとめ

活動組織が行なった令和 5 年度の自己評価及び地域協議会の 2 次評価を基に、表 1-1-1 に示す成果指標及び自己評価点を活動項目ごとに集計、整理し、報告書にとりまとめた。

また、報告書を別冊 1 に収録した。

表1-1-1　自己評価表の整理・集計項目

<table>
<tr><th colspan="2">活動項目</th><th>成果指標</th><th>自己評価点</th></tr>
<tr><td>1．環境・生態系保全</td><td>① 藻場の保全
② サンゴ礁の保全
③ 魚介類の放流
④ 干潟等の保全
⑤ ヨシ帯の保全
⑥ 内水面生態系の維持・保全・改善
⑦ 漂流、漂着物、堆積物処理
⑨ ③⑥⑦の効果促進
⑩ 廃棄物の利活用</td><td>対象水域における生物量の増加</td><td>成果目標
組織体制
横展開</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2．海の安全確保</td><td>⑪ 国境・水域の監視</td><td rowspan="2">不審船または環境異変の通報件数の増加</td><td rowspan="4">成果目標
組織体制
横展開</td></tr>
<tr><td>⑫ 海の監視ネットワーク強化</td></tr>
<tr><td>⑬ 海難救助訓練</td><td>海難救助に参加した件数の増加</td></tr>
<tr><td>⑭ 資機材等の整備</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">上記に関連し、その効果を高め、漁村文化の継承に資する教育・学習</td><td>理解度</td><td>成果目標
組織体制
横展開</td></tr>
</table>

1-2. 実施状況取りまとめ報告書のデータベース化

データベースとして整理する項目は表 1-2-1 に示すとおりとし、今後の効果的な事業の推進に資するための資料を作成した。

表1-2-1　データベース化した項目

項目	内容
基礎情報	都道府県名、地域協議会名、市町村名、活動組織名
項目別の実施状況（実績額）	・収入額（合計額、うち交付金の額） ・支出額（合計額、日当・謝金、傭船料、資材購入・リース費、交通費・運搬費、委託費、その他協議会等で設定した独自の費目）

1-3. 評価検討部会の開催

今後の評価を実施するにあたっての課題を含め、効果的な事業の推進に必要な課題の抽出を行うため、示す有識者に委員委嘱し、検討委員会（以下、評価検討委員会という）を開催して意見を聴取した。

今年度は現場での活動内容の変化に対応するため、藻場の保全活動の項目を中心に「モニタリングの手引き」の修正検討を行った。

また、各会議の議事録を資料編３に収録した。

表1-3-2　検討委員会の概要

委員会名	開催日時・場所※	議題
第１回 検討委員会	・日時：7月29日(月) 10：00～ ・会場：AP新橋5階　M室	(1) モニタリングの手引きの修正検討
第２回検討委員会	・８月	(1) モニタリングの手引きの修正検討 ※各委員とメールでやり取りを行った
第３回検討委員会	・１月	(1) モニタリングの手引きの修正検討 ※各委員とメールでやり取りを行った
第４回検討委員会	・日時：3月4日(月) 10：00～ ・会場：AP虎ノ門5階　G室	(1) モニタリングの手引きの修正検討

２．水産多面的機能発揮対策事業の技術サポートの推進

水産多面的機能発揮活動の技術的水準の向上を図るため、本事業に取り組む活動組織等を対象として、技術的事項等に関する講習会の開催等及びサポート専門家による技術的な指導を行った。

2-1. 講習会の開催

本事業に取り組む活動組織等を対象として、適切な組織運営の推進を図る「運営編講習会（Web 形式）と活動組織が行う「環境・生態系保全」に係る活動の技術的水準の向上や課題の解決や活動組織相互の交流、情報交換の場を提供すること等を目的とした全国講習会（Web 併用）と地域協議会の要望によるテーマを絞った講習を開催し、現地のニーズに合ったよりきめ細かな講習により更なる保全技術水準の向上を図る「地域講習会」を開催した。

また、全国講習会では保全技術の習得と参加者間や視察先との横展開を一層図る目的で現地視察を実施した。

運営編講習会は、講習会テキストとなる今年度版の「運営編テキスト」が６月末に完成したので、地域協議会経由で各活動組織に配布される時間を１か月程度考慮し７月３０日に開催した。

全国講習会は、交通の利便性や収容人員数等を考慮し東京都港区で９月４～５日に開催し、６日には神奈川県下の活動組織の現地視察を行った。講習会は、藻場保全と干潟保全について部会形式で開催し、サポート専門家のコーディネートのもとサポート専門家の講義、他の組織の参考となる活動事例紹介、質疑応答、意見交換等を行い、Ｗｅｂ参加も可能とした。

また、水産庁担当官から来年度予算要求及び藻場の保全に関する施策の動向についての枠

を設けた。また、藻場部会は初めて２部制として、第１部では海水温上昇に対応した磯焼け対策等について共同で事業を実施している一般社団法人水産土木建設技術センター担当者に講師を依頼した。第２部は、海藻だけでなく海草の知見もあり、漁業者でもあるサポート専門家をコーディネーターとし、より現場に近く広範でより細部にわたる講習を目指した。全国講習会はＷｅｂ出席も可能とすることで会場参加が叶わない参加者も講習できるように対応を行った。現地視察は藻場保全に取り組む各活動組織や関係する地域協議会や行政担当者等が視察を行うことにより磯焼け対策の保全技術の習得と参加者や視察先との横展開を一層の促進を図る目的で実施した。

地域講習会は地域協議会から要望のあった北海道函館市、千葉県鴨川市、京都府京丹後市、沖縄県那覇市で開催した。会場参加となる全国講習会と地域講習会はより多く人が参加できるように昨年度より１か月早い５月から開催案内を行い参加者の日程確保に配慮した。

全国講習会

(1) 講習の対象と講習場所の選定

講習会の参加対象は、活動組織、協定市町村、地域協議会会員等の事業関係者とし、地域協議会を通じて参加を促した。開催場所は交通の利便性や収容人員数、Ｗｅｂ環境等を考慮し東京都港区の会場を選定した。開催日程は表 2-2-1 に示すとおりである。

表 2-1-1　講習会の日程

日　程	開催内容・場所及び視察先
９月４日（水） ９月５日（木） 会場及びＷｅｂ参加	・来年度予算要求及び藻場の保全に関する政策の動向 ・藻場と干潟の保全について（部会形式） ＡＰ浜松町 東京都港区芝公園２－４－１芝パークビルＢ館Ｂ１階Ｆルーム
９月６日（金） 現地視察	神奈川県下の藻場保全活動組織

(2) 講習内容とテキストの作成

講習内容（プログラム及び現地視察スケジュール）を表 2-1-2 に示した。

講習会は、第１日目の第１部は水産庁担当官からの「来年度予算要求」及び「藻場の保全に関する政策の動向について」の枠を設け、その後の藻場部会は２部制をとり、第１藻場部会では共同で事業を実施している一般社団法人水産土木建設技術センター担当者を講師として、藻場保全活動を行っている関係者の多くが興味を示している「海水温上昇に対応した磯焼け対策について」「実効性のある継続的な藻場モニタリングの手引きについて」「ブルーカーボンを通じた藻場の補選・創造について」の講習を行った。第２日目の第２藻場部会では現役漁業者でもある川畑サポート専門家がコーディネーターとなり、同様に現役漁業者である袈裟丸氏が事例紹介者となって臨場感あふれる説明が行われたことにより、会場は非常に盛り上がり、質疑応答も活発であった。干潟部会では片山サポート専門家から香川県高松市の「高松市漁連活動組織」の耕耘の事例紹介があり、参加者から耕耘について優良事例は少

ないので参考になった等好評であった。また、昨年度の講習会意見交換時に様々な問題で苦労されていた市川市漁業協同組合活動グループに事例紹介をしてもらいサポート専門家をはじめ参加者で課題の解決を図った。第３日目は神奈川県の藻場保全活動組織である江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（藤沢市）と諸磯藻場保全活動組織、城ケ島藻場保全活動組織（三浦市）の現地視察行った。

第２藻場部会と干潟部会のコーディネーター及び事例紹介活動組織を表 2-1-3 に示した。また、現地視察の視察先及び説明者を表 2-1-4 に示した。

テキストは、保全やモニタリング手法など活動における課題の解決策等必要な事項や参加活動組織の活動内容と実績を整理し把握しやすくするなど講習会参加者にとって参考となるよう考慮し作成した。なお、配付したテキストは別冊に整理した。

表 2-1-2 プログラム及び現地視察スケジュール

全国講習会プログラム（９月４～６日水・木・金曜日）講習会会場：ＡＰ浜松町

第１日目　９月４日　水曜日　開場１０時から

第１部　来年度予算要求、藻場の保全に関する政策の動向についてＦルーム

10:00～	開場
10：30～10：50	開会　挨拶　オリエンテーション
10：50～11：50	来年度予算要求及び藻場の保全に関する政策の動向について 質疑応答、意見交換
11:50	閉会

第２部　第１藻場部会　Ｆルーム　開場１２時３０分から

12:30～	開場
13：00～13：10	開会　オリエンテーション
13：10～14：55	海水温上昇に対応した磯焼け対策について 実効性のある継続的な藻場モニタリングの手引きについて ブルーカーボンを通じた藻場の保全・創造について （講師：一般社団法人水産土木建設技術センター完山主任研究員・齋藤研究員） 質疑応答　意見交換
14:55	閉会
15：05～16：00	個別相談

第２日目　９月５日　木曜日

第３部　第２藻場部会　Ｆルーム　開場９時３０分から

9:30～	開場
10:00～10：10	開会　オリエンテーション
10：10～11：40	藻場の保全について　　コーディネーター川畑友和氏 事例紹介　質疑応答　意見交換
11:40	閉会
12：00～12：15	現地視察参加者に対する事前説明

第４部　干潟部会　Ｆルーム　開場１３時から

13:00～	開場
13：30～13：40	開会　オリエンテーション
13：40～15：00	干潟等の保全について　コーディネーター片山貴之氏 事例紹介　質疑応答　意見交換
15:00	閉会

全国講習会現地視察スケジュール

第３日目　９月６日金曜日　視察先　江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト
諸磯藻場保全活動組織
城ケ島藻場保全活動組織

8：00　【集合】第一イン湘南前
↓　江の島片瀬漁業協同組合に移動
8：30～9：20　江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト　活動概要説明等
┆　新江ノ島水族館に移動
9：25～9：45　新江ノ島水族館視察（バックヤード見学含む）
↓
12：25～13：35　うらり周辺にて自由昼食
↓　みうら漁業協同組合諸磯支所へ移動
13：50～14：05　諸磯藻場保全活動組織　早熟カジメ等活動概要説明等
↓　三和漁業協同組合城ケ島支所へ移動
14：30～15：10　城ケ島藻場保全活動組織　早熟カジメ等活動概要説明
↓　京浜急行三崎口駅へ移動
15：45　【解散】京浜急行三崎口駅前→【解散】第一イン湘南前

表 2-1-3　各部会のコーディネーター及び事例紹介組織・事例紹介者

部会	上段コーディネーター 下段事例紹介者
第２藻場部会	川畑友和氏 鎮西地区藻場保全活動の会（佐賀県唐津市）袈裟丸彰蔵氏
干潟部会	片山貴之氏 市川市漁業協同組合活動グループ（千葉県市川市）福田武司氏

表 2-1-4　現地視察　視察先及び説明者

視察先	説明者
江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト （神奈川県藤沢市）	北村治之氏、山下由香里氏
諸磯藻場保全活動組織（神奈川県三浦市）	本間功一氏
城ケ島藻場保全活動組織（神奈川県三浦市）	石橋英樹氏

(3) 参加状況及び開催結果

参加状況

全国講習会の参加状況は、表 2-1-5 に示すとおりであり、会場出席者合計は２００名であり、Ｗｅｂ出席者合計は３２６名であった。部会の出席者数は、第１藻場部会は１３２名、第２藻場部会は１４０名、干潟部会は９４名であった。また、現地視察は２７名であった。Ｗｅｂ出席に対するテキストについては、講習会時には画面共有するとともに事前にひとうみ.jp からダウンロード可能とし配慮した。また、Ｗｅｂ出席する際に出席者が特定できるように所属、氏名で入室する様促した。

新たな試みとして、藻場部会の参加者が実際の藻場保全活動組織を訪問する現地視察により、参加者の一層の藻場保全技術の習得及び参加者間や視察先との情報交換による横展開を図った。全国から漁業者を含め１４名のほか協議会事務局等合計２５名が参加した。

出席者名簿を含む全国講習会議事録は資料編 3 に収録した。なお、全国講習会現地視察参加者名簿は表 2—1—7 に示す。

表 2-1-5　講習会参加者数一覧

（名）

	来年度 予算等	第１ 藻場	第２ 藻場	干潟	合計 （名）
会場出席者	４７	５３	５９	４１	２００
Ｗｅｂ出席者	１１３	７９	８１	５３	３２６
合計	１６０	１３２	１４０	９４	５５１

主催者挨拶

水産庁中村課長補佐挨拶

来年度予算等説明	藻場の保全に関する政策の動向について
質疑応答	第１藻場部会
個別相談１	個別相談２

第２藻場部会

干潟部会

質疑応答

現地視察について（事前説明）

現地視察（江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト）

現地視察（諸磯藻場保全活動組織）

現地視察（城ケ島藻場保全活動組織）

現地視察（集合委写真）

図 2-1-1　全国講習会の開催状況

表 2-1-6　全国講習会現地視察参加者名簿

No.	都道府県名	所　属
1	北海道	北海道水産多面的機能発揮対策協議会
2	北海道	北海道水産多面的機能発揮対策協議会
3	三重県	甲賀地区景観環境保全会　代表
4	三重県	甲賀地区景観環境保全会　構成員
5	鳥取県	鳥取県漁業調整課　係長
6	香川県	香川県水産課　主任技師
7	愛媛県	愛媛県水産局水産課　技師
8	佐賀県	佐賀県玄海水産振興センター　技師
9	佐賀県	屋形石漁業協同組合
10	佐賀県	屋形石漁業協同組合
11	長崎県	長崎県漁港漁場課　技師
12	長崎県	有川町漁協活動組織(有川町漁協総務課)
13	大分県	大分県水産振興課　主任
14	宮崎県	日南市水産林政課　副主幹

神奈川

No.	所　属	役　職
1	神奈川県（兼）神奈川県地域協議会	主事
2	神奈川県（兼）神奈川県地域協議会	主事

水産庁

No.	所　属	役　職
1	水産庁漁港漁場整備部計画課	課長補佐
2	水産庁漁港漁場整備部計画課	調査企画係長
3	水産庁漁港漁場整備部計画課	保全活動支援係長
4	水産庁漁港漁場整備部整備課	課長補佐
5	水産庁漁港漁場整備部整備課	インターン生

共同機関

No.	所　属	役　職
1	全国漁業協同組合連合会漁政部	部長代理
2	全国漁業協同組合連合会漁政部	

事務局

No.	所　属	役　職
1	（公社）全国豊かな海づくり推進協会	専務理事
2	（公社）全国豊かな海づくり推進協会	参与
3	（公社）全国豊かな海づくり推進協会	事業推進部長
4	（公社）全国豊かな海づくり推進協会	調査役

運営編講習会

(1) 講習の目的、対象と開催日時、開催形式、講習内容

的確な事務手続きを行うための注意点や記述のポイント等を講習することのより運営面に関する担当者のスキル向上や新たに担当となった者の疑問点の解消等を目的とし、過去の講習会参加者のアンケートに開催要望があった運営編講習会を開催した。講習会の参加対象は、水産多面的機能発揮対策事業の運営業務に携わる活動組織、漁連・漁協、地域協議会、都道府県、市町村の担当者とし、地域協議会及び都道府県を通じて開催案内を行った。また、サポート専門家にも参考となることから全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会よりサポート専門家の連絡先の提供を受けて案内を行った。

講習会は令和６年７月３０日午後１時半から午後３時３０分の間、Ｗｅｂ参加のみで開催した。講習内容は水産庁担当官より「水産多面的機能発揮対策事業の運営について」として事業創設の経緯、ＰＤＡＣサイクル、会計検査関係、みどりの食料システム戦略、事務手続き関係と多岐にわたった。また、毎年長崎県下の数多くの活動組織の運営面を指導されている菅啓二サポート専門家から「サポート専門家派遣における運営面のサポート状況」として活動記録日誌、写真の撮り方、交付金申請・日当精算他書類の整理等について細部に亘って講習が行われた。

活動組織、漁連・漁協、地域協議会、都道府県、市町村の担当者及から２０９名の申し込みがあり、１台の機器で複数人視聴する場合も含めの２００件の接続があった。また、サポート専門家は海面が１２名、内水面は４名であった。Ｗｅｂ出席する際に出席者が特定できるように所属、氏名で入室するよう促したが特定できない者が６名であった。

主催者挨拶	挨拶
水産多面的機能発揮対策事業の運営について	サポート専門家派遣における運営面のサポート状況

図 2-1-2　運営編講習会の開催状況

地域講習会

(1) 講習の目的、対象と開催場所

地域協議会の要望によるテーマを絞った講習会を開催し、現地のニーズに合ったよりきめ細やかな講習による保全技術水準の向上を図ることを目的とした。

対象は活動組織構成員及び地域協議会、関係市町村及び都道府県担当者としたが、沖縄県では現在水産多面的機能発揮対策事業への参画を検討している者も対象として以下の４か所で開催した。

（１）京都府：内水面（アユ増殖）：令和６年７月２７日（土）京都府京丹後市
平住民センター

（２）北海道：藻場の保全：令和６年８月７日（水）北海道函館市
国際水産・海洋総合研究センター

（３）沖縄県：藻場の保全：令和６年９月１２日（木）沖縄県水産会館

（４）千葉県：藻場の保全（食害魚有効活用）：令和６年１０月５日（土）千葉県鴨川市
天津小湊保健福祉センター

講習目的に沿って、研究者やサポート専門家等からの講義、参考となる活動事例の紹介、質疑応答、意見交換等を行った。

特に沖縄県では、県下漁業者の関心が高い「藻場の保全と再生について」をテーマとして、沖縄県の協力も得て活動の中心となる漁協青壮年部の方々にも参加しやすいように日程等を調整した結果、４活動組織からの約３０名の漁業者が会場参加しその他、現在水産多面的機能発揮対策事業への参画を検討している多くの漁業者、漁協関係者の出席もあり~~に、~~WEB 参加を含め１２６名が講習会に参加した。

千葉県では、「食害魚の有効活用」をテーマに長崎県対馬で食害魚の活用促進に実績のある犬束サポート専門家から、資料映像を使った講習に加えて実際にアイゴをその場で捌いてもらいその後の処理を含めテクニックを披露していただいた。参加者が目を離せない充実した講習となった。

京都府では、京丹後市宇川地域平集会所を会場に、茨城県水産試験場内水面支場の丹羽増養殖部長を招き、活動組織を対象に「アユ増殖」に関する講習会を開催した。参加者は地元河川で漁を行う漁業者が中心であり、活発な意見交換が行われた。また、講習後には活動場所である宇川の視察も行い丹羽部長より現地指導が行われた。

北海道では、「藻場再生の取組」として地域協議会の道南地区の会員が集まり、北海道全域で藻場だけでなく干潟や海の安全確保まで指導されている中尾サポート専門家からコンブを含めた藻場造成について講義があり、その後参加者から活動報告が行われ充実した講習会であった。なお、各会場における出席者数は、沖縄県（会場９７名、Ｗｅｂ２９名）、千葉県（３０名）、京都府（１６名）、北海道（３３名）であり４会場で合計２０５名であった。

地域講習会は地元の希望する場所や日程に沿って調整を行い開催することが可能なので東京~~都~~等主要都市で開催している講習会になかなか出席できない方々にも講習を受講できる機会となった。また、地元の要望に即した講習内容等とすることにより、参加者が熱心に質疑応答や意見交換が行われた。各地域講習会の講師及び事例紹介活動組織を表 2-1-9 に示した。地域講習会議事録は資料編 3 に収録した。

表 2-1-7　各地域講習会の講師及び事例紹介活動組織

地域協議会	部会 テーマ	上段　講師 下段　事例紹介者
京都府	内水面部会 「アユの増殖」	講師：丹羽晋太郎氏（茨城県水産試験場内水面支場増養殖部長） 宇川のアユを増やす会（京都府京丹後市）羽賀明博氏
北海道	藻場部会 「藻場再生の取組」	講師：中尾博己氏（サポート専門家） 北海道水産多面的機能発揮対策協議会　太田剛雄氏 奥尻町産業振興課　横田稔氏 函館市農林水産部水産課　佐藤貴洋氏

沖縄県	藻場部会 「藻場の保全と再生について」	講師　川畑友和氏（サポート専門家） 　　島袋寛盛氏（水産研究・教育機構） 伊江島海の会（沖縄県久米島町）八前隆一氏 恩納村美ら海を育む会（沖縄県恩納村）上原匡人氏 久米島の海を育む会（沖縄県久米島町）譜久里長徳氏 国頭漁業協同組合（沖縄県国頭村）小甲豪氏
千葉県	藻場部会 「食害魚有効活用」	講師　犬束ゆかり氏（サポート専門家）

京都府

北海道

沖縄県

千葉県

図 2-1-3　地域講習会

(4)-1 全国講習会アンケート結果

①全国講習会アンケート結果

全国講習会の事務局、関係団体、コーディネーター、事例報告者を除いた会場出席者延べ１１８名のうち、１０９件の回答を得た（回答率９２．４％）。Ｗｅｂ出席者は１９２名のうち４５件の回答を得た（回答率２３．４％）。

全国講習会の参加者に対して実施したアンケート（図 2-1-11）の結果を示す。

令和6年度水産多面的機能発揮対策講習会　全国講習会アンケート

このたびはご多用の中、全国講習会を受講していただきありがとうございました。
参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後の講習会の内容を充実させてまいりたいと考えております。
つきましては、アンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

部　会	第１藻場部会　第２藻場部会　干潟部会	参加回数	今回を含め　　回目
所　属	活動組織　地域協議会　市町村　都道府県　その他	都道府県	
職　業	漁業者　漁協・漁連　公務員　団体職員　その他（　　）	年　齢	歳

（1）内容は今後の活動の参考になりましたか？

☐　大変参考になった　　☐　一部参考になった　　☐　参考にならなかった

理由をお書きください。

（2）今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかをお書きください。

（3）過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄等があればお書きください。

（4）今後の講習会について、講習会の開催方法等へのご要望とその理由をお書きください。

（5）その他感想・意見等をお書きください。

（6）講師に対する質問があればお書きください。(後日事務局等より回答をご連絡いたします。)

（7）所属及び氏名をお書きください。（任意記入）

※（6）で**講師に対する質問を記入された場合**は、必ず連絡先も併せてお書きください。

所　属：　　電　話：

氏　名：　　メール：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

図 2-1-4　アンケート用紙（全国講習会会場出席者用）

今年度も講習会での質疑応答時間外の参加者の疑問点に対応するため、講師に対する質問欄を設けた。

Ｗｅｂ参加者に対しては前掲の設問に加えて、Ｗｅｂ参加特有の設問としてＷｅｂ参加した理由と受講時の同一パソコン等での視聴人数についてもアンケートを行った。

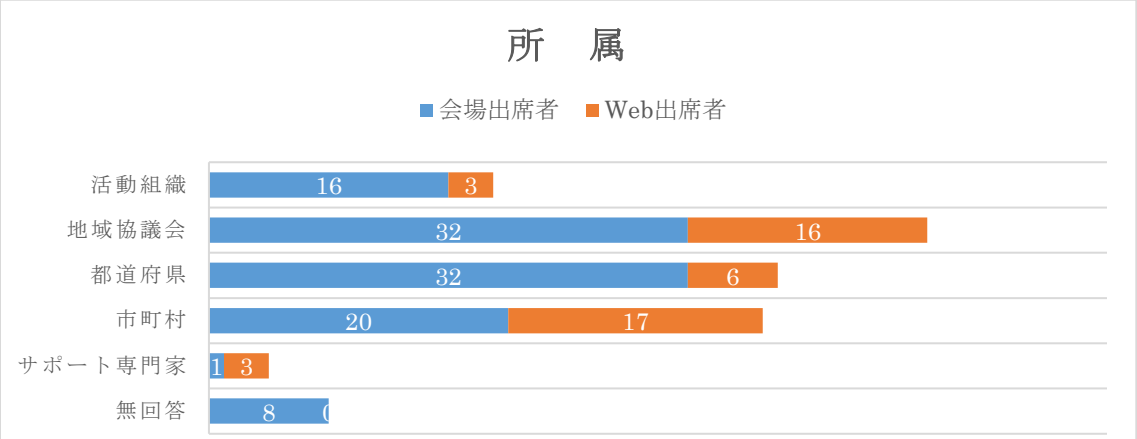
●全国講習会アンケート結果

回答者の都道府県

会場出席者・北海道１０、青森県４、千葉県７、神奈川県４、静岡県１、愛知県１、三重県１、滋賀県３、兵庫県７、鳥取県４、島根県３、広島県１、香川県３、愛媛県３、福岡県３、佐賀県１２、長崎県１０、熊本県３、大分県３、宮崎県１３、無回答１３

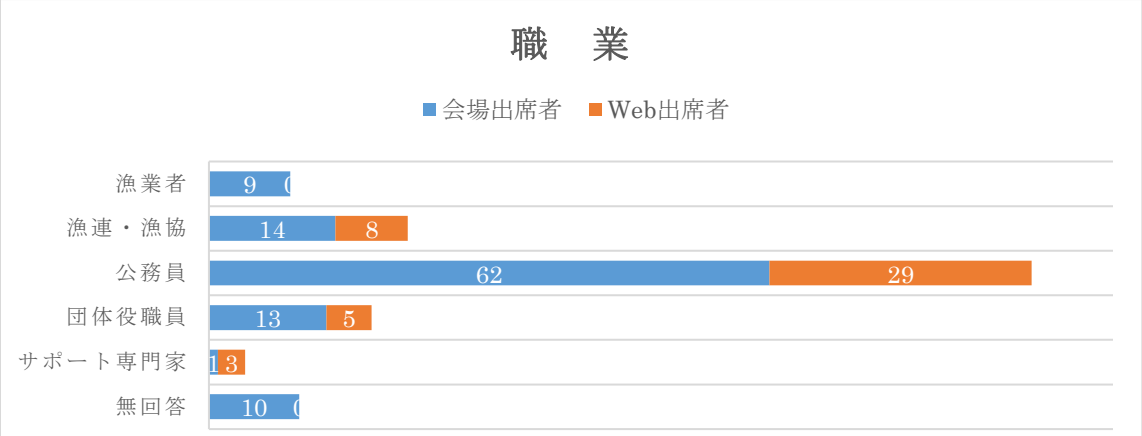
Ｗｅｂ出席者・北海道１、宮城県１、茨城県４、神奈川県１、静岡県２、三重県８、兵庫県２、広島県４、高知県３、佐賀県１、長崎県１０、熊本県１、宮崎県３、鹿児島県２、沖縄県２

回答者の所属



	無回答	サポート専門家	市町村	都道府県	地域協議会	活動組織
会場出席者	8	1	20	32	32	16
Web出席者	0	3	17	6	16	3

回答者の職業

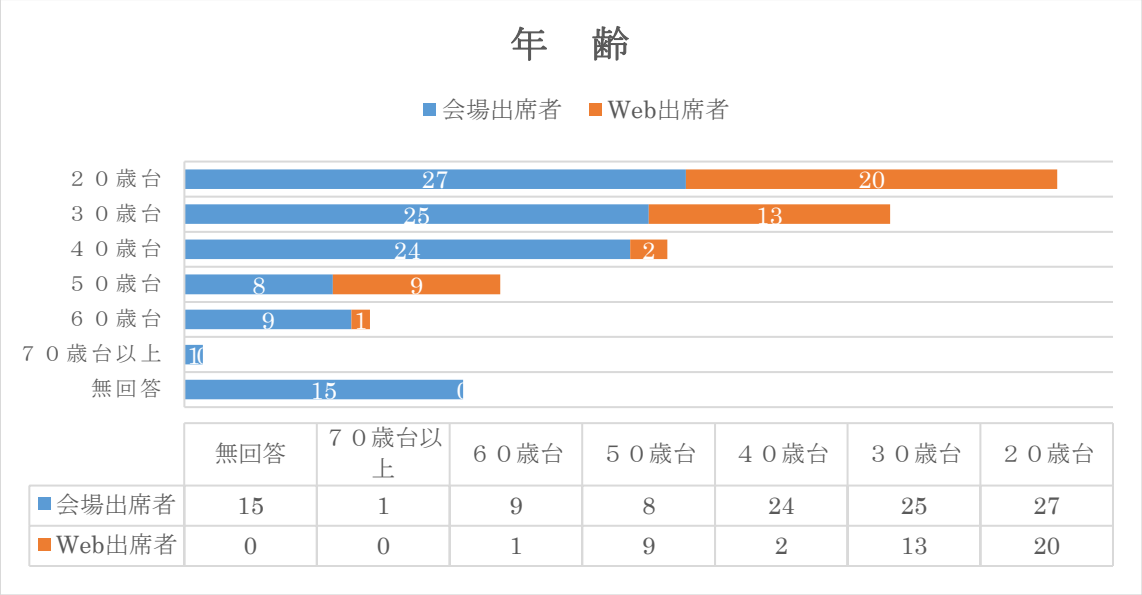


	無回答	サポート専門家	団体役職員	公務員	漁連・漁協	漁業者
会場出席者	10	1	13	62	14	9
Web出席者	0	3	5	29	8	0

名

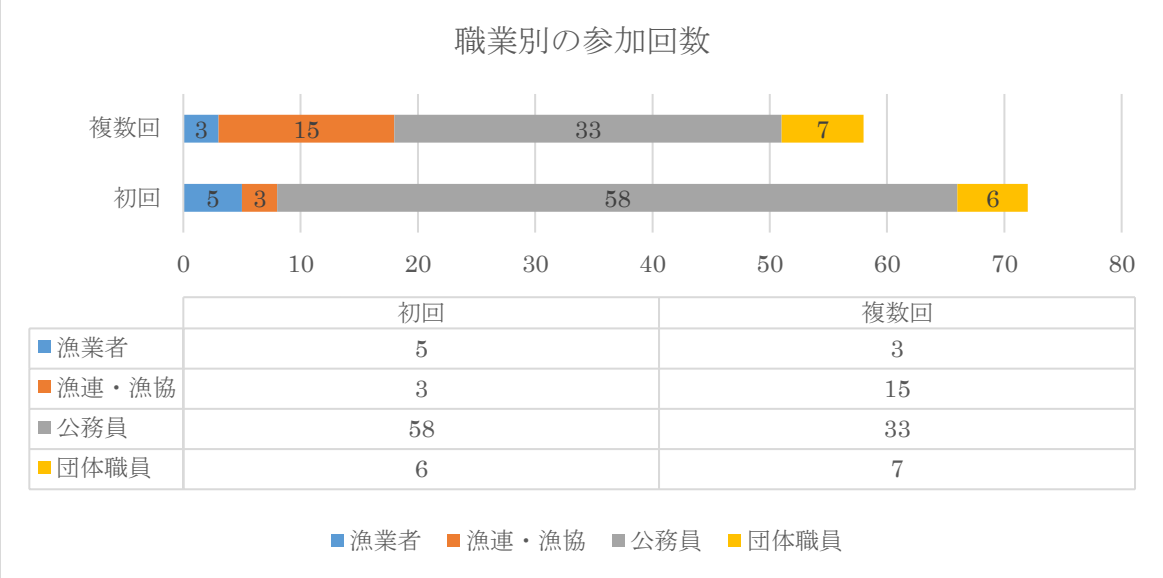
漁業者	漁協・漁連	公務員	団体職員	サポート専門家	無回答
９	２２	９１	１８	４	１０

回答者の年齢



	無回答	７０歳台以上	６０歳台	５０歳台	４０歳台	３０歳台	２０歳台
会場出席者	15	1	9	8	24	25	27
Web出席者	0	0	1	9	2	13	20

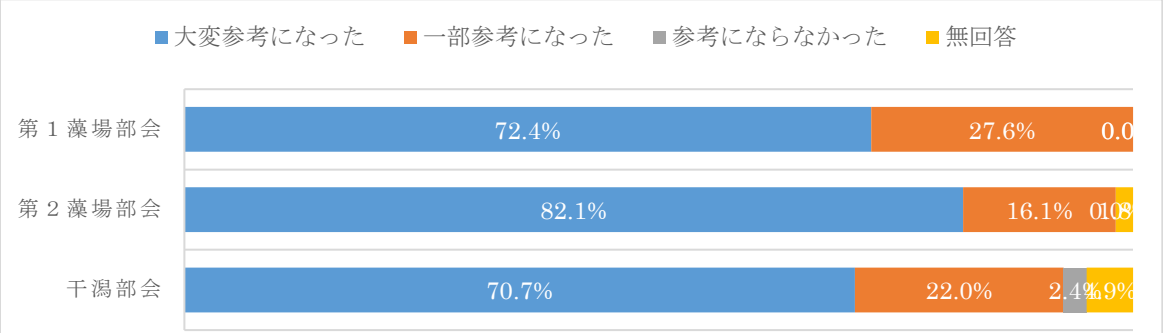
回答者の職業別の参加回数



	初回	複数回
漁業者	5	3
漁連・漁協	3	15
公務員	58	33
団体職員	6	7

無回答を除いた１３０件のうち、初回参加は７２件で回答数の５５．４％であった。また、講習会の参加者のうち最も多い職業は公務員であり、公務員の参加のうち初回の割合は６３．７％であった。

（１）講習内容について



	干潟部会	第２藻場部会	第１藻場部会
大変参考になった	70.7%	82.1%	72.4%
一部参考になった	22.0%	16.1%	27.6%
参考にならなかった	2.4%	0.0%	0.0%
無回答	4.9%	1.8%	0.0%

干潟部会で唯一「参考にならなかった。」１件２．４％の回答があったが、選択した理由として「市内に干潟がない」と回答した市職員であった。

〇第１藻場部会
大変参考になった点及び一部参考になった点
・海水温上昇した場合のハビタットマップ。
・海水温上昇に対応した磯焼け対策として将来的なハビタットマップを参考に今後の税制計画に反映させたい。
・ブルーカーボンクレジットの考え方もわかりやすく理解できた。
・高水温への対応やブルーカーボンの取組など知らない部分が多かった。
・ブルーカーボンクレジットの申請方法。
・モニタリングの種類と違いを分かりやすく学ぶことが出来たため。
・ブルーカーボン、ブルーカーボンクレジットについてわかりやすく学ぶことが出来た。
・昨年のモニタリング結果が悪く、高水温対策が課題と感じていた。
・今年度より人事異動で藻場関係の業務に携わることとなったため知識のインプットになった。
・藻場のモニタリングについてまだ実際の現場を見たことがなかったため方法等がわかりイメージしやすくなった。
・行政職員のためモニタリングの詳細な方法等は理解していなかったが理解できた。
・県内の藻場保全活動を行っている組織が多いため有力な情報を得ることが出来ました。

〇第２藻場部会
大変参考になった点及び一部参考になった点
・企業との連携を含め、時流に合った取組を先取りすることの重要性を学ぶことが出来た。
・ＳＤＧｓやＮＰ等環境社会の取組が民間企業との連携や魚価向上につながることが参考になった。
・漁師目線の話が聞くことが出来たため。
・直接漁業者の話を聞けてとても参考になった。
・熱意に感化されるとともに、具体的な取り組みをご紹介いいただくことで現場のことがイメージしやすく、参考になりました。
・コーディネーター、事例紹介者の熱量、知識の深さに驚きました。

・具体的な活動内容等詳細な情報を得られ大変参考になりました。
・網の種類により効果が異なることがわかったこと。
・鋼の精神の強さが眩しかったから。
・単に藻場を増やすだけではなく、地域の漁獲物の価値向上・維持について多角的将来的に持続可能な考え方が大変参考になったから。
・藻場造成に向けて漁業者と協議して取り組みを進めていきたいと思います。
・現在少しずつ地元の漁協が取り組んでいることの話が主だったので、是非挑戦してみたい。

〇干潟部会
大変参考になった点
・アサリが定着しない原因が不明であったので、その要因を探る方法を学べた。
・全国的に減少しているアサリなどの貝類に対するアプローチを知ることができ、駆除の方法などとても参考になった。
・検討中の海底耕耘の取組についてとても参考になった。
・耕耘の効果がよく分かった。
・耕耘の効果をしっかり確認して行くことの重要性を再確認できました。
・干潟保全の具体例を学べたとともに耕耘による漁場が改善されるメカニズムを知ることができたため。
・効果が出ている事例について詳しく説明いただき PDCA サイクルの重要性等改めて学ぶことができました。

一部参考になった点
・現在、干潟自体、存在しない為。
・地元では干潟の活動はやっていないが、原因の分析、対策など共通する部分が多かった。
・活動組織の状況とあった内容とそうでない内容があったため。
参考にならなかった点
・当市は干潟がない。

（２）今回の講習会で得た知識、技術等の活用について
〇第１藻場部会
・組織へ情報共有し効果的なモニタリングの助言等を適宜行います。
・当県の協議会の運営及び活動組織の活動見直しをする際に参考とします
・来年度以降の実施計画を策定する際に活用したい。
・漁協・活動組織に共有し、今後の活動内容の見直しに活用します
・管下の活動組織へ周知し必要に応じて講師の方に追加情報をご教授いただくようにしたい。
・活動組織よりブルーカーボンについて問い合わせがあるためその際に使用したい。
・クレジット申請する際は面積、吸収係数を精度良くするよう指導していく。
・活動組織へのサポートに活用。
・高水温対策方法の検討を各活動組織に伝える。
・活動組織構成員等に対し再周知し、事業の適切かつ能率的な遂行に寄与したい。
・活動組織との情報共有をして活動促進を図る。

〇第２藻場部会
・網仕切りによる手法で考慮すべきことのアイディアがあったので網の素材や防汚剤等検討し導入したい。

・地元の活動組織は高齢者しかおらず今後の課活動の継続も危ぶまれる状況なので今回の話を基に若手の参画を促したい。
・藻場再生が地域ブランド化につながる可能性があることを伝えたい。
・民間と連携した活動の方法があるということを県内漁業者にも普及していきたい。
・現場の意識醸成に向け参考にさせていただきたい。
・ほとんど書類上でしか関わってなかったのでもう少し深く活動に携わっている方に関わりたいと思いました。
・同じ佐賀県の近場の漁場でされていることなのでまず見学させてもらいたい。
・活動組織の熱量は様々ですが、まずは１点でも核を作っていく、協定範囲外に藻場がある場合には、その部分も維持しつつ展開していく方法を取りたいと考えます。

〇干潟部会
・活動組織に共有し、活動内容の見直しを検討したい
・今年度初めて耕耘を行っており、目に見える成果の形として今回の資料を漁業者に共有したい。
・モニタリングの方法について検討してみたいと思いました。
・耕耘の時期。
・今後の活動組織への指導に役立てたい
・活動組織の活動内容の見直しに考え方を活かしたい。
・施肥材。
・当漁協では底曳き船を所有している漁業者も多数操業しているので台風で土砂が堆積した場合に同じ様に活動を行ってもよいのかと思った。
・耕耘の効果の見せ方など参考にしていきたい。
・耕耘を実験的に漁場で活用してみたい。
・県内の除去する生物の増減傾向でも同様に推測ができそうだと思う。

（３）過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄があればお書きください。
〇第１藻場部会及び第２藻場部会
・景観被度によるモニタリング。
・アマモの播種マットによる移植の技術について管下の活動組織に周知した。
・食害生物の除去。
・ウニ密度を考え駆除する。
・徹底したウニ駆除の助言。
・スポアバック。
・活動記録のチェック体制とチェックリスト。
・活動組織を訪問した際に、他地区の組織の取組内容や新たな技術等について情報を提供し、自分たちの取組の点検、または参考にしてもらっている。
・テキスト及び講義内容について活動組織に周知した。

〇干潟部会
・クロダイよけの囲い網を開けてアサリの着底調査を行いました。結果はよくないです。
・講習会で得た情報について管下の活動組織へ共有した。

（４）今後の講習会について、開催地や講習内容等のご要望とその理由について。
＜開催地について＞
・県内の活動組織に参加してほしいので福岡県でも開催してほしい。
・兵庫県で開催して頂くことがあれば、会場参加を検討できるので要望します。

・毎年、東京なので持ち回りで他県開催でも良いのかと思う、その県が気になれば直接伺う事も出来る、茨城県、千葉県、静岡県、愛知県を要望します。
・Ｗｅｂとのハイブリッドであれば場所はどこでも。
＜講習内容について＞
・専門家の活用方法、活用事例についての解説
・貴重な経験が出来る機会となるため引き続き現地視察も組んでもらえるとありがたい
・失敗例、成功例をとりいれてほしい。
・成果が出ていないうまくいかない活動組織の発表があってもいいかとおもいます
・藻場・干潟面積拡大事例の紹介
・水中ドローンの活用法。
・ブルーカーボンのクレジット譲渡についての事例など。
・施肥の実施の取り組み
・国の見解や事例紹介をお聞きできる貴重な機会でした。今後も同様に最新の情報をお聞きできれば幸いです。
・現場の最前線で取り組みされている漁業者様の生の声が聞けると大変参考になります。
＜講習形式について＞
・今のままでよい。
・Ｗｅｂ開催はとても広い範囲の参加者を募れるため今後も是非継続していただきたい。
・全会場参加したいが業務の都合により会場へ出向けないことがあるため、今後も会場参加とＷｅｂ参加の２本立てで開催してもらいたい。
・藻場・干潟に関する重要度が高まっているためとは思いますが、他の活動メニューに関する講習会開催も検討いただきたい。
・今回の開催方法は参加しやすかった。
・今年度は東京開催のみになっているが、スケジュールの検討がしやすいため、次年度以降も同じだとありがたい。
＜その他＞
・急用等で参加できなかった場合、後日録画等を閲覧できるとありがたい
・開始時間を１時間程度遅くしてほしい。
・質問者が前に出ないといけないので気軽に質問できない。

（５）その他感想・意見等について
〇第１藻場部会
・食害生物の除去をもっと頑張りたいと思った。
・干潟部会に今回は参加しませんが事例発表を参考とさせていただきます。各資料の Web 公開も一般的に行っていただき共有しやすく助かっております。
・ブルーカーボンについては譲渡先となる民間企業がどこまで価値を見出すことができるか課題と感じた。
〇第２藻場部会
・リーダーとなる漁師の存在が重要。
・漁業者、活動者の意識改革が大きな課題であると改めて考えました
・もっと多くに漁業者に聞いてほしかった。
・広い観点から沢山トピックスを交え活動実施者からの話が聞けてとてもよかった。漁業種類や海域特製の話もしながら講演していただいたので、本県とも比較しやすくとても有意義な時間になりました。
・全国の方が集まる機会なので情報交換にも活用したいので、出来ましたら座席を指定席にするなどして参加者がどこにいるのかわかるようにしていただきたい。
・今までの講習会の中でも特に盛り上がったように感じました。

○干潟部会
・片山コーディネーターの説明がわかりやすく面白いお話でした。
・アサリの生活史を示した方がよい。それを意識した対策を開設するとよい。

（６）講師に対する質問について
○第１藻場部会
・北海道水産多面的機能発揮対策協議会
カーボンクレジット壱岐市等について、活動前の海藻量をゼロとして算定しているのか教えてほしい
・齋藤氏
壱岐市のベースラインの設定方法は、令和元年度の既往調査結果を使用し算定しています。

・愛知県水産課
公募によるクレジット譲渡の平均単価は約８万円/ｔCO2 と公表されておりましたが、申請団体の目標とする費用が得られた組織はどの程度なのか教えてほしい。また、申請までの費用と利益のバランスについて申請を検討する際に留意する点があれば教えてほしい。
・齋藤氏
ブルーカーボンクレジットの申請を実施した３団体で、目標の資金を手に入れられた団体はありませんでした。また申請に必要な費用と利益とのバランスですが、高度な技術を使った調査を実施すればそれだけ確度が上がり申請できるブルーカーボン量が増え、クレジットの獲得数も多くなりますが、調査費用が多くなるとそれだけ手間が増えますので、できる範囲で最初は申請してみることが大事かと思います。

・長崎県漁港漁場課
ブルーカーボンの取組事例について、３市町での申請までに要した費用を教えてほしい。
・齋藤氏
３団体での申請に際し必要な人件費および調査・解析費を合算した費用は長崎県壱岐市５００万円、神奈川県横須賀市１４０万円、北海道積丹町１７０万円です。なお初回の申請となり手間取ったところもあり、高額となりましたが慣れれば効率よく申請ができると考えられます。

○第２藻場部会
・長崎県漁港漁場課
企業との連携に関してどのように働きかけをしたのか教えてほしい。
・川畑氏
青年会議所の取り組みの一環として SDGs 推進という項目がありました。１４番目を解決するためにはどうしたらいいか？と相談を受け、参画してもらうことになりました。その活動に参加している方々から知り合いを紹介していただき、紹介いただいた企業を訪問、活動紹介をしながら進めています。

・北海道水産多面的機能発揮対策協議会
食害対策ネットについて拡大の方向性と時化による被害について教えてほしい。
・川畑氏
魚類の食害に負けない分布域をどこまで作ればいいかわかりませんが、拡大する計画です。設置している場所が内湾ということもあり、時化の被害はありません。しかし、

台風には耐えられないですが、春藻場なので、台風シーズンは種や胞子の状態なので被害はありません。海藻海草の生活史に合わせて１１月から翌年 7 月までの９ヶ月間、囲い網を設置しています。

・長崎県水産部漁港漁場課
仕切り網の岸川部分について水面の上に上げても擦れたり破れたりしないか教えてほしい。
・川畑氏
海中に設置している部分に比べて摩耗は早いです。それを考慮して、なるべく安く網を仕立てています。本網となる部分は定置網の技術を採用していますが、岸側に関しては刺し網のような簡易な作り形にしています。

・香川県水産課
Ｊブルークレジットの話を差しさわりのない範囲で教えてください。
・川畑氏
講習会の中で、クレジット取引は共感や感銘を受けた企業が資金面で活動を応援すると話しました。このことから言えることは、現在水産多面的で活動し再生、造成された海藻海草場はＪブルークレジットの申請をしても良いとなっています。クレジットとして高く販売するためには水産多面的で活動しているということを極力抑えてプレゼンした方がいいと思います。活動に対しての協力金ですので、すでに国から補助金が出ているから、そんなに高くなくてもいいのではと思われてしまいます。

◆全国講習会Ｗｅｂ参加受講理由
・回答数４５件の中で２４件が「会場までの移動時間や交通費がかからない」「手軽に参加出来る」の両方を選択し、１３件が「会場までの移動時間や交通費がかからない」８件が「手軽に参加出来る」を選択していた。

◆全国講習会Ｗｅｂ参加者受講形式
・回答数４５件の中で４２件（９３．３％）が個別受講であり、複数受講は３件（６．７％）であり、そのうち２件が２名、１件が４名での受講であった。

(4)-2 運営編講習会アンケート結果

１００件の回答を得た。

運営編講習会の参加者に対して実施した下記アンケートの結果を示す。

設問１受講者についてお聞きします。お住まいの地域を選択してください。

設問２受講者についてお聞きします。所属をお選びください。その他を選んだ場合は右側に所属をお書きください。

設問３受講者についてお聞きします。年齢をお選びください。

設問４受講者にお聞きします。個別受講もしくは複数で同一パソコン等で受講した人数をお選びください。

設問５講習会についてお聞きします。講習会の内容は今後の活動の参考になりましたか

設問６前問の回答を選んだ理由をお書きください。

設問７今回の講習会で特に参考になった内容をお選びください（複数選択可）

設問８運営編講習会の開催についてお聞きします。今後の講習会の講習内容等要望とその理由をお書きください

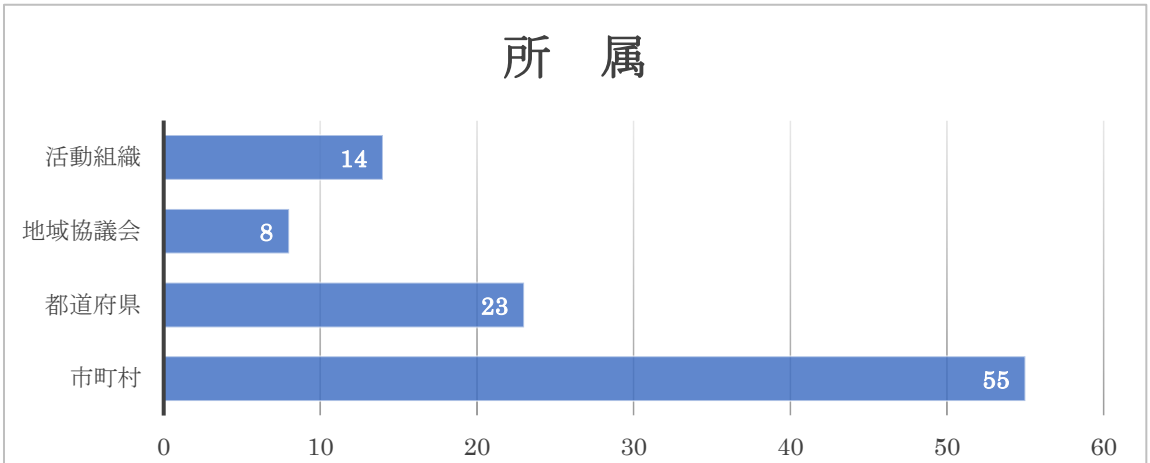
設問９その他感想やご意見や質問がございましたらお書きください。

設問 10 受講者についてお聞きします。所属及び名前をお書きください。（任意記入）質問には後日回答いたしますので、所属、名前、電話番号、メールアドレスを必ずお書きください。

回答者の都道府県　４２道府県

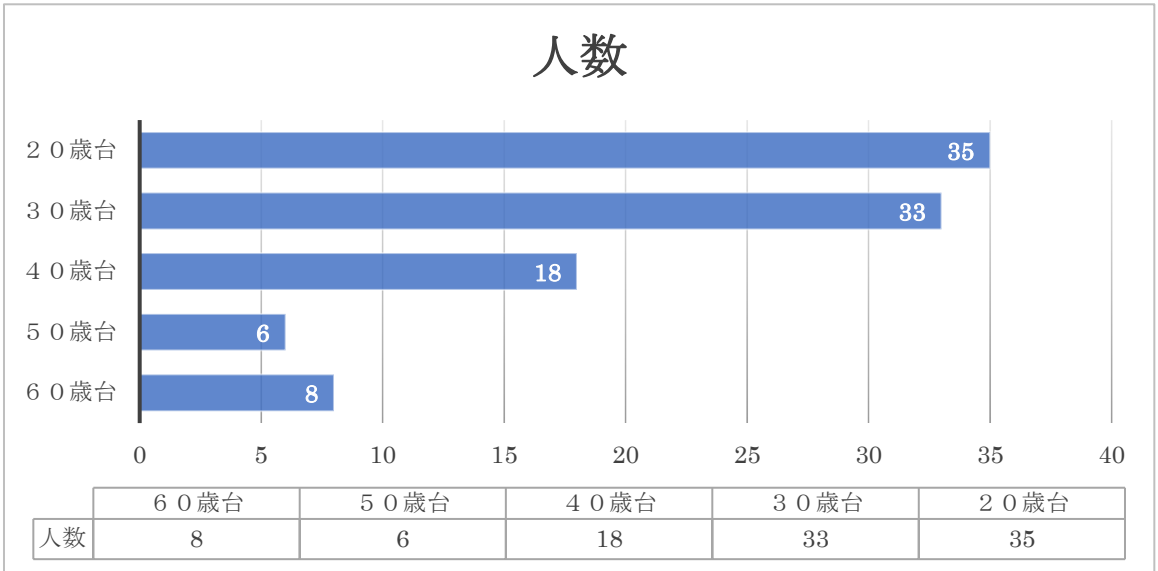
北海道１１、岩手県２、宮城県１、秋田県２、山形県２、福島県１、茨城県３、千葉県４、神奈川県１、富山県１、福井県５、静岡県２、愛知県１０、三重県６、滋賀県２、京都府３、兵庫県１０、島根県２、広島県１、山口県３、徳島県２、愛媛県３、高知県２、福岡県２、佐賀県４、長崎県７、熊本県１、大分県３、宮崎県２、鹿児島県１、沖縄県１

回答者の所属



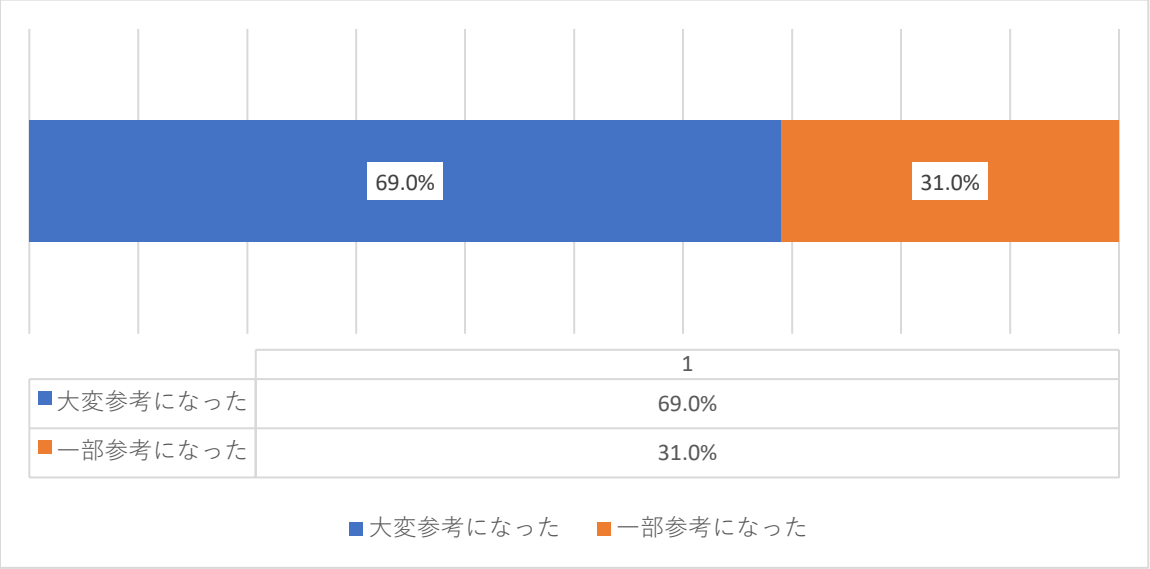
	市町村	都道府県	地域協議会	活動組織
出席者数	55	23	8	14

回答者の年齢



	６０歳台	５０歳台	４０歳台	３０歳台	２０歳台
人数	8	6	18	33	35

（１）講習内容について



（２）回答を選んだ理由について

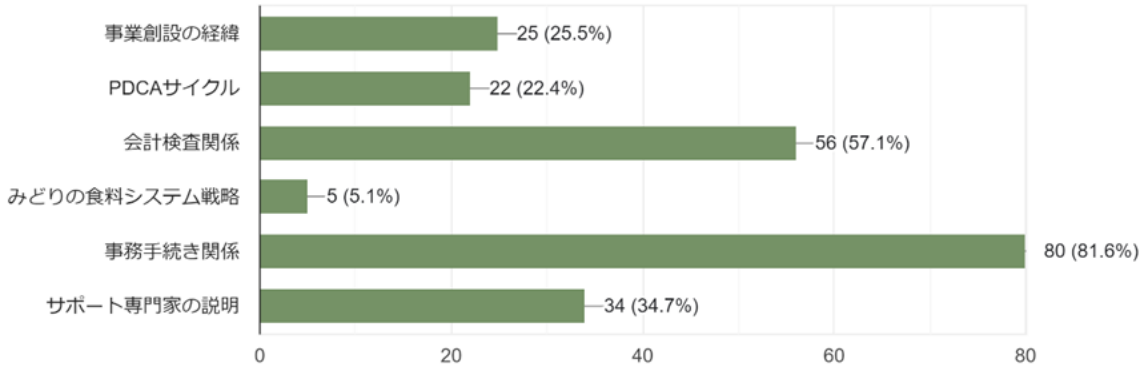
・今年度から担当者になったため
・４月に水産課へ配属したばかりだったので、事務作業を理解できていなかったため。
・今年度より配属となり水産多面事業について理解が深まったため
・私が水産多面的機能発揮対策の担当になって日が浅いので、今回の講習会で活動についての流れ等について知ることができ、大変参考になりました。
・６月から協議会担当となり今後の事務処理に大変参考になりました。
・今年度より担当となったが、事業全般についての理解が深まったため
・今年から担当となったため、書類の作成方法などが参考となった。
・初めて担当する業務なので、マニュアルの配布などありがたい講習会だと感じたため。
・多面的事業について引継ぎをこれからうけるので知らないことが多く、説明が分からない部分もあった。
・多面事業の初任者のため、要注意点、記述のポイントなどを教えていただけたのは助かった。

・今年から担当になり、分からない点も多かったので、非常に勉強になりました。
・今年度より本事業を担当しているため
・今年からの担当のため、引継ぎ資料から読み取れなかった基本的事項を知ることができた。
・異動してすぐの講習で内容的にもわかりやすかったため。
・今年度より本事業担当となったため
今年度から担当となり、年間の業務スケジュールを踏まえて注意点等を事前に聞くことができたため。
・今年度より担当になった者だが、既に行った申請書等の事務処理で手戻りが多く発生していたため、今後の実績報告に向けての注意点等が説明されていたのが大変参考になった
・はじめての担当なので、自分の理解が足りていないと感じた。
・今年から担当になり、分からない点も多かったので、非常に勉強になりました。
・初めての参加だったため、理解が追いつかない内容もあった。
・担当１年目でわからない部分が多いのでいろんなケースの紹介もあって勉強になった。
・まだ、活動を実施していないため重要な箇所が不明だった
・改めて事業等の確認ができたため。
・運営上の手続きの再確認ができたため
・細かい部分で把握しきれていない部分があったので知れたこと。
・協定市町村として、負担金の支出以外での事業への関わり方が少し曖昧であったが、役割や事務処理等について具体的に説明を受けることができたため。
・基礎を再確認できた。
・基礎の交付事務手続きについて再確認できた
・作成している資料に不足部分がある事を認識出来ました。
・理解が不十分であった部分等について、理解を深めることができた。
・申請書類の書き方やポイントなどが詳しくわかり、勉強になりました。
・事業の経緯等参考になった。
・当市と国や県で考えている役割分担が大きく異なることがわかった。
・テキスト等だけでも必要作業は確認できるが、今回の講習会に参加したことで水産庁やサポート専門家の考え方を踏まえながら理解することができたため。
・ひとうみ.jp の存在、会計検査の情報、申請関係の注意事項など
・水産庁としての考え方が分かった
・事務手続きでどのような点に注意すべきか、参考になったため。
・会計検査などで指摘される事項などを押さえることができた。
・最近の会検の質問事項が参考になり、また、市町村の役割に活動組織の適正な収支実績を検証することも含まれるとご説明いただいたため。
・日誌作成時の注意点など具体的で参考になりました。
・地域協議会向けの内容が多かったが、書類を作成、確認するときの参考になった。
・記載例など説明がわかりやすかった。
・分かりやすい説明でした。
・様式ごとに具体的な留意事項が列記されていたため。
・想像していたよりも細かい資料の書き方なども解説していただいたため。
・水産庁から、テキストの解説を受けたこと
・活動記録などの記載方法について細かく解説していただき理解が深まった。
・自分が理解できていないこともあったがこの場で理解することができたから
・事務処理方法について、今後の参考になる情報があった
・実際提出する必要がある書類を用いての説明や、写真の撮り方まで丁寧にご教示いただきとても勉強になりました。
・活動組織資料の書き方や注意点等、活動組織向けの内容が参考になった

・水産庁や会計検査院からの視点による留意点等の説明があったため
・運営上のスケジュールの提示、書類の標記の注意点、事業の概況など大変参考になった。
・自分の勉強不足もあったが、細かい事務手続きについて学ぶことができた。
・確認し易い日誌、写真帳の作成について伺う事が出来たため
・書類の整理方法や注意事項について改めて理解することができたため。
・市町取り扱い事務についてもっとお伺いしたかった。
・事業の目的など改めて確認することができた。
・市町村としての役割を認識できた
・事務手続きの要点が分かった。
・直接話を聞くことで水産庁（補助を出す側）の考え方や意図が伝わり、書類作成時に参考になったから
・理解している内容の復習のような感じだった。
・事業の仕組みや書類の様式、および事務上の注意点について具体的なイメージを持つことができたため
・書類の作成方法等の確認ができた
・実績書類の確認方法について、どこを確認すればよいか分からなかったので助かりました。
・各提出資料の記載すべき内容が整理しやすかった。
・事務手続きついて参考となった。
・市町村との関係や会計検査での指摘事項等が理解できたため。
・この事業の目的や概要、事務手続きにおける留意点等について参考になったから。
・活動の再開にあたり、有益な情報を得ることができたため。
・運営編につき、活動団体の内容が主であったため。
・講習内容にあった事業の全てを実施していないため
・事業の基本的な解説に加え、事務における注意点等を細かく記載してくれていたため。
・説明が丁寧だった。
・テキストを見てわかること以外の説明ももう少しあればよかった。
・こちらの端末やネット回線の問題かもしれませんが、説明が途切れ途切れになったり、アプリが読み込み状態（一時強制退席？）になったりして一部しか聞き取ることができなかったため。
・説明が少ないように感じた。

（３）特に参考となった内容について

特に参考になった内容について（複数回答可）



（４）今後の講習会に対する要望等について

・事務上の注意すべき点を教えていただきたいです。
・担当者が変わりやすい年度開始時期にも開催してもらえるとありがたい。あとは録画を後日公開してもらえると見返せて参考になる。
・担当者が代わるので、同じような内容でも毎年開催してほしい。
・他の活動組織との情報交換、意見交換等の交流等もできればしたいなと思っておりますのでWEBではなく会場での開催をして頂けたらと思います。
・今回の内容を毎年行うことが必要ではないでしょうか？活動団体の事務員が変わったり、関係各所の担当が変わったりすますので、今回の内容は毎年行うか、映像や資料を常に見られる環境を作られることが望ましいと考えます。
・水産多面的機能発揮事業の事業内容についてもう少し説明があれば嬉しい。
・意図が伝わり修正が少なくなると思われるので、書類を提出する前の時期にその書類について行ってほしい。
・今回のような、運営事務に関する説明会はWEBで構いませんので定期開催していただけると良いかと思います。特に行政では異動などで良く担当者が変わるので、事業の体系的な理解に役立つと思います。
・WEB開催であれば出張の手間がかからないが、質問はしづらいように感じた。
・講習会をもう少し早い時期に行ってほしい。 行政担当者は数年で異動することから、初任者方向けに５月頃までに講習を開催してほしい。関係法規、役割分担、実務スケジュール、実務詳細について丁寧に説明してほしい。
・会計検査関係
・会計検査関係の質疑事例等について知りたい。
・会検関係、事務手続き関係は今後も定期的に講習いただきたい。
・会計検査関係 業務に関わる部分であり、注意しなければならないため
・会計監査関係は知っておきたいことが多いので、講習会がある際はまた聞きたいです。
・会計検査の指摘等時事的な内容が多ければ、講習会をしていただければありがたい。
・今後も会計検査の指摘事項等についての情報提供をお願いしたいです。
・活動組織(特に新規)が参加しやすい講習会があればうれしい。 新規活動組織や新規配属職員には、書類や支払関係(何に支出できて、何に支出できないかなど)のハードルが高く、正直テキストや要項を読んでも理解しにくいことが多い。
・モニタリング結果の取り扱いと評価方法　決して多いとは言えない、藻場の被度や釣獲尾数の調査結果だけで、機械的に評価してしまうことは心配である。もっと、細やかな評価方法があっても実態に即するのではないかと考える。
要綱や運用に変更があった場合はその説明があれば、文書だけで見るより理解しやすいと思います。
・会場までの移動時間がなく参加し易いので、今後もウェブ開催でお願いします
・事業評価の記載について詳細なもの
・来年度についても担当者の異動が予想されるため、今回同様基本的な手続き等を再確認できる内容の講習会実施を希望する。
・書類や概算払い、活動費など、ダメな事例を挙げていただけますとありがたいです。
・同様の内容で毎年担当者に対して開催してほしい。
・同様の内容を毎年継続してほしい。
・手続きなどのミスを減少させるため定期的に運営事務について講習会を行う。

・今回の受講は事業の仕組みや事務手続きを学ぶ上で大変勉強になりました。 今後とも同様の講習会がありましたら積極的に参加したいと考えています。
・５ヵ年計画などの大きな区切りの前後で、必要な事柄について。
・先進地の例などを聞き、参考としたい。
・モニタリングの仕方
・「モニタリング結果整理表」の書き方
・藻場造成に有効な方法
・今年度から干潟等の保全で耕耘を行なっていますが、 参考になる活動組織の取組をＤＶＤ等で紹介して頂けると勉強になるかと思います。
成功事例の紹介　理由：県協議会でたまに藻場保全活動の効果を疑問視する意見が出ることがあり、より効果的な取組があれば参考にしたいと考えているため。
・活動組織(漁協）の活動内容を参考としたい。
・修正の多い書類や項目を良い悪いの具体例を例示しながら説明していただきたい
水産多面的機能発揮事業による、漁業への効果について。事務の重要性等を再度認識するため。
・次期事業への切替え手続
・講習会の中で時間があれば、書類を確認する事務や修正する事務の流れを、サンプルを用いて実際にやってみてほしい。実践的な経験が積めると思う。
・講習テキスト（運営編）のみでは理解できない部分や記載されていない内容が講習会で示され理解できたので今後も変更点や留意点等を中心とした内容についての開催を要望する。
・今後の事業の執行や検査対応のため、テキスト（運営編）の Q&A や会計検査関係の内容を要望します

（５）その他感想・意見等について

・今回は壱岐市役所にて壱岐市水産課と一緒に聞かせて頂きました。 細かい部分でまだ把握できてない部分等を今回の講習会で学ぶことが出来て良かったです。所属：石田地区活動組織 石田町漁業協同組合
・今年度から水産多面的機能発揮事業の担当者となり、事務手続きの不安な点がありましたが、今回の説明で理解できるところも多く助かりました。ありがとうございました。山口県 阿武町役場　農林水産課
・企画、運営等大変お世話になりました。勉強になりました。ありがとうございました。
大変勉強になりました。ありがとうございました。
・みどりの食料システム戦略について、内水面としてどのような活動を期待されているのか想像がつかなかったので、具体例など活動の内容の一例を表示していただけると助かります。愛知県内水面漁業協同組合連合会
・市町村職員及び漁協職員は、定期人事異動などがあるため定期的な事務運営講習は必要であると感じている。壱岐市農林水産部水産課
・受講していない活動組織・市町村等の担当者にも内容を共有します。この度はありがとうございました。島根県沿岸漁業振興課
・WEB 講習の方が参集しやすいので、この方法で引き続き開催して欲しい。福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会
・とても勉強になりました。今後活動を円滑に進めるためにも、協議会と協力して運営事務を進める必要があると改めて感じました。三重県水産基盤整備課
・担当者に入れ替わりが多い４月に開催いただけると、助かります。大分県水産振興課
・旅費が捻出できない活動組織や関係機関担当者が参加可能になって大変良かったと思います。愛知県　農業水産局水産課

・事務手続き関係の注意事項など参考になった。西二見漁業協同組合
・講習時期について 前年度のテキストでもよいので、もっと早い時期（事業開始前、各種報告前、4 月～6 月ごろ？）に開催したほうが良い内容だと感じた。 また、もっと早めに開催日程を通知するか、「テキスト配布後に講習会の開催を予定している」とあらかじめお知らせするにしてもより具体的に時期を提示していただけると助かる。日程の通知から開催まで 3 週間切っていると、調整が難しい。このあたりの時期は協議会総会もある。神奈川県地域協議会
・可能であれば開催時期がもう少し早ければより効果的だと考えます。 （異動により新たに担当になった職員が、より適切に運営・事務を行うため）高知県水産業振興課水産物外商室
・講習会の開催ありがとうございました。市町村等、行政に対して構成員としての役割の話をしていただけたのはありがたかったですが、肝心の対象者が参加していない場合もありますので、対象者への参加の呼びかけについて協議会も連携して事前にきっちりできれば良かったかと思いました。
・漁協組合員の高齢化、と減少が進む中、水産多面的機能発揮対運営向上方法などの情報寒狭川下漁業協同組合　代表理事組合長
お忙しいところありがとうございました。こちらの運営編は今後も継続する価値があると思います。
・組織の構成員の減少や高齢化が目立つ中で、事業運営や事務処理に係る規準（会計検査等を踏まえた）が年々高くなっていることに伴い、事務局としての取りまとめも難しくなっている（組織にどんなデータを求め、どこまで確認すればよいのか？）のが現状である。講習会テキストに記載された協議会への報告書類だけでは、支出の詳細まで確認できない。
・水産多面的機能発揮対策事業は、第 4 期も継続予定なのか？カーボンクレジットについて、本事業の補助を受けていても取得等に問題無しとの事務連絡はあったが、今後要綱（様式）等にこれに係る内容や規約等は示されないのか? 自己評価において目標値を下回った場合の原因として、地球温暖化（海水温の上昇）が最大要因と考えられる場合に、どんな改善策があるのか? 山口県水面活地域協議会事務局（山口県栽培漁業公社）

◆Ｗｅｂ参加者の受講形式
・回答数９９件の中で９０件（９０．９％）が個別受講であり、複数受講としては７件（７．１％）が２名での受講で２件（２．０％）が４名での受講であった。

(4)-3 地域講習会アンケート結果

地域講習会（京都府）の講師、事務局を除いた会場出席者１３名のうち、７件の回答を得た（回答率５３，８％）。

地域講習会（京都府）の参加者に対して実施したアンケート（図 2-1-12）の結果を示す。

令和6年度水産多面的機能発揮対策講習会　地域講習会アンケート

このたびはご多用の中、地域講習会を受講していただきありがとうございました。
参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後の講習会の内容を充実させてまいりたいと考えております。
つきましては、アンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

京都府
京丹後市

部　会	内水面（アユ増殖）	所　属	活動組織　地域協議会　市町村　都道府県　その他
職　業	漁業者　漁協・漁連　公務員　団体職員　その他（　　）	年　齢	歳

(1)　内容は今後の活動の参考になりましたか？

□　大変参考になった　　□　一部参考になった　　□　参考にならなかった

理由をお書きください。

(2)　今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかをお書きください。

(3)　過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄等があればお書きください。

(4)　今後の講習会について、講習会の開催方法等へのご要望とその理由をお書きください。

(5)　その他感想・意見等をお書きください。

(6)　講師に対する質問があればお書きください。（後日事務局より回答をご連絡いたします。）

(7)　所属及び氏名をお書きください。

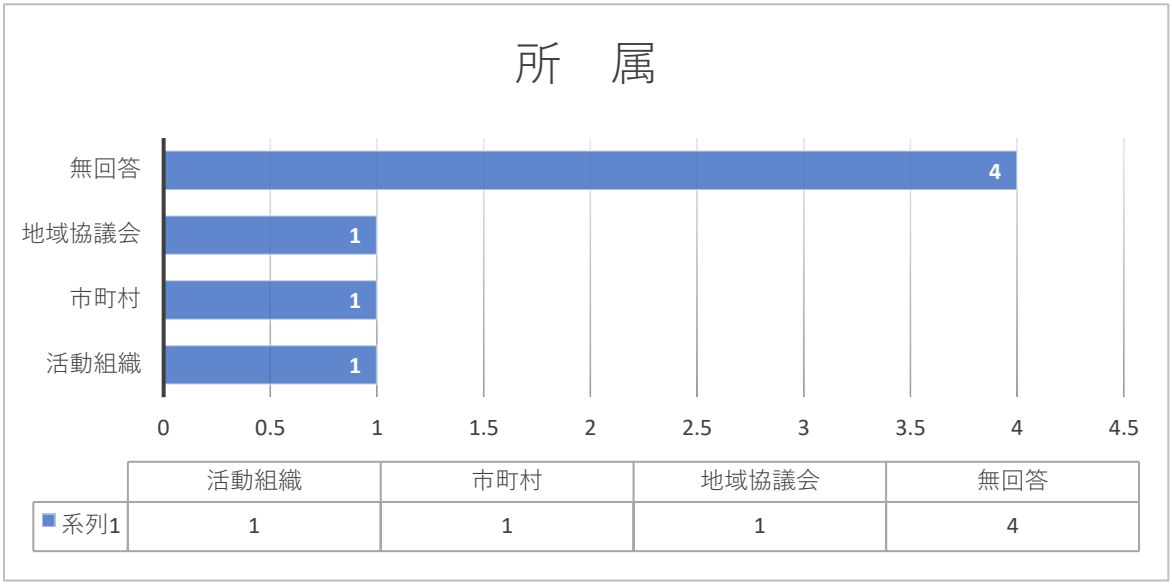
所　属：

氏　名：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

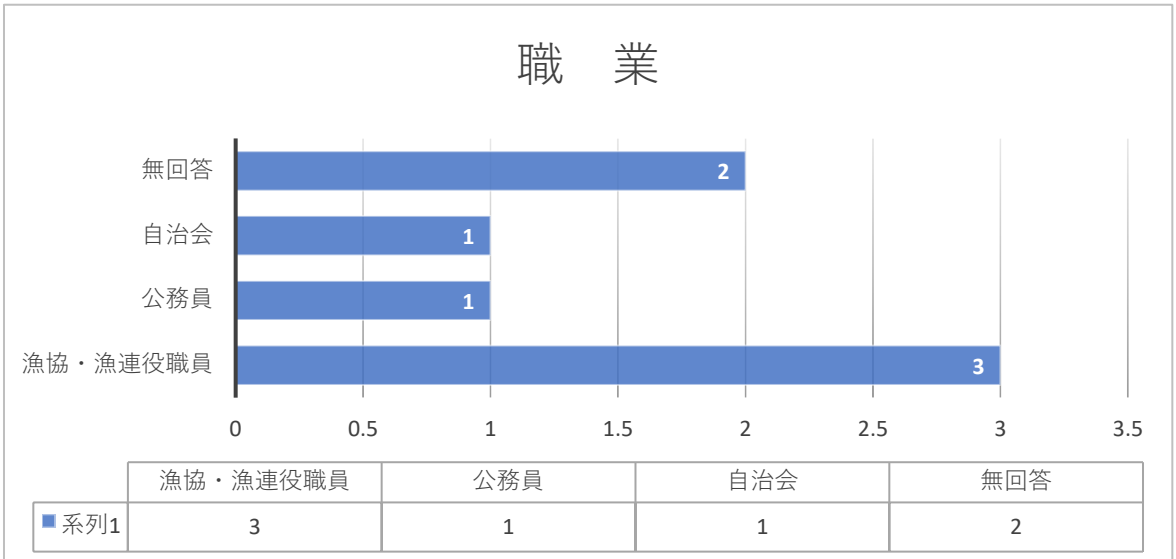
図 2-1-5　アンケート用紙（地域講習会（京都府））

回答者の所属



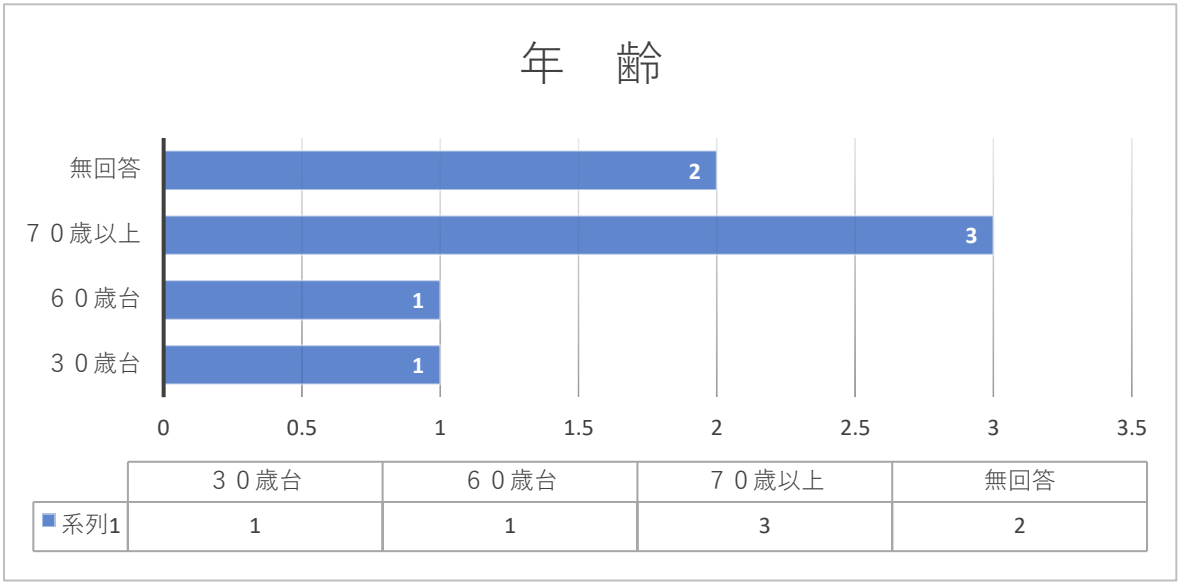
回答者の所属は活動組織１名（１４．３％)、関係市町村１名（１４．３％)、地域協議会１名（１４．３％)、無回答４名（５７．１％）であった。

回答者の職業



回答者の職業は漁協・漁連役職員３名（４２．８％)、公務員１名（１４．３％)、自治会１名（１４．３％）無回答２名（２８．６％）であった。

回答者の年齢



回答者の年齢は３０歳台１名（１４．３％)、６０歳台１名（１４．３％)、７０歳以上３名（４２．８％)、無回答２名（２６．６％）であった。

（１）講習内容について

回答者の８５．７％６名が大変参考になった。１４．３％１名は一部参考になった。参考にならなかったとの回答者は０名であった。

大変参考になった点
・最新の研究や取組について知ることが出来た
・大変興味の深まるお話でした

（２）今回の講習会で得た知識、技術等の活用について

・宇川の環境保全に役立てたい
・活動組織が予定している河床耕耘に本日の講義の内容を活かし活動支援をしたい
・産卵場造成にヒントになる話が多かったので今後に活かしたい

（３）その他の感想や意見について

・宇川のアユ他生態系の保全のため河川環境診断をしてほしい

・一般の住民の参加も検討してほしい
・地域に来ていただき講習していただきありがとうございます。
（５）講師に対する質問について（未回答）
小倉伸氏
遊漁者が増えると河川周辺の環境が悪化する面があり地元パトロール清掃等の課題が出てくる。ルール作りや啓発が必要と思いますがどうお考えですか
→担当者が対応を失念していたため現在対応中

地域講習会（北海道）アンケートは、アンケート最下段の所属、氏名記述の記述にて出席者確認を行ったため講師、事務局を除いた全出席者２９名から回答を得ることが出来た（回答率１００．０％）。

地域講習会（北海道）の参加者に対して実施したアンケート（図 2-1-13）の結果を示す。

令和6年度水産多面的機能発揮対策講習会　地域講習会アンケート

このたびはご多用の中、地域講習会を受講していただきありがとうございました。
参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後の講習会の内容を充実させてまいりたいと考えております。
つきましては、アンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

北海道
函館市

部　会	藻場部会	所　属	活動組織　地域協議会　市町村　都道府県　その他
職　業	漁業者　漁協・漁連　公務員　団体職員　その他（　　）	年　齢	歳

（1）内容は今後の活動の参考になりましたか？

□　大変参考になった　　□　一部参考になった　　□　参考にならなかった

理由をお書きください。

（2）今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかをお書きください。

（3）過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄等があればお書きください。

（4）今後の講習会について、講習会の開催方法等へのご要望とその理由をお書きください。

（5）その他感想・意見等をお書きください。

（6）講師に対する質問があればお書きください。(後日事務局より回答をご連絡いたします。)

（7）所属及び氏名等をお書きください。

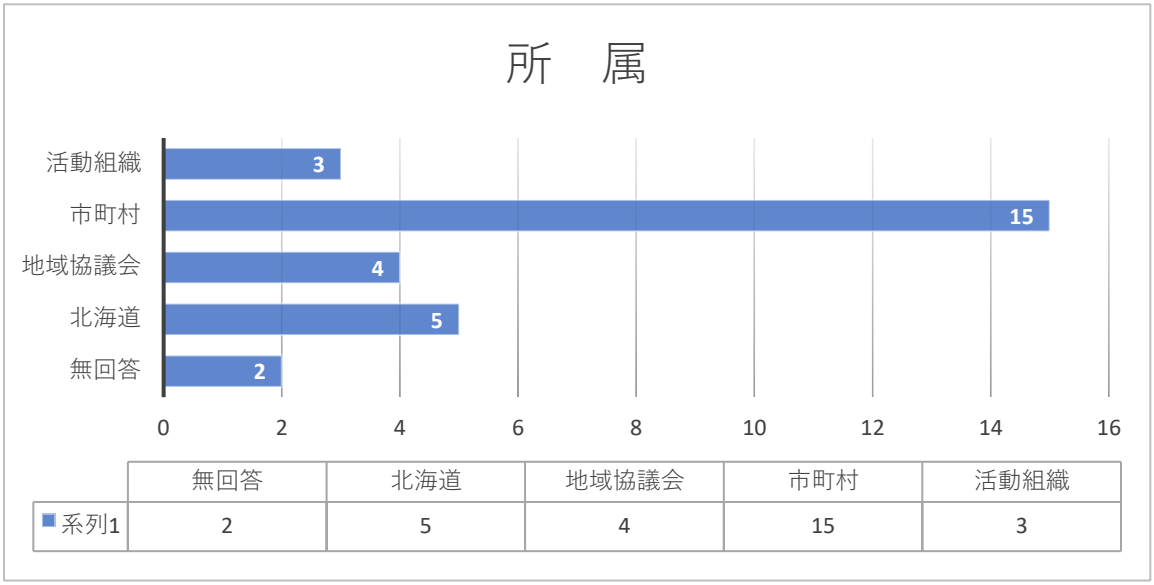
所　属：　　電　話：

氏　名：　　メール：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

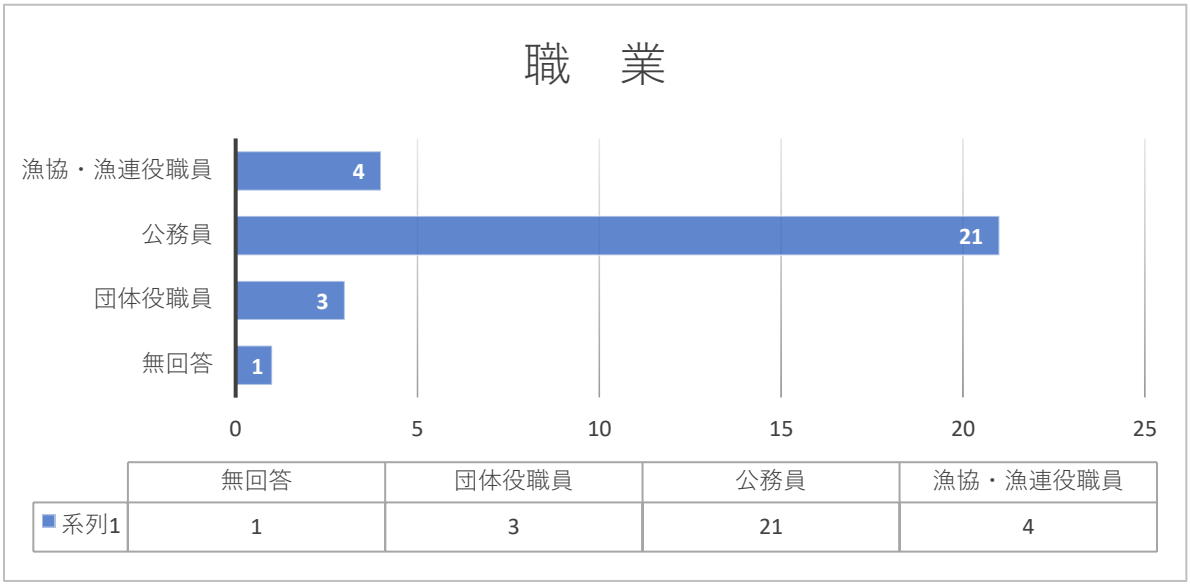
図 2-1-6　アンケート用紙（地域講習会（北海道））

回答者の所属



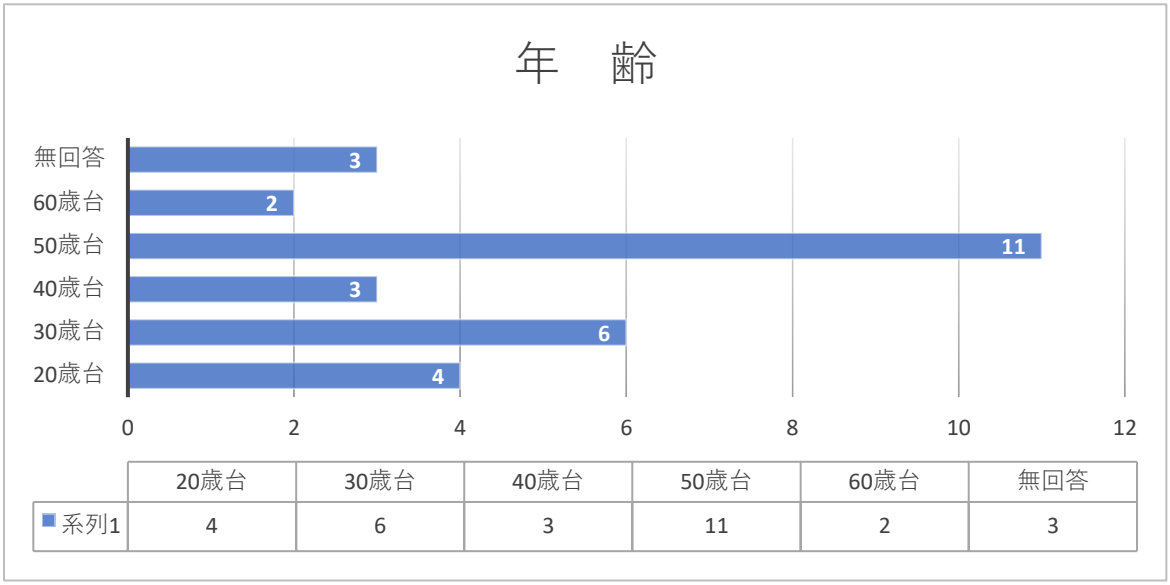
回答者の所属は活動組織３名（１０．４％)、関係市町村１５名（５１．７％)、地域協議会４名（１３．８％)、北海道５名（１７．２％）無回答２名（６．９％）であった。

回答者の職業



回答者の職業は漁協・漁連役職員４名（１３．８％)、公務員２１名（７２．４％)、団体職員３名（１０．３％）無回答１名（３．５％）であった。

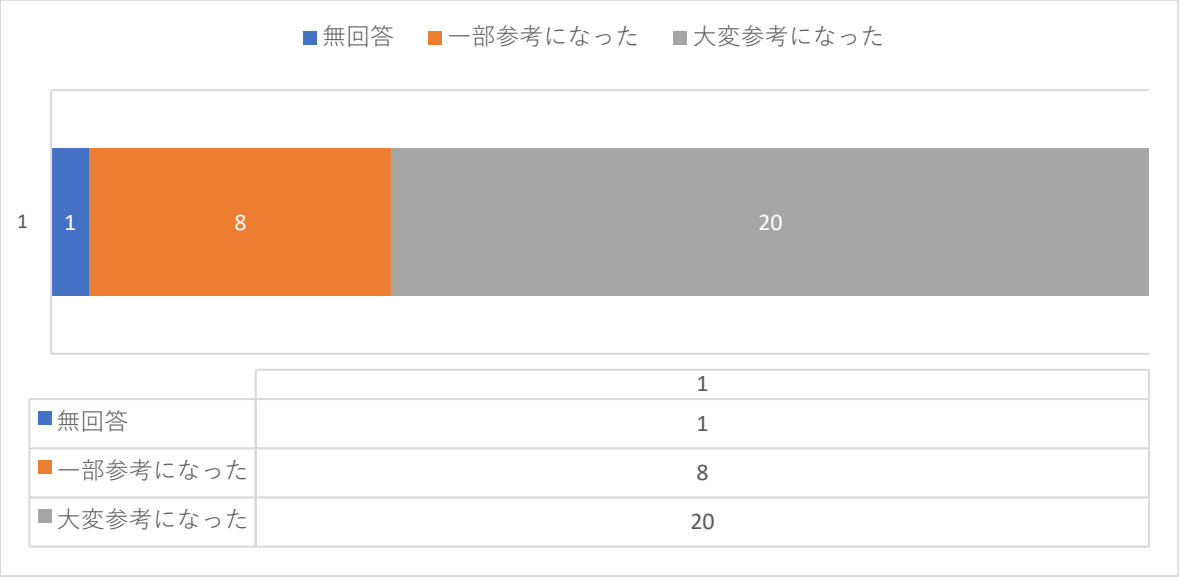
回答者の年齢



	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	無回答
系列1	4	6	3	11	2	3

回答者の年齢は２０歳台４名（１３．８％)、３０歳台６名（２０．７％)、４０歳台３名（１０．３％)、５０歳台１１名（３７．９％)、６０歳台２名（６．９％)、無回答３名（１０．３％）であった。

（１）講習内容について



	1
無回答	1
一部参考になった	8
大変参考になった	20

回答者の６９．０％２０名が大変参考になった。２７．６％８名は一部参考になった。無回答１名（３．４％）との回答であった。参考にならなかったとの回答者は０名であった。

大変参考になった点及び一部参考になった点
・他地域での事例が地方地域に活用できるか検討しメリットになるようであれば活用できる方法を考えていきたい
・各地域の取組がわかった
・他市町村の事例を多く聞けた
・各地区の具体的な取組を知ることが出来イメージがわくとともに業務の参考になったため
・他市町村の取組を参考とできたので

・各地区での活動実態を知ることができ勉強になりました
・他地区の取組状況に当協議会での参考になります
・各地の藻場再生の取組の現状を知ることができた
・様々な組織の事例を分かりやすく伺うことが出来たため
・広く事例を知ることが出来た
・実際に藻場保全にためにどのような取組をしているのかを聞くことが出来たため事業内容を理解することが出来た
・浜の環境が似ている地域の活動等は各浜で持ち帰って協議し有意義な保全活動に繋げることが出来ると思います
・各地域での活動方法
藻場再生のための取組について情報共有図られた
・母藻の設置ひとつとっても各地域でいろいろやりかたが異なり、工夫があって参考になった
・当町において藻場再生への取組の参考になった
・養殖施設等の工夫の過程を知れたため
・養殖コンブから天然コンブへの遊走子の補填
・多面事業以外で取り組んでいる内容を聞くことが出来たため

（２）今回の講習会で得た知識、技術等の活用について

・指導、政策立案
・組織の総会等でアドバイスを行う
・現在、当地区で磯焼け対策は行っていないが今後取り組む時には参考としたい
・ブルーカーボンの取組を活用した
・書類確認の際により細かい部分まで注目していきたい
・道と市町と試験研究機関、漁協との連携に活用したい
・当町でも藻場造成等の事業を今後取り組みたい
・当町において藻場再生の取組の参考にする
・管内漁協への情報共有
・道東でのコンブ不漁対策やコンブ漁業の施策検討に活用したい
・磯焼けの原因調査の際、栄養塩の成分検査が出来ればいいと思うがコンサルの選定が課題活動組織から相談を行けた際の参考とする
・市町村、漁協、漁業者との協議において藻場づくりの話題や直接的に事業の参考としたい
・各自治体と協力して円滑に事業に取り組めるように業務を遂行するだけでなく直接的取り組み内容をヒアリングなどして連携して行きたい
・取組方法を深く掘り下げて密度の濃い活用を目指してゆきたい
・活動の検証の参考
・他地区から磯焼け対策に関する相談を受けた際に今回で得た知見を紹介しようかと思います
・上磯の種苗投入のやり方を検討していきたい
・当活動組織への助言を行う際に活用したい

（３）今後の講習会について

・同じような対応をお願いしたい
・同様でかまわない
・今まで通り毎年の開催をお願いしたい
・大変参考になりましたので、今後も開催を希望します
・今回の様に事例紹介があると現状をしっかり把握できるので今後もやっていただきたい

・R5 と同じ地域での講習会開催はありがたい
・WEB との併用開催を検討してほしい
・WEB でも同時に参加できれば漁協職員も参加しやすいのではないでしょうか
・WEB との併用を検討していただきたい。様々な地区の情報を共有するべきと思うため
・全道の色々な活動組織の事例、工夫を聞いてみたいのでオンラインで開催していただけると助かります
・開催時期を快適な時期にしてほしい　温調機器だと寒すぎたり暑すぎたりするため
・講習会開催場所については現地視察がなければ交通の便が良いところが希望。時期は早くしてほしい
・地域の負担にならない形で
・フィールドワークの実施

（４）その他の感想や意見について

・他地域の取組が同目的で実施されているにもかかわらず様々な手法で実施されているのがわかり大変勉強になった
・とても理解しやすく有意義でした
・とても参考になりました。
・今後も継続的に地域講習会の実施をお願いします
・このような講習会を他地域でもできればいいなと思いました。また、時間が足りなかったのが残念に思うほどためになる講習会でした
・とても良い講習会であったが時間数が短かったのが残念。中尾サポート専門家のアドバイスはとても分かりやすく参考になりました。
・次期多面メニューにブルーカーボンに係るメニュー新設を願う

（５）講師に対する質問について（未回答）

出口一美氏（北斗市水産担当課）
岩盤清掃について詳しくお聞きしたい
→担当者が対応を失念していたため現在対応中

地域講習会（沖縄県）の事務局、関係団体、コーディネーター、事例報告者を除いた会場出席者１２１名（会場９２Ｗｅｂ２９）名のうち、４５件（会場４１Ｗｅｂ４）の回答を得た（回答率３７．２６％）。

地域講習会（沖縄県）の参加者に対して実施したアンケート（図 2-1-14）の結果を示す。

令和6年度水産多面的機能発揮対策講習会　地域講習会アンケート

このたびはご多用の中、地域講習会を受講していただきありがとうございました。
参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後の講習会の内容を充実させてまいりたいと考えております。
つきましては、アンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

沖縄県
那覇市　藻場部会

□　現在、水産多面的機能発揮対策事業を実施している　　□　今後実施する予定又は検討中

部　会	藻場部会	所　属	活動組織　地域協議会　市町村　都道府県　その他
職　業	漁業者　漁協・漁連　公務員　団体職員　その他（　　）	年　齢	歳

（1）内容は今後の活動の参考になりましたか？

□　大変参考になった　　□　一部参考になった　　□　参考にならなかった

理由をお書きください。

（2）今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかをお書きください。

（3）過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄等があればお書きください。

（4）今後の講習会について、講習会の開催方法等へのご要望とその理由をお書きください。

（5）その他感想・意見等をお書きください。

（6）講師に対する質問があればお書きください。（後日事務局より回答をご連絡いたします。）

（7）所属及び氏名等をお書きください。

※（6）で**講師に対する質問を記入された場合**は、必ず連絡先も併せてお書きください。

所　属：　　電　話：

氏　名：　　メール：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

図 2-1-7　アンケート用紙（地域講習会（沖縄県）会場出席者用）

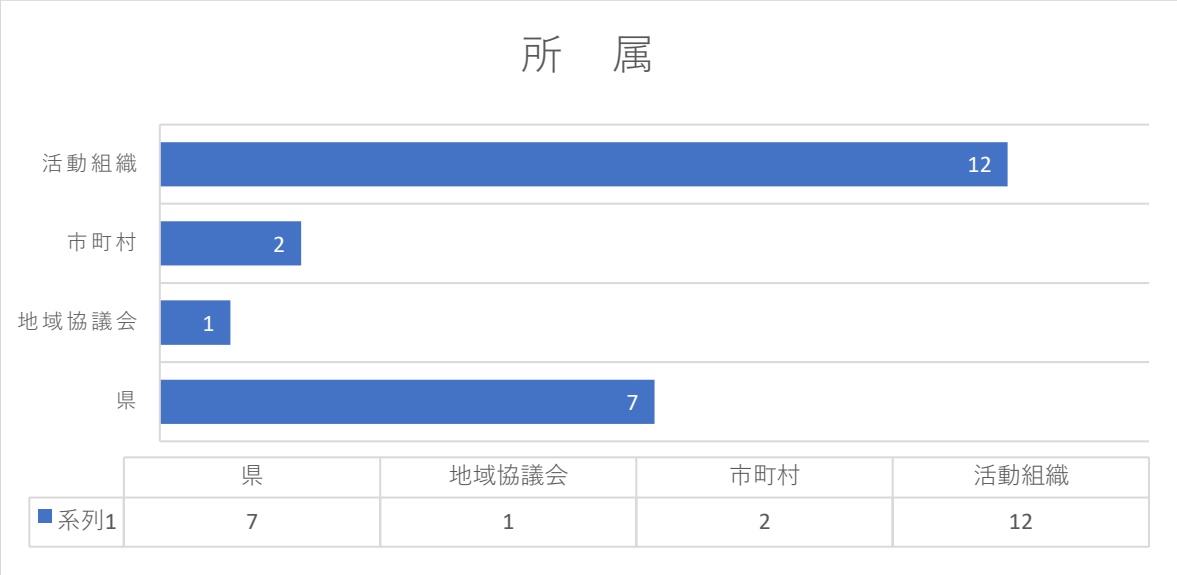
地域講習会（沖縄県）は地元からの要望で、今後水産多面的機能発揮対策を実施する予定又は現在検討中の者も対象としたため、アンケートにその状況を問う設問を設けた。
講習会での質疑応答時間外の参加者の疑問点に対応するため、講師に対する質問欄を設けた。また、Ｗｅｂ参加者に対しては前掲の設問に加えて、Ｗｅｂ参加特有の設問としてＷｅｂ参加した理由と受講時の同一パソコン等での視聴人数についてもアンケートを行った。

水産多面的機能発揮対策事業について

	1
現在活動を行っている	14
今後実施する予定又は検討中	9
未回答	22

回答者の１４名（３１．１％）が現在活動を行っており、９名２０．０％が今後実施する予定又は検討中であった。回答者の半数弱が未回答であったのは、設問の位置が目立たない所にあった要因もあるかと思われる。

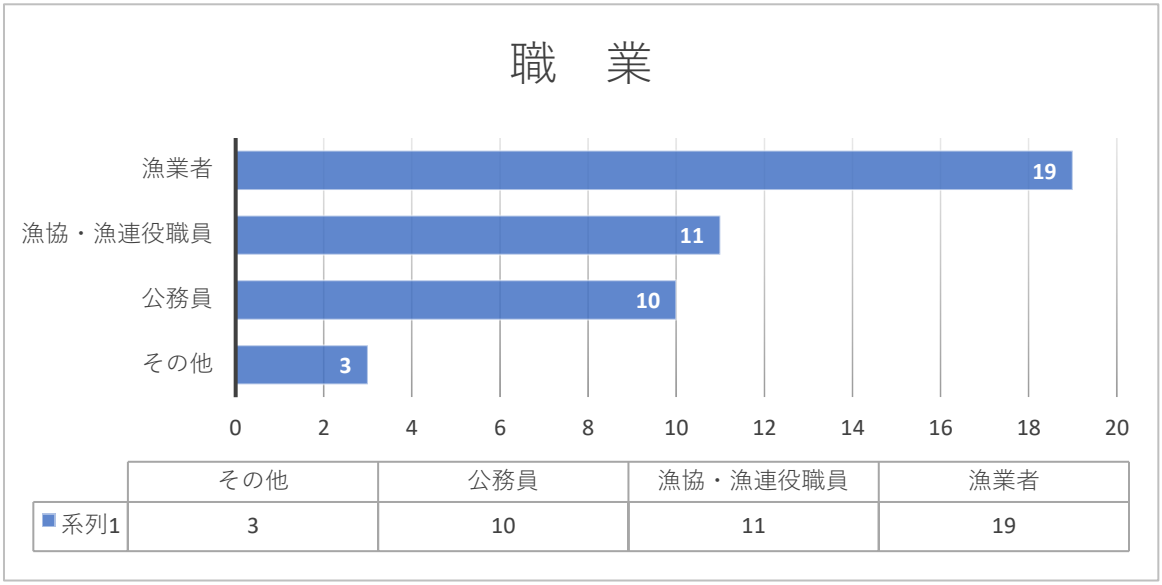
回答者の所属



	県	地域協議会	市町村	活動組織
系列1	7	1	2	12

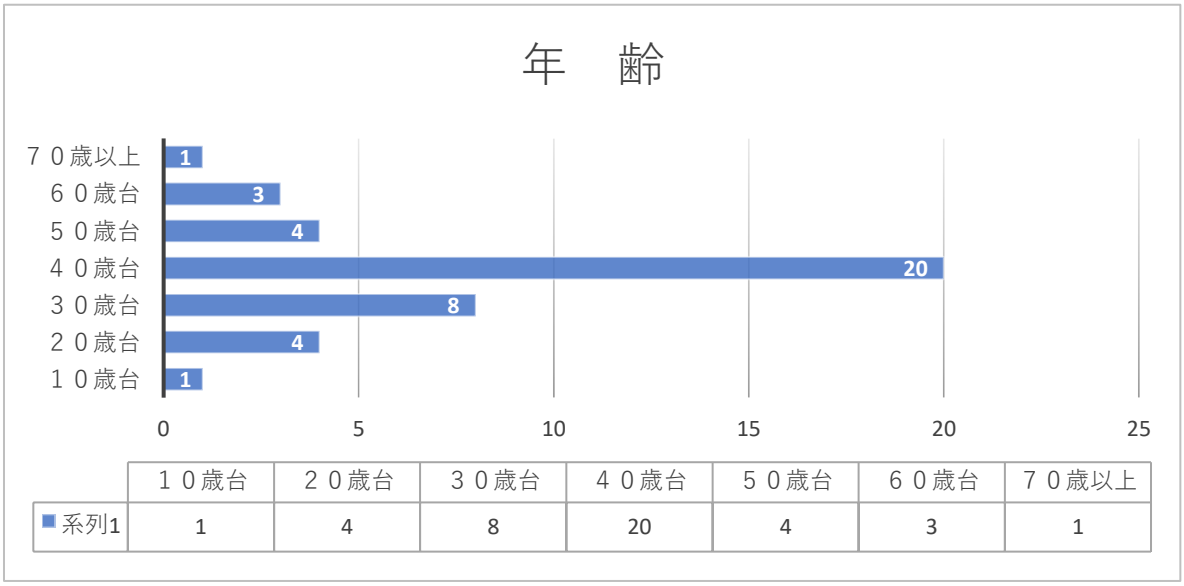
回答者の所属は活動組織１２名（５４．６％）、関係市町村２名（９．１％）、地域協議会１名（４．５％）、県７名（３１．８％）であった。

回答者の職業



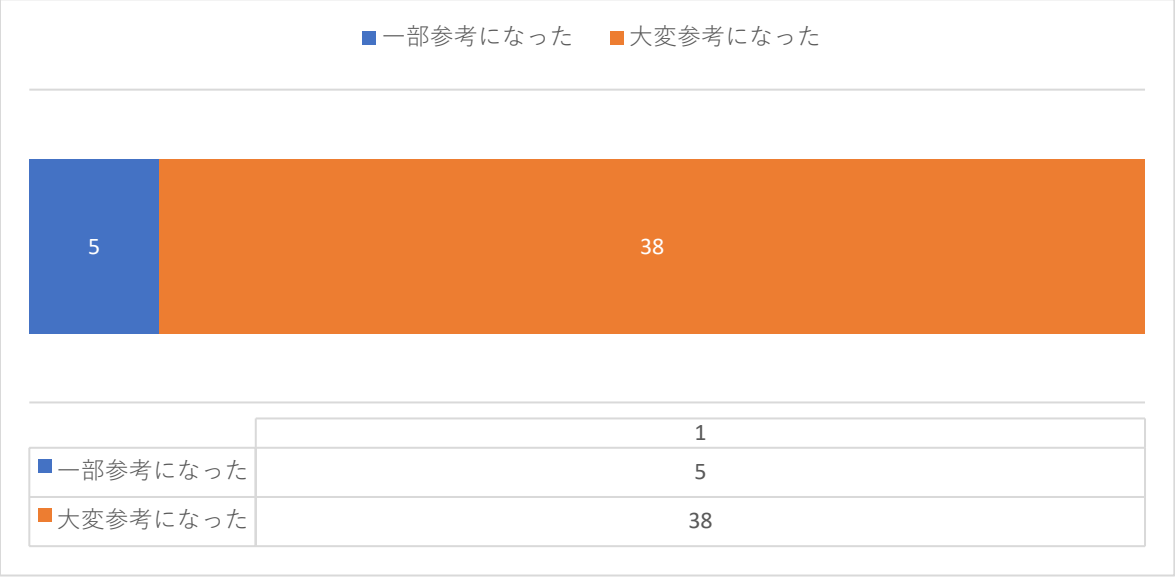
回答者の職業は漁業者１９名（４４．２％)、漁協・漁連役職員１１名（２５．６％)、公務員１０名（２３．２％)、その他３名（７．０％）であった。

回答者の年齢



回答者の年齢は１０歳台１名（２．４％)、２０歳台４名（９．８％)、３０歳台８名（１９．５％)、４０歳台２０名（４８．５％)、５０歳台４名（９．８％)、６０歳台３名（７．３％)、７０歳以上１名（２．４％）であった。

（1）講習内容について



回答者の８８．４％３８名が大変参考になった。１１．６％は一部参考になった。との回答であった。参考にならなかったとの回答者は０名であった。

大変参考になった点及び一部参考になった点
・川畑氏から将来的な事業展開手法、島袋氏から適切なアドバイスを受けた。
・県内の取組で皆さん苦労されているところは共通している一方で島袋氏のアドバイス等参考になった。
・藻場の基本的な知識から具体的な取組まで学べた。
・藻場が減少する理由を理屈的に説明いただけてどうアプローチするかを考えることが大事だと思いました。
・藻場減少に悩まされていたため。
・放流してもなかなか成功しない理由が知れた。
・藻場再生の取組を行っている。漁協の話、海藻、海草の生態が聞けて良かった。今後の取組の参考にします。
・別の組合の活動内容が聞けてよかった。同じ悩みを抱えているので励みになりました。
・企業との連携。
・海草は酸素を作ることを知った。
・藻場が赤土の負荷を受けることを改めて感じた。
・海藻の基礎の部分から造成活動に至るまで知ることが出来非常に有意義でした。
・藻場の必要性と赤土流出対策との関係性が強く意識できた。
・漁業活動するうえで環境変化に対応し漁業変化をするために必要な情報。
・藻場が無くなるのは海水温の上昇だけではないことが分かった。
・藻場の二酸化炭素貯留量という発想。
・全て繋がっていること。
・川畑氏の話は先進的な事例として参考になった 島袋氏の話は今後の活動に大変アドバイスになる話でよかった。
・各地の取り組みが聞けて良かった。
・各地でこのような活動が有ることさえ知らなかったので大変参考になりました。
・県内での取組み事例報告、特に水産技術研究所の島袋氏の講話内容が、わかりやすく大変参考になった。

・もう少し、熱帯・亜熱帯性の海草類の生活史について、最近の知見を踏まえた情報を知りたかった。

（２）今回の講習会で得た知識、技術等の活用について

・久米島漁協と共同で実施しており、場所に応じた創意工夫をしたい。 県や水産技術所と共同研究の中で実施・活用していきたい。
・国頭海域での藻場再生活動に活かします。
・藻場を増やせるように活用したい。
・自分の漁業権内で活動するために役立てたい。
・今後の藻場事業の取組に活用します。
・子どもに教えて次につなげる。・
・沖縄県における海草藻場、海藻藻場の再生。
・藻場再生のための赤土対策を考える必要があると感じた。
・赤土による海域への影響を考える際に利用したいと考えています。
・現在赤土対策はサンゴ関連を中心に行っているので藻場も関連した研究も意識してもよいと考えています。
・青年部活動として。
・藻場が無くなったら大変だよって漁業者に伝えたい。
・赤土等陸域対策を強化するために今後、検証実験を行う基礎知識になります
・今後の藻場再生に活用したい。
・藻場活動をする際の企業との共同活動。
・藻場再生に活用したい。
・ホンダワラ藻場再生に取り組む。
・とりあえず網で囲う。
・活動組織への指導。
・食害防止柵が有効との事なので漁協等への取組を支援していきたい。

（３）その他感想・意見等について

・勉強になった。
・海草藻場の減少が喫緊の課題であり、取組が試行されていることを理解できた。
・未来に向けて持続的な水産業を維持することを目標に藻場の保全に取り組むことが大事だと思いました。
・藻場がありきのサイクルを改めて確認できました。
・海草は大切
・また勉強会をしてほしい。
・とても勉強になりました。
・本当に勉強になりました。二人の講師のチョイスも素晴らしかったです。
・藻場の再生力と食圧の関係が重要で食圧を減らすのではなく再生の向上に力を入れた方がよいと思いました。
・各地でいろんな取り組みをしていることに驚いた。
・会場からの質問の声が聞き取り辛かったです。
・今回の講習会はweb参加ですが、音声が所々で聞きづらい箇所がありました。その辺りを改善できたら幸いです。

（４）講師に対する質問について

沖縄県水産課

藻場保全に取り組んで漁獲量が増えた、環境がよくなった実感はりますか。保全に取り組んでいる漁協の水産物として販売しているとのことですが販売先はとこになりますか。また、販売先、消費者の反応はどうですか

川畑氏
漁獲が良くなったという実感はあまりないかもしれません。　唯一、アオリイカの漁獲量は間違いなく良くなります。　どちらかというと、藻場がなくなって漁獲量が悪くなったという実感はあります。　漁獲量の悪化の原因は藻場だけではないかもしれないので、一概に言えません。
販売先は県漁連や九州魚市(株)になります。販売先、消費者の反応に関しては、まだまだ認知されていないので鈍いです。別件で講演した際には、物産館などでぜひ扱いたいという声もあります。今後、社会課題として企業が原料調達先に選んでくれることを期待しています。
那覇地区漁協総務課
アーサを増やしていきたい。そのために必要なことがあればご教授下さい。場所は瀬長島
島袋氏
アーサは手法としては確立しており西日本を中心に全国で行われているため、細かな具体的な手法は県の水産海洋技術センターに相談されると良いと思います。
もし瀬長島の岩にすでにアーサが生えているようなら、環境としては問題ないので養殖しやすいと思います。アーサ養殖に必要な大きな環境要因は、「適度な流動」「栄養の豊かな海水」だと思います。特にアーサは緑藻で、緑色の海藻は栄養分を多く好むので重要です。
瀬長島を衛星写真で見ますと、都市部に近いですし、河口も近く、地形的には栄養分はあるのかなと思います。また、適度な流動では、潮汐の干満差による流れをうまく利用すると良いと思います。最近ではアイゴやウミガメの食害にも注意する必要があるかと思います。
川畑氏
漁業者の私から言えることは、大変ですが、色々試すことだと思います。（手法や場所など）一度の失敗どころか、多くの失敗がありますので、それにも負けない鋼の精神で取り組むことが大事だと思います。
国頭漁業協同組合
農薬・除草剤の藻場への影響を知りたい
島袋氏
畑で使われている薬品で藻場に影響するものとして、除草剤は海藻や海草そのものを衰退させる可能性があり、防虫剤などはエビなどの甲殻類に影響を与える恐れがあります。陸上で使用している薬品が海のエビなどに影響を与えることは報告されていますが、実際の海の藻場で、「ここの藻場が減ったのは畑の薬品の影響である」と証明された事例はないと思います。しかし、影響は少なからずあるはずで、特に海と畑の距離の近い沖縄は影響があると想像できるので、今後、関係機関の調査などが期待されるところです。
恩納村漁業協同組合
講習会において興味深いお話ありがとうございました。事前に頂いた資料では、流動による浮泥の除去も重要である旨の記載がありましたが、当日のご発表では、時間の制約の関係か、あまり触れてらっしゃらなかったと記憶しております。私たちは、健全な藻場を活用してモズク養殖を行っております。サンゴ礁漁場の地形的な理由から、陸域から流出した赤土等は礁内にたまりやすく、長期にわたり影響（シケにより堆積した赤土が撹拌等）を及ぼすことから、入口対策とモニタリングをしっかりと行ってきました。当日で事例を報告しましたように、礁内に赤土等が堆積することで、藻場が縮小する報告は探すことができたのですが、その他に（例えば濁り等により）光合成の阻害がおこる等の報告もあるのでしょうか。

島袋氏
本州など温帯域のアマモでは泥の堆積や光量の違いによる成長実験などが行われているのですが、沖縄など南西諸島海域のアマモ（海草）ではほとんどそのような実験や検証が行われていません。
本州のアマモでは、葉の上に泥が堆積することで成長が阻害されることが報告されているので、沖縄のアマモでも同様なことは発生している可能性は高いかと思います。
また、沖縄のアマモはより光が強いところに生えているので、海中が濁ったときの影響は大きいのでは？と想像します。
沖縄の水技センターなど地元の関係機関でそのような調査が行われることを期待します。

◆地域講習会（沖縄県）Ｗｅｂ参加受講理由

・回答数４件の中で３件が「手軽に参加出来る」を選択し、１件が「現地に参加する時間が取れなかった」をを選択していた。

◆地域講習会（沖縄県）Ｗｅｂ参加者受講形式

・回答数４件の中で３件（７５．０％）が個別受講であり、複数受講は１件（２５．０％）で３名での受講であった。

地域講習会（千葉県）の事務局、関係団体、コーディネーター、事例報告者を除いた会場出席者２７名のうち、１９件の回答を得た（回答率７０．４％）。

地域講習会（千葉県）の参加者に対して実施したアンケート（図 2-1-15）の結果を示す。

令和6年度水産多面的機能発揮対策講習会　地域講習会アンケート

このたびはご多用の中、地域講習会を受講していただきありがとうございました。
参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後の講習会の内容を充実させてまいりたいと考えております。
つきましては、アンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

千葉県
鴨川市

部　会	藻場（食害魚有効活用）	所　属	活動組織　地域協議会　市町村　都道府県　その他
職　業	漁業者　漁協・漁連　公務員　団体職員　その他（　　）	年　齢	歳

(1)　内容は今後の活動の参考になりましたか？

□　大変参考になった　　□　一部参考になった　　□　参考にならなかった

理由をお書きください。

(2)　今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかをお書きください。

(3)　過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄等があればお書きください。

(4)　今後の講習会について、講習会の開催方法等へのご要望とその理由をお書きください。

(5)　その他感想・意見等をお書きください。

(6)　講師に対する質問があればお書きください。（後日事務局より回答をご連絡いたします。）

(7)　所属及び氏名をお書きください。

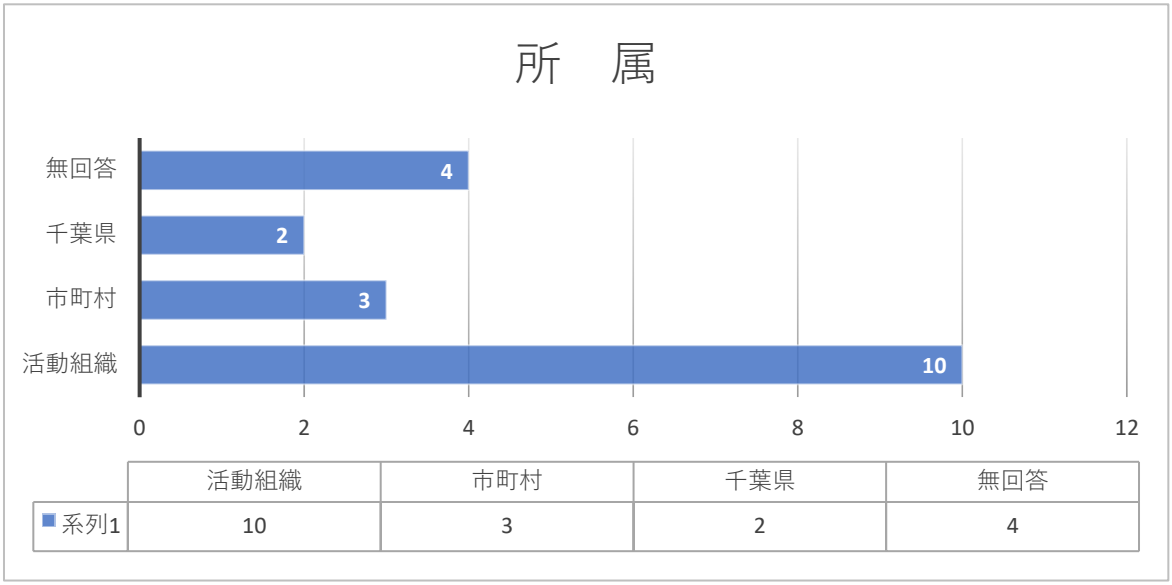
所　属：

氏　名：

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

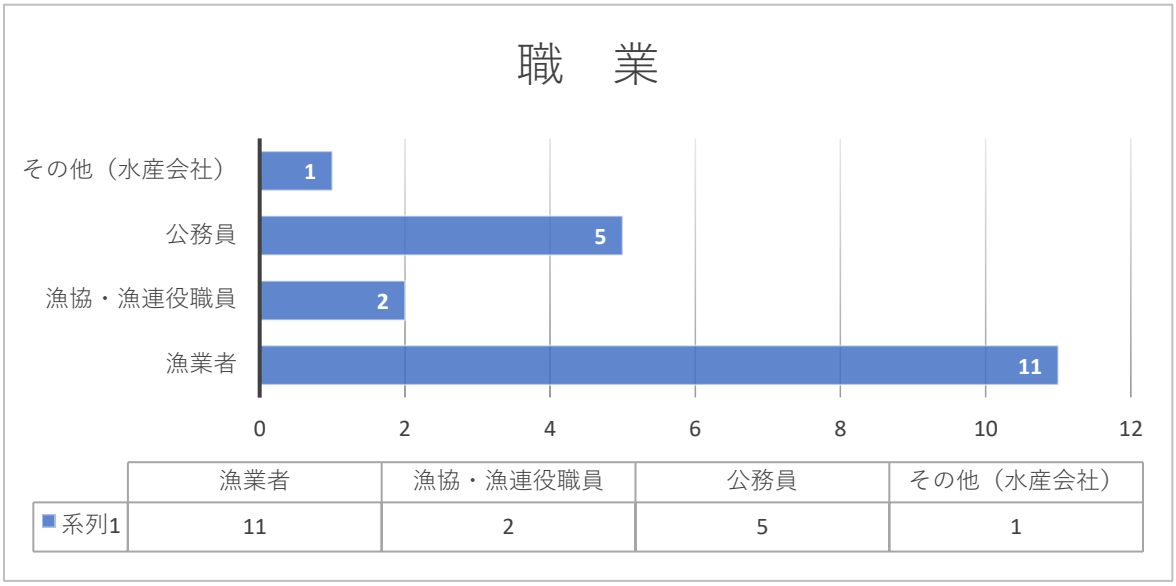
図 2-1-15　アンケート用紙（地域講習会（千葉県））

回答者の所属



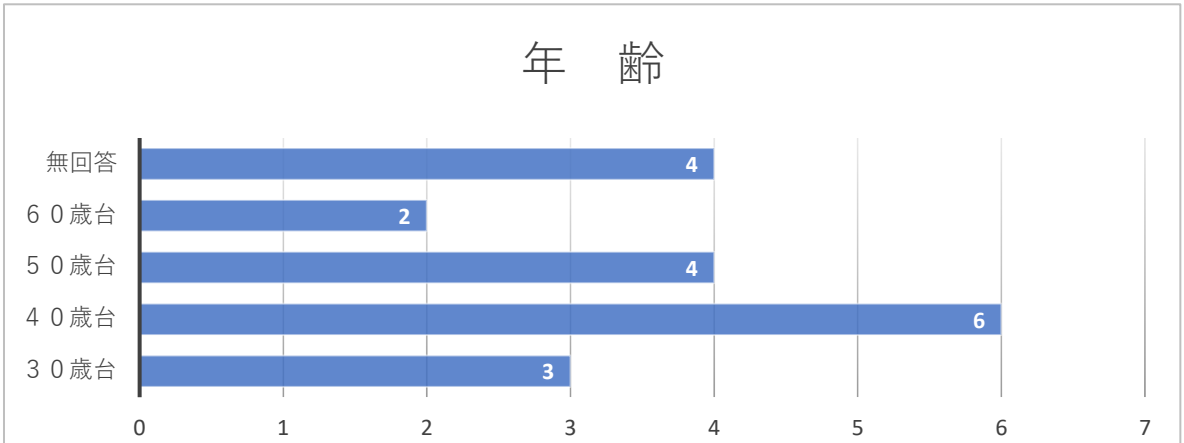
回答者の所属は活動組織１０名（５２．６％）、関係市町村３名（１５．８％）、千葉県２名（１０．５％）、無回答４名（２１．１％）であった。

回答者の職業



回答者の職業は漁業者１１名（５７．９％）、漁協・漁連役職員２名（１０．５％）、公務員５名（２６．３％）、その他１名（5.３％）であった。

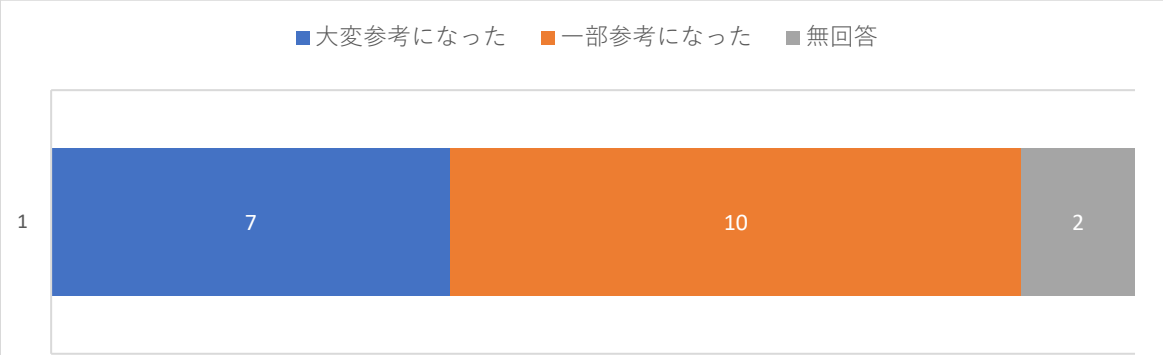
回答者の年齢



	３０歳台	４０歳台	５０歳台	６０歳台	無回答
系列1	3	6	4	2	4

回答者の年齢は３０歳台３名（１５．８％)、４０歳台６名（３１．６％)、５０歳台４名（２１．１％)、６０歳台２名（１０．４％)、無回答４名（２１．１％）であった。

（１）講習内容について



	1
大変参考になった	7
一部参考になった	10
無回答	2

回答者３６．９％７名が大変参考になった、５２．６％１０名は一部参考になった、無回答は１０．５％２名であった。なお参考にならなかったとの回答者は０名であった。

大変参考になった点及び一部参考になった点
・意欲、話の内容が良かった
・食害魚を商品にする苦労、具体的な方法が聞かせてもらえたから
・内房の定置網でもアイゴが入るので有効活用できるのか考えたい
・他人事ではないとあらためて感じた
・食害生物の活用

（２）今回の講習会で得た知識、技術等の活用について
・料理屋や加工屋の参考になる
・これから行う磯焼け対策活動に活用したい
・試作品開発の参考としたい
・大変いい話を聞かせていただきましたが、こちらの状況とは多少違うところもあり活用するまでにはいろいろ大変かなと思いました
・水産冷凍会社として何か関わって行けたらと思います
・今まで食べたことのない魚なので食べてみようと思う
・まずは食べてみようと思う
・アイゴを食べてみようと思った
・アイゴ試してみる
・自分の事業や私生活
（３）過去の講習会に参加して取り入れた内容について
・スポアバックとミニストーン工法
（４）今後の講習会に対しての要望等について
・料理屋や加工屋向けに開催してほしい
・年数回でも定期的に行ってほしい
（５）その他の意見等について
・ありがとうございました。採取、水揚げ、加工等の流れが確立できていないので難しいですが今後の動向次第でどうなるかわからない
・食害生物の除去方法があればお願いします
・大変参考になりました。ありがとうございます。
・勉強になりました

（６）講師に対する質問について（未回答）
金高裕司氏（東安房漁業協同組合天津地区活動グループ）
海水温の上昇により食害の魚が増えたという可能性はないでしょうか

鈴木正浩氏（東安房漁業協同組合天津地区活動グループ）
天津地区には定置網がないので刺網で採取できる方法は？

長谷川和久氏（東安房漁業協同組合天津地区活動グループ）
アイゴ、イスズミの水揚げが始まって以降の藻場の状態

熊切昌興氏（鴨川市）
アイゴ、イスズミを食品化するのにボランティアを活用すると伺いましたが労働者として雇用した時に採算がとれるでしょうか
→担当者が対応を失念していたため現在対応中

2-2. サポート専門家による技術的指導

本事業に取り組む活動組織等を対象として、サポート専門家による技術的な指導を実施した。

(1) サポート専門家の登録

活動組織の指導にあたるサポート専門家の条件は、対策事業に対する豊富な経験や実績を有し、多くの活動組織のニーズに十分対応できる技術を有する者とした。具体的には、平成 21 年度～24 年度環境生態系保全対策及び平成 25 年度～令和 5 年度水産多面的機能発揮対策において登録実績のある者に加えて、登録専門家、有識者（検討委員等）、地域協議会からの推薦があった者とした。登録の有効期間は、登録日から令和7年3月末までとし、登録にあたっては、表 2-2-1 に示す書式を用意した。

活動組織のニーズは様々であるため、サポート専門家の専門分野を表 2-2-2 のとおり分類し、可能な限り広範なサポートができるよう務め、常時派遣が可能な体制を整えた。

今年度登録したサポート専門家は、表 2-2-3 のとおりであり、計 64 名を登録し、うち、藻場の専門家が 49 名、干潟等が 34 名、サンゴ礁が 14 名、河川・湖沼が 16 名、教育・学習が 17 名、清掃活動が 4 名、ヨシ帯が 2 名であった。

表 2-2-1　サポート専門家登録にあたって整備した書類

種類	内容	備考
専門家登録実施規定	専門家登録の要件と専門家および登録者の責務を規定（図 2-3-1 参照）	
継続登録申請書	平成 21～24 年度の前身事業および平成 25 年度以降の事業で登録実績のある者が提出	
新規登録申請書	令和 5 年度から新たに登録する者が提出 （氏名、現住所、勤務先、連絡先、専門分野、経歴等を記載）	推 薦 書を添付
専門家登録通知書	全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会の連名で通知	

表 2-2-2　サポート専門家の専門分野

分野	対応する活動項目	備考
藻場	藻場の保全・水域の監視	海面
干潟・浅場	干潟等の保全・水域の監視	海面・内水面
ヨシ帯	ヨシ帯の保全	内水面
サンゴ礁	サンゴ礁の保全・水域の監視	海面
河川・湖沼	内水面生態系の維持・保全・改善	内水面
清掃活動	漂流、漂着物、堆積物処理・水域の監視	海面
教育・学習	上記に関連し多面的機能の理解・増進につながる教育・学習に資する取組	海面・内水面

令和６年度 多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度実施規程

（目的）

第１条　多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度（以下「登録制度」という。）は、活動組織が行う「海の安全確保」、「環境・生態系保全」及びこれらの活動効果を高める「教育・学習」に係る活動（以下、「多面的機能発揮活動」という）をサポートする人材情報を登録するとともに、登録された人材の協力を得ることにより、活動組織による効果的、効率的な活動を推進することを目的とする。

（実施主体）

第２条　本制度の実施主体は、全国漁業協同組合連合会（以下、ＪＦ全漁連という）及び全国内水面漁業協同組合連合会（以下、全内漁連という）とする。

（専門家の区分）

第３条　多面的機能発揮活動サポート専門家は、活動組織が抱える技術的な課題をサポートする「技術サポート専門家」と、事業実施に伴う各種事務処理をサポートする「運営サポート専門家」に区分され、それぞれが独立した資格として登録される。

（技術サポート専門家の役割）

第４条　技術サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して技術的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

一　多面的機能発揮活動の計画づくりに関するサポート

二　多面的機能発揮活動の手法に関するサポート

三　多面的機能発揮活動に係る調査等に関するサポート

四　報告書の作成、一般市民の参加・情報公開などの運営・広報に関するサポート

（運営サポート専門家の役割）

第５条　運営サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して事務的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

一　関係機関との調整に関するサポート

二　書類の整備状況の確認及び指導

（技術サポート専門家の登録要件）

第６条　技術サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。

一　多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。

二　「海の安全確保」、「環境・生態系保全」、「教育・学習」のいずれかの活動項目のうち、一項目以上の専門的な知識を有していること。なお、「環境・生態系保全」については、藻場、干潟・浅場、サンゴ礁、ヨシ帯、河川・湖沼環境、清掃活動のいずれかの専門知識を有すること。

図 2-2-1(1)　サポート専門家登録実施規定(1)

三　上記の多面的機能発揮活動に係わる業務について、十分な実務経験を有すること。

四　活動組織の要望及び当会からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への技術的サポートを行うことが可能であること。

（運営サポート専門家の登録要件）

第７条　運営サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。

一　多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。

二　多面的機能発揮活動の事業実施に伴う書類作成や事務処理に精通していること

三　活動組織等の要望及びＪＦ全漁連及び全内漁連からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への事務的サポートを行うことが可能であること。

（専門家の責務）

第８条　サポート専門家は、次に掲げる責務を有する。

一　水産多面的機能に関わる専門的な知識、技術の研鑽に努めること。

二　常に活動組織の視点に立ったサポートに努めること。

三　活動組織へのサポート実施後は、指導の内容等を取りまとめ、海面の活動組織についてはＪＦ全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連に、サポート実施後所定の様式により報告すること。

四　サポート活動により知り得た情報等を、他人に漏えいしてはならない。

五　野外作業においては、ヘルメットやライフジャケット等の着用など、十分な安全対策を講ずるとともに、潜水など危険を伴うような活動を行う場合には保険に加入すること。

（登録の申請）

第９条　登録制度に登録をしようとする者（以下、「申請者」という。）は、多面的機能発揮活動サポート専門家登録書（様式第１号）をＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長に提出しなければならない。

２　申請者のうち、平成 25 年度～平成 27 年度 水産多面的機能発揮活動サポート推進事業または平成 28 年度～令和 5 年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業においてサポート専門家登録を行った専門家は、「様式第３号 技術サポート専門家登録更新申請書」及び「様式第４号 運営サポート専門家登録更新申請書」の提出に替えることができる。

３　登録済みのサポート専門家等による推薦を得た場合には、指定した期間に関わらず申請できるものとする。

（登録の承認）

第 10 条　多面的機能発揮活動サポート専門家の登録は、ＪＦ全漁連及び全内漁連において実施し、次に掲げる事項について検討、審査する。なお、登録にあたり、必要に応じて水産庁または有識者等の助言を求めることとする。

図 2-2-1(2)　サポート専門家登録実施規定(2)

（1） 申請書の人材情報の登録に関すること。

（2） 登録された人材情報（以下、「登録情報」という。）の登録の取消し及び登録情報の抹消に関すること。

2 平成25年度～令和5年度に多面的機能発揮活動サポート専門家の登録申請を行った者については、前項の規定によらず、登録することができるものとする。

（登録及び通知、登録証の発行）

第11条 ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長は、人材情報を登録すべきと認められた者について、速やかに登録申請書に基づき人材情報を登録するとともに、申請者に人材情報を登録した旨を「様式第1号の2 技術サポート専門家登録決定通知書」及び「様式第1号の3 運営サポート専門家登録決定通知書」により通知する。

2 ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定による登録を受けた者（以下「登録者」という。）について、サポート専門家登録証を発行する。

3 ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長は、第10条第1項の規定において人材情報を登録すべきでない旨の決定を受けた者について、非登録通知書（様式第1号の4）により、その理由を付して申請者に通知する。

（登録内容の変更）

第12条 登録者は、登録内容に変更が生じた場合は、すみやかにＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長に登録情報変更申請書（以下、「変更申請書」という。）（様式第2号）により登録情報の変更を申請しなければならない。

（登録者の活用）

第13条 ＪＦ全漁連及び全内漁連は、各活動組織の求めに応じ、地域特性や活動組織の要望を勘案した上で適切な人材を紹介し、登録者の活用に努めなければならない。

（登録の期間）

第14条 登録者の登録の期間は、第11条第1項の規定により登録をした日から2025年3月24日までとする。

（登録の更新）

第15条 前条の規定による登録者の登録の期間の満了時には、希望等に応じて登録の更新を行うことができる。

（登録の取り消し）

第16条 ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長は、登録制度の適正な運営に支障を来たすと認められる場合、あるいは、登録者が第8条の規定による専門家の責務に反する行為等が認められる場合には、登録を取り消すことができる。

2 ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定により登録を取り消したときは、取消しを受けた者に対し、登録抹消通知書（様式第5号）により、その理由を付して通知

図 2-2-1(3) サポート専門家登録実施規定(3)

しなければならない。

3　取消しを受けた者は、すみやかに専門家登録証をＪＦ全漁連会長もしくは全内漁連会長に返却しなければならない。

（個人情報の保護）

第 17 条　本規定の実施主体であるＪＦ全漁連及び全内漁連は、個人情報の保護に関する法律に基づき、第９条に掲げる登録の申請によって得られた個人情報を、本規定が定める目的の範囲内で適切に管理、使用し、その他の目的で使用してはならない。

（庶務）

第 18 条　登録制度の庶務は、ＪＦ全漁連及び全内漁連において処理する。

（その他）

第 19 条　この規程に定めるもののほか必要な事項は、ＪＦ全漁連会長及び全内漁連会長が別に定める。

附則

1　この規程は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

図 2-2-1(4)　サポート専門家登録実施規定(4)

表 2-2-3(1)　令和 5 年度登録専門家(1)

ＩＤ	氏　　名	現住所（都道府県）	勤務先名称	技術ｻﾎﾟｰﾄ	運営ｻﾎﾟｰﾄ	専門分野						
						藻場	干潟浅場	サンゴ礁	ヨシ帯	河川湖沼	清掃活動	教育学習
1	田中　和弘	東京都	(株)水産環境	●	●	○	○			○		
2	中嶋　泰	広島県	オフィスMOBA	●	●	○						
3	芳我　幸雄	埼玉県		●		○	○			○		
4	藤田　孝康	神奈川県	日本ミクニヤ(株)	●		○	○					
5	菅　啓二	長崎県	長崎県島原振興局　建設部道路第一課	●	●	○	○				○	
6	岩瀬　文人	高知県	四国海と生き物研究室	●		○		○				○
7	吉田　稔	沖縄県	(有)海游	●		○	○	○				
8	益原　寛文	福岡県	益原技術士事務所	●	●	○	○	○				
9	鈴木　信也	神奈川県	(株)日本海洋生物研究所	●			○					
10	田中　賢治	島根県	国土防災技術(株)	●		○						
11	岩井　克巳	大阪府	日本ミクニヤ(株)	●	●	○	○			○	○	○
12	田所　悟	神奈川県	(有)自然環境調査	●		○	○	○				
13	長田　智史	沖縄県	一般財団法人　沖縄県環境科学センター	●		○	○	○				○
14	斉藤　政幸	福岡県	(株)東京久栄	●			○					
15	藤原　秀一	沖縄県	いであ株式会社国土環境研究所	●				○				
16	三橋　公夫	徳島県	ニタコンサルタント株式会社	●		○						
17	吉村　拓	長崎県	一般財団法人　磯根研究所	●	●	○						○
18	三部　碧	沖縄県	一般財団法人　沖縄県環境科学センター	●		○	○	○				
19	反田　實	兵庫県		●		○	○					
20	高山 優美	神奈川県	海藻おしば協会	●		○						○
21	南里　海児	福岡県	(株)ベントス	●	●	○	○					
22	鈴木　望海	三重県	(有)鈴木ダイビングサービス	●		○	○					
23	山本　貴史	大阪府	海山川里株式会社　研究室	●		○	○	○				
24	片山　貴之	岡山県	海洋建設(株)	●	●	○	○			○		

表 2-2-3(2)　令和 5 年度登録専門家(2)

ＩＤ	氏　　名	現住所（都道府県）	勤務先名称	技術ｻﾎﾟｰﾄ	運営ｻﾎﾟｰﾄ	専門分野						
						藻場	干潟浅場	サンゴ礁	ヨシ帯	河川湖沼	清掃活動	教育学習
25	穴口　裕司	岡山県	海洋建設(株)	●		○	○					
26	青山　智	岡山県	海洋建設(株)	●		○	○					
27	永田　昭廣	兵庫県	滄海生物環境サポート	●		○	○	○				
28	石田　和敬	福岡県	国際航業株式会社	●		○	○	○				
29	太田　雅隆	千葉県		●	●	○	○					
30	三冨　龍一	神奈川県		●		○	○					○
31	中尾　博己	北海道	別海町ニシン種苗生産センター　センター長	●		○	○					○
32	渡辺　耕平	宮崎県	西日本オーシャンリサーチ	●		○		○				
33	吉永　聡	広島県	(株)水土舎	●		○	○			○		○
34	犬束　ゆかり	長崎県	(有)丸徳水産	●		○						
35	北野　慎容	宮城県	三洋テクノマリン(株)　東北支社	●		○						
36	椎名　弘	千葉県	海洋プランニング(株)	●		○						
37	川畑　友和	鹿児島県	山川地区藻場保全会	●	●	○						○
38	秋本　泰	千葉県		●		○	○	○				
39	酒井　章	山口県		●		○						○
40	山川　紘	神奈川県	東京海洋大学 客員研究員	●		○	○					
41	大浦　佳代	東京都	海と漁の体験研究所	●	●							○
42	蓑島 恵利	東京都	海藻おしば協会	●		○						○
43	細木　光夫	高知県	(有)エコシステム	●		○	○			○		
44	杉崎　康司	長崎県	ダイブショップ　スマイラーズ	●		○						
45	今井　勉	北海道	(公社)北海道栽培漁業振興公社		●							
46	石川　竜子	石川県	わじま海藻ラボ	●		○						
47	池原　悠太	宮崎県	宮崎県東臼杵農林振興局	●		○						
48	秋田　晋吾	北海道	北海道大学水産科学研究院	●		●						

表 2-2-3(3)　令和 5 年度登録専門家(3)

ＩＤ	氏　　名	現住所（都道府県）	勤務先名称	技術ｻﾎﾟｰﾄ	運営ｻﾎﾟｰﾄ	専門分野						
						藻場	干潟浅場	サンゴ礁	ヨシ帯	河川湖沼	清掃活動	教育学習
49	安藤　亘	埼玉県	ECOS技術士事務所	●	●	○	○	○	○			○
50	田端　重夫	沖縄県	いであ株式会社	●		○	○	○				○
51	大神　弘太朗	福岡県	一般社団法人ふくおかFUN	●	●	○	○			○	○	○
52	鳥羽　光晴	千葉県	東京海洋大学　海の研究戦略マネジメント機構	●			○					
53	袈裟丸　彰蔵	佐賀県	袈裟丸マリン合同会社	●		○						
54	猪狩　忠光	鹿児島県		●		○						
55	高橋　清孝	宮城県	NPO法人　シナイモツゴ郷の会	●						○		
56	丹羽　晋太郎	茨城県	茨城県水産試験場　内水面支場	●								
57	浅枝　隆	埼玉県	埼玉大学名誉教授	●						○		○
58	林　紀男	千葉県	千葉県立中央博物館　主任上席研究員	●						○		
59	川上貴史	神奈川県	(株)水土舎	●		○	○		○	○		○
60	桐生　透	長野県	元山梨県水産技術センター特別研究員	●						○		
61	藤岡　康弘	滋賀県	元　滋賀県水産試験場	●						○		
62	崎長　威志	広島県	広島県内水面漁業協同組合連合会　参与	●						○		
63	稲田　善和	福岡県	九州・水生生物研究所　所長	●						○		
64	望岡典隆	福岡県	九州大学大学院 農学研究院 資源生物科学部門 水産増殖学研究室 特任教授	●			○			○	○	

(2) サポート専門家による指導と参考資料の作成

活動組織へのサポート専門家の派遣は、以下の要領で実施した。

表 2-2-4　専門家派遣の種類と活動組織の選定方法

個別サポート	派遣要請のあった活動組織（現地指導、遠隔サポート）、地域協議会（研修会など）
ヒアリング	自己評価、アンケート結果等から任意に抽出した活動組織

個別サポートについては、要望を精査し、活動組織の技術的なレベルアップに寄与すると判断された場合に、適任の専門家を選出した上で現地に派遣した。

① 個別サポート

1）サポート専門家による技術的指導

要望に応じて指導した活動組織数は延べ 99 組織であり、すべての組織に対し、現地を訪問した個別指導を行った。

現地の要望に基づき指導した活動組織と担当専門家を表 2-2-5 に、個別指導の内訳を図 2-2-2 に示した。技術面の指導のうち、藻場のモニタリング・保全活動に関する指導が最も多く、次いで運営に関する指導が多かった。

各サポート専門家は、指導実施後に所定の様式による報告書を作成し、海面の活動組織についてはJF全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連にそれぞれ提出した。

サポート専門家による個別サポート報告書を資料編5に収録した。

表 2-2-5（1）個別サポート実施活動組織（1）

No.	訪問先（道府県）	訪問先（活動組織名）	専門家氏名	訪問月日	種別	内容	形式
1	北海道	北斗市アサリ漁場環境保全活動組織	中尾　博己	7/29	技術	干潟	個別指導
2				3/3、4	技術	干潟	個別指導
3	青森県	小川原湖地区漁場保全の会	藤田　孝康	6/15	技術	干潟	個別指導
4				10/28	技術	干潟	個別指導
5	神奈川県	江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト	田中　和弘	4/29	技術	藻場	個別指導
6				12/29	技術	藻場	個別指導
7			大浦　佳代	8/13	技術	藻場	個別指導
8				8/21	技術	藻場	個別指導
9				9/14	技術	藻場	個別指導
10				10/2	技術	藻場	個別指導
11	富山県	射水市豊かな海を愛する会	高山　優美	12/5	技術	藻場	個別指導
12		滑川高校 海洋クラブ	藤田　大介	12/16	技術	藻場	個別指導
13	三重県	石鏡地区藻場保全活動組織	川畑　友和	12/14	技術	藻場	個別指導
14	兵庫県	一宮地区海づくり	反田　實	6/8	技術	藻場	個別指導
15		但馬漁協　竹野支所	永田　昭廣	7/9	技術	藻場	個別指導
16		明石地区東二見豊かな海を守る会	反田　實	1/30	技術	干潟	個別指導
17	徳島県	阿部の藻場を守る会	永田　昭廣・三橋　公夫	6/20	技術	藻場	個別指導
18		木岐藻場育成協議会	永田　昭廣・三橋　公夫	7/4	技術	藻場	個別指導
19				10/17	技術	藻場	個別指導
20		日和佐藻場再生委員会	永田　昭廣・三橋　公夫	7/5	技術	藻場	個別指導
21				10/16	技術	藻場	個別指導
22		牟岐の藻場を守る会	永田　昭廣・三橋　公夫	7/6	技術	藻場	個別指導
23				11/16	技術	藻場	個別指導
24		竹ケ島海域公園のエダミドリイシサンゴを守る会	岩瀬　文人	11/19	技術	藻場	個別指導
25	愛媛県	愛南の藻場を守る会	安藤　亘・南里　海児	9/9	技術	藻場	個別指導
26	高知県	高知県地域協議会	菅　啓二	1/28	運営	書類作成方法の指導	研修会
27	福岡県	脇田藻場保全部会	南里　海児	6/8	技術	藻場	個別指導
28		脇の浦磯資源保全部会		6/8	技術	藻場	個別指導
29		馬島活動組織		6/17	技術	藻場	個別指導
30		藍島藻場保全部会		6/17	技術	藻場	個別指導
31		八尋活動組織	吉永　聡	10/4	技術	干潟	個別指導
32		吉富町水産多面的活動組織		10/10	技術	干潟	個別指導
33		行橋市水産多面的活動組織		10/25	技術	干潟	個別指導
34		築上町水産多面的活動組織		11/14	技術	干潟	個別指導
35	佐賀県	玄界灘を美しくする会	岩瀬　文人	5/10、11	技術	藻場	個別指導
36				12/16、17	技術	藻場	個別指導
37		鎮西地区藻場保全活動の会	川畑　友和	11/29	技術	藻場	個別指導
38	長崎県	大瀬戸地区藻場育成会	中嶋　泰・渡辺　耕平	5/3	技術	藻場	個別指導
39		瀬川地区海渚を再生する会		5/4	技術	藻場	個別指導
40		三浦湾地区藻場保全組織		5/27	技術	藻場	個別指導
41		高浜地区藻場保全活動組織		5/28	技術	藻場	個別指導
42		内院地区藻場保全組織	渡辺　耕平・杉崎　康司	5/29	技術	藻場	個別指導
43		佐須奈地区藻場保全組織		5/30	技術	藻場	個別指導
44		塩浜地区藻場保全組織	渡辺　耕平・杉崎　康司	5/31	技術	藻場	個別指導
45			菅　啓二	2/27	運営	書類作成方法の指導	個別指導
46		鹿見地区水域保全組織	渡辺　耕平・杉崎　康司	6/1	技術	藻場	個別指導
47		豊地区藻場保全組織		6/3	技術	藻場	個別指導
48		河内地区藻場保全組織		6/5	技術	藻場	個別指導
49		鰐浦地区藻場保全組織		6/6	技術	藻場	個別指導
50		三重地区活動組織	穴口　裕司	5/13、14	技術	藻場	個別指導
51				2/13	技術	藻場	個別指導

表 2-2-5 (2) 個別サポート実施活動組織 (2)

No.	訪問先（道府県）	訪問先（活動組織名）	専門家氏名	訪問月日	種別	内容	形式
52	長崎県	綱島地区藻場保全組織	菅　啓二	5/29	運営	書類作成方法の指導	個別指導
53		塩浜地区藻場保全組織		5/29	運営	書類作成方法の指導	個別指導
54				2/27	運営	書類作成方法の指導	個別指導
55		水崎地区水域保全組織		5/29	運営	書類作成方法の指導	個別指導
56		鴨居瀬地区藻場保全組織		5/30	運営	書類作成方法の指導	個別指導
57				2/28	運営	書類作成方法の指導	個別指導
58		外海地区活動組織	南里　海児	6/5	技術	藻場	個別指導
59			安藤　亘・南里　海児	11/22、23	技術	藻場	個別指導
60		玉之浦地区活動組織	渡辺　耕平・杉崎　康司	6/8	技術	藻場	個別指導
61		岐宿地区活動組織		6/9	技術	藻場	個別指導
62		大浜地区活動組織		6/10	技術	藻場	個別指導
63		富江地区活動組織		6/11	技術	藻場	個別指導
64		崎山地区活動組織		6/12	技術	藻場	個別指導
65		奈留地区活動組織		6/13	技術	藻場	個別指導
66		福田地区活動組織	中嶋　泰・渡辺　耕平	6/18	技術	藻場	個別指導
67		西彼南部地区活動組織/香焼地区		6/19	技術	藻場	個別指導
68		西彼南部地区活動組織/伊王島地区		6/20	技術	藻場	個別指導
69		網場地区活動組織		6/22	技術	藻場	個別指導
70		茂木地区活動組織	渡辺　耕平・杉崎　康司	6/26	技術	藻場	個別指導
71		琴海地区活動組織		6/27	技術	藻場	個別指導
72		橘湾地区活動組織		6/28	技術	藻場	個別指導
73		深堀地区活動組織	渡辺　耕平・吉村　拓	6/29	技術	藻場	個別指導
74		長崎県庁	菅　啓二	7/4	運営	書類作成方法の指導	研修会
75		上対馬総合センター	菅　啓二	7/25、26	運営	書類作成方法の指導	研修会
76		「鷹島地区」藻場の保全活動組織	安藤　亘・南里　海児	8/8	技術	藻場	個別指導
77		長崎県　県北振興局	菅　啓二	9/19	運営	書類作成方法の指導	研修会
78		長崎県　壱岐市		10/2	運営	書類作成方法の指導	研修会
79		長崎県　五島市		10/29	運営	書類作成方法の指導	研修会
80		長崎県庁		11/7	運営	書類作成方法の指導	研修会
81		有家の浜を守る会	吉永　聡	2/6	技術	干潟	個別指導
82	大分県	名護屋地区藻場保全活動組織	中嶋　泰・渡辺　耕平	5/1～4	技術	藻場	個別指導
83				7/17	技術	藻場	個別指導
84				8/8	技術	藻場	個別指導
85				11/12、13	技術	藻場	個別指導
86	熊本県	川口二枚貝保全活動組織	吉永　聡	5/1	技術	ヨシ帯	個別指導
87	宮崎県	平岩採介藻グループ	渡辺　耕平	1/29	技術	藻場	個別指導
88	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	安藤　亘・渡辺　耕平	4/20	技術	藻場	個別指導
89				11/17	技術	藻場	個別指導
90		高尾野川をきれいにする会	稲田　善和	7/31	技術	内水面	個別指導
91			望岡　典隆	8/3	技術	内水面	個別指導
92			吉永　聡	9/30	技術	内水面	個別指導
93			吉永　聡	2/10	技術	内水面	個別指導
94		日置市多面的環境保全協議会	酒井　章	10/17	技術	藻場	個別指導
95	沖縄県	伊江島海の会	石田　和敬	6/26～28	技術	サンゴ礁	個別指導
96			石田　和敬・永田　昭廣	7/19～21	技術	サンゴ礁	個別指導
97			石田　和敬・山本　貴史	7/27、28	技術	藻場	個別指導
98			石田　和敬	11/7	技術	藻場	個別指導
99			石田　和敬、・永田　昭廣・山本　貴史	1/8～11	技術	藻場、サンゴ礁	個別指導

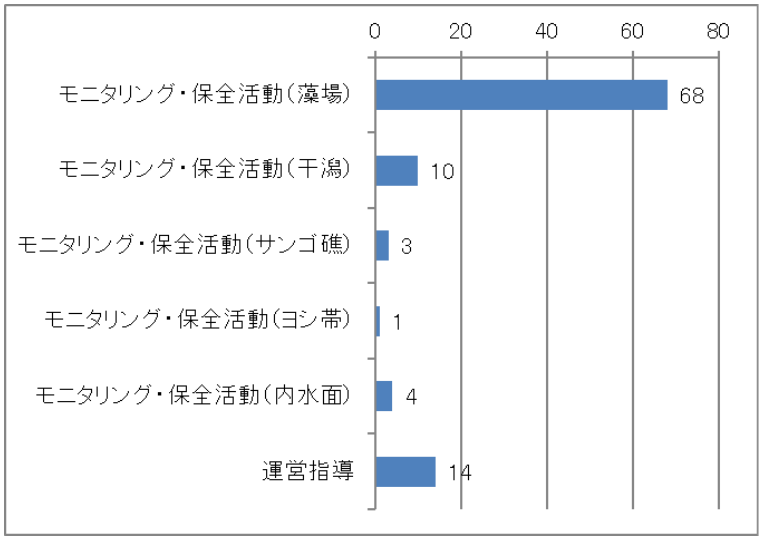


図 2-2-2 個別指導の内訳

2) 長期個別サポート

昨年度に引き続き、個別サポートを受けたことがない活動組織に、その効果を周知するための資料を作成することを目的として、「諸磯藻場保全活動組織」への長期個別サポートを実施した。期間は令和４年度から令和７年度を予定しており、昨年度に引き続き神奈川県の「諸磯藻場保全活動組織」を対象とした。

長期個別サポート報告書を資料編 5 に収録した。

表 2-2-6　長期サポートを実施した活動組織

地域	対象	実施時期	担当者	活動項目
神奈川県	諸磯藻場保全活動組織	5 月～2 月	田所　悟	藻場

3) 個別サポート実施状況報告

サポート専門家 3 名が、自身が行った個別サポートのうち、水産庁から指定を受けたものについて個別サポート報告書を基に実施状況の報告を行った。指定された活動組織を表 2-2-7 に示す。

表 2-2-7　サポート実施状況報告を行った活動組織

No.	地域	対象	担当者	活動項目
1	佐賀県	玄界灘を美しくする会	岩瀬　文人	藻場
2	愛媛県	愛南の藻場を守る会	安藤　亘	藻場
3	鹿児島県	高尾野川をきれいにする会	望岡　典隆 稲田　善和	内水面

② 自己評価結果に係るヒアリング

今年度は令和 5 年度の自己評価の点数が 2 点未満で、成果目標の達成に苦慮していると考えられる活動組織を抽出し、サポート専門家を派遣した。抽出した活動組織を表 2-2-8 に示し、サポート専門家による個別サポート報告書を資料編 5 に収録した。

表 2-2-8　ヒアリングを行った活動組織

No.	道府県	活動組織名	担当者	活動項目
1	神奈川県	湘南漁協佐島支所食害生物除去活動組織	田所　悟	干潟
2	新潟県	三面川環境保全の会	川上　貴史	内水面
3	長野県	千曲川の自然を守る会活動組織	川上　貴史	内水面
4	愛知県	豊川上水辺保全会	崎長　威志	内水面
5	滋賀県	余呉湖をきれいにする会	藤岡 康弘	内水面
6	兵庫県	寺前流域小田原川アメニテイー研究会	藤岡 康弘	内水面
7	島根県	宍道湖流域保全協議会	崎長　威志	内水面
8	沖縄県	大宜味村環境・生態系保全組織	長田　智史	藻場

(3) 指導内容の整理と参考資料の作成

サポート専門家が提出した報告書を整理し、他の活動組織の参考となると考えられる事項を表 2-2-8 に Q&A として整理した。

表 2-2-8　サポート Q&A

	質疑	応答
①藻場の保全		
1	アカモク培養装置の改良についてご意見をいただきたい	種糸に播種したアカモク種苗を平置きで培養すると珪藻に覆われやすいという問題がある。平置きのままであればスプレー方式の方が優れており、最近では浮遊培養方式が主流となっている
③干潟等の保全		
1	客土を安定させたい	造成箇所の客土の洗掘・流失が著しいため、飛散防止策を講じることが重要。盛土材の粒径を大きくすると共に、割栗石の混成率を高めること、さらに、稚貝沈着の副次効果を期待した、現場波浪条件に叶ったかぶせ網設置を提案する
2	網袋にかける労力の軽減を図れないか	現在、砕石を使用されているが、半分を軽石に変えるなどしたら、労力軽減につながるかもしれない。静岡県のアサリのカゴ養殖などでは軽石が使用されているので、網袋において試験的に実施されてみても良いと思う
3	被覆網のメンテナンスの頻度は、どのくらいが良いのか	被覆網のメンテナンスの頻度は、設置場所の環境条件によるが、2 ヶ月に 1 回程度を目安とする。砂が 10cm 以上堆積すると、網をめくる労力も大きくなるので、定期的に監視・メンテナンスするのが望ましい。また、網をめくる際には、アサリの生息密度をコントロールする目的で、例えば殻長 35mm 以上の個体を間引く等行うのも良いと考える

2-3. 保全手法等の開発と普及

漁業者等が取り組める効果的な保全手法等の開発と普及を行う。本年度は、以下に示す保全手法等の開発と普及を行った。

(1) 環境生態系保全向け活動記録アプリの改良（継続）

令和６年度では、令和５年度に実施したワークショップにて得られた課題・要望で挙がった記録開始および終了地点の登録に、活動中の地点登録を行えるように改良を行う。

(2) ワークショップの開催（継続）

これまで開発されてきた保全手法について、参加者が主体となる体験型講座（ワークショップ）を開催し、技術の普及を図った。

本年度は以下のワークショップを実施した。

・環境生態系保全向け活動記録アプリの使い方講座
・ウニフェンスづくり体験

① 環境生態系保全向け活動記録アプリの使い方講座

環境生態系保全向け活動記録アプリは、活動団体やその団体を管理する行政機関が、容易に活動記録が実施でき、活動記録を閲覧および出力することができるアプリである。

本ワークショップでは、活動記録アプリを実際に使用する際の方法や注意点を教えることを目的として実施した。

②ウニフェンスづくり体験

ウニフェンスは、藻場の保護や回復目的として、ウニの侵入を抑制するために用いるフェンスである。このフェンスを設置することで、大幅にウニの侵入を防ぎ、効果的な磯焼け対策を実施することができる。しかし、ウニフェンスの普及率はあまり高くないことと、作成の手順やポイントを伝えることを主目的とし、このウニフェンスを参加者と実際に作り、今度の活動に役立ててもらうことを目的として実施した。

2-4. 水産多面的機能発揮対策事業の情報提供・共有

(1) 模範、参考となる活動組織の抽出

表 2-4-1 に示す 12 地区の優良事例を選定し、聞き取り調査等によって実践する保全活動や連携等における内容や特徴を把握し、他の活動組織の模範・参考となる資料を作成した。

なお、活動組織は、原則、以下の基準によって抽出した。

① 藻場または干潟等の保全を行っている活動組織において、過去に活動内容の変更または追加を行ったことによる対象生物の増加となった事例（計 3 件）

② 藻場または干潟等の保全を行っている活動組織において、過去に活動内容の変更または追加を行ったことによる対象生物の減少となった事例（計 3 件）
③ 上記①および②以外の活動組織において、不審船または環境異変の早期通報件数の増加となった事例（計 3 件）
④ 非営利団体や企業等との連携による活動の効率化、国民の理解・増進に資する事例（計 3 件）

なお、「③」については、直近の 3～5 年において早期通報件数が増加した組織がほぼ認められなかったことから、海難救助等において表彰を受けたことのある地区や磯焼けの状態を監視する組織を対象とした。

表 2-4-1　選定した模範、参考となる活動組織の一覧

対象	No	地区	組織名	該当基準
藻場	1	徳島県美波町	日和佐藻場再生委員会	②
	2	長崎県佐世保市	北九十九島地域活動組織	②
	3	大分県日出町	日出地域活動組織	②
	4	宮崎県日向市	平岩採貝藻グループ	①
干潟	5	大分県杵築市	守江湾干潟保全の会	①
	6	熊本県八代市	鏡町アサリ活動組織	①
監視	7	北海道羅臼町	羅臼水域監視活動組織	③
	8	青森県中泊町	中泊町沿岸訓練実施隊	③
	9	長崎県壱岐市	勝本地区活動組織	③
連携・教育	10	神奈川県三浦市	城ヶ島藻場保全活動組織	④
	11	愛媛県愛南町	愛南の藻場を守る会	④
	12	長崎県南島原市	深江ブループロジェクト活動組織	④

(2) 事例集の作成・配布

前述の表 2-4-1 に示した優良事例（12 事例）について、活動の要点を事例集として整理し、全国の地域協議会及び活動組織に配布した。また、当事例を次項の事例報告会において紹介するために、口頭発表の対象となった 3 事例（上記の日和佐地区（No1）、平岩地区（No4）、深江地区（No12））の発表資料の作成に係るサポートや、それ以外の事例のポスター製作を行った。

(3) 事例報告会の開催

1) 参加対象及び広報

水産多面的機能揮対策に取組む全国の活動組織の技術的水準の向上を図るとともに、本事業を広く国民に周知することを目的とした事例報告会（シンポジウム）を表 2-4-2

に示す会場、日程で開催した。

参加対象は以下のとおりとし、地域協議会を通じて各活動組織にポスター（図 2-4-1）を配布し、東京都を中心とした大学や教育委員会等の機関へ案内状を送付して周知を図った。

＜参加対象＞

・水産多面的機能発揮対策に参加する活動組織とその構成員
・関係都道府県、市町村及び地域協議会の事業担当者
・市民活動や環境問題等に興味のある学生（高校生・専門学校生・大学生）
・教育関係者（小・中学校、高等学校等）
・水産多面的機能発揮対策に興味のある個人、団体、企業等（一般）

＜開催を通知した教育機関等＞

・生物学系学部を有する首都圏大学・短期大学、専修学校
・全国の水産高等学校
・都内の専修学校
・東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の市町村教育委員会
・会場近隣の港陽小学校、有明西学園、武蔵野大学

表 2-4-2　事例報告会の会場・日程

会場	日本科学未来館（東京都江東区青海2-3-6）
日程	2025年1月25日（土）10：00～15：40（9：00 開場）
定員	約300名

2）開催内容

今年度は報告会のテーマを藻場とし、内容を藻場の保全活動に統一した。事例報告を行う活動組織は、主に優良事例地区から抽出した活動組織とした。また、会場の日本科学未来館は子供も利用できる施設であったため、家族での来館者への藻場保全活動の普及・啓発を目的として、海藻おしば協会へ依頼し、海藻おしば教室を開催した。表 2-4-3 に口頭発表のプログラムを、表 2-4-4 にポスター発表（展示のみ）を行う活動組織を示した。

会場での発表と並行して YouTube での同時配信を行い、来場せずとも視聴できる体制を整えた。ウェブでの参加者には、チャット機能による発表者等への質問ができるようにした。

なお、上記の優良事例（日和佐、平岩及び深江を除く）については、ポスターを作成し、テキストに収録した（別冊）。

表 2-4-3 に口頭発表のプログラムを、表 2-4-4 にテキストにポスターを掲載した活動組織（9 事例）を示した。

令和６年度 水産多面的機能発揮対策シンポジウム

「海の森の今」

入場無料！
日本科学未来館の常設展、特別展ドームシアターへの入場は別途料金が必要です。

2025年1月25日（土）

日本科学未来館（東京都 お台場）

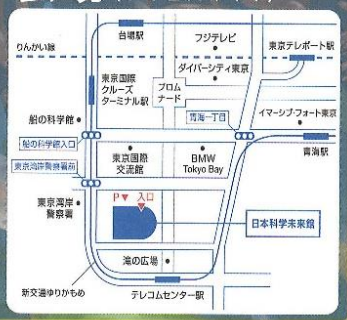
- 時　間 － 10：00～15：40（9：00開場）
- 会　場 － 未来館ホール（7階）
- 参加方法 － 来場、ウェブ（Youtube）視聴 ※Youtubeの配信URLは後日、ひとうみ.jpへ掲載します

講演内容

話題提供
パルシステム生活協同組合連合会　茂木洋介 氏
NPO 三陸ボランティアダイバーズ　佐藤寛志 氏
山川地区藻場保全委員会　川畑友和 氏

活動発表
日和佐藻場再生委員会（徳島県 美波町）
深江ブループロジェクト活動組織（長崎県 南島原市）
平岩採介藻グループ（宮崎県 日向市）

会場（アクセスマップ）



海藻おしば教室、おしば標本展示

- 時間 － 10時30分～14時30分
- 場所 － コンファレンスルーム水星・火星（7階）
- 定員 － 30人ほど

お気に入りの海藻で絵はがきを作ろう！

ひとうみ.jpのホームページ

イベント情報はこちらから！

お問い合わせ
全国漁業協同組合連合会（関根・片瀬）
電話　：03-6222-1315
FAX　：03-6222-1361
E-mail：info@hitoumi.jp

主催 水産庁
主管 全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会、（公社）全国豊かな海づくり推進協会
後援 全国地方新聞社連合会

ポスター内の生物：アオリイカ、サンゴタツ、クサフグ、トゲワレカラ、メバル科の稚魚、ガンガゼ

図 2-4-1　事例報告会案内ポスター

表 2-4-3　事例報告会（シンポジウム）のプログラム

時刻	内容	備考
9：00～	開場・受付	
10：00～	開会、挨拶、オリエンテーション	挨拶：JF全漁連 水産庁 司会：JF全漁連
話題提供		＜ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ＞ 八木　信行　氏 （東京大学 教授）
10：15～ 11：00	演題：パルシステム 産直産地の藻場再生 演者：パルシステム連合会 商品開発本部 茂木 洋介　氏	
11：00～ 11：45	演題：「震災復興活動から気候変動対策へ」 －１４年間の活動と未来へ向けて－ 演者：三陸ボランティアダイバーズ 佐藤 寛志 氏	
11：45～	休憩	
13：00～ 13：45	演題：劣化する鹿児島の沿岸域を改善するための取り組み ～企業を巻き込んだ藻場造成活動～ 演者：山川町漁業協同組合 川畑 友和 氏	
活動報告		
13：45～ 14：05	【海の監視ネットワーク強化】 ●柏原地区保全活動組織（福岡県芦屋町）	
14：05～ 14：25	【藻場の保全】 ●長崎市水産農林部水産振興課（長崎県長崎市） ●中嶋 泰氏（水産多面的機能発揮対策サポート専門家）	
14：25～	休憩	
14：40～ 15：00	【内水面生態系の保全】 ●鏡川環境保全の会（高知県高知市）	
ディスカッション		
15：00～ 15：30	＜コメンテーター＞ ・中嶋　泰　氏（オフィスMOBA） ・藤田　大介　氏（元 東京海洋大学大学院　准教授） ＜発表者＞　話題提供及び活動報告を行った発表者が登壇します	
15：30～	挨拶、閉会	挨拶：全漁連

表 2-4-4　ポスター事例

環境・生態系保全の事例

活動組織名	地域	主な活動内容
北九十九島地域活動組織	長崎県佐世保市	藻場の保全
日出地域活動組織	大分県日出町	
守江湾干潟保全の会	大分県杵築市	干潟等の保全
鏡町アサリ活動組織	熊本県八代市	
羅臼水域監視活動組織	北海道羅臼町	海の監視ネットワーク強化
中泊町沿岸訓練実施隊	青森県中泊町	
勝本地区活動組織	長崎県壱岐市	

連携の事例

活動組織名	地域	主な活動内容
城ヶ島藻場保全活動組織	神奈川県三浦市	藻場の保全
愛南の藻場を守る会	愛媛県愛南町	藻場の保全

事例報告会の申込者は 288 名（事務局、関係団体、コーディネーターを除く）であった。申込者の所属は「行政」が 54 名（19%）と最も多く、次いで「企業・NPO 等」が 48 名（17%）、「地域協議会」が 47 名（16%）の順であった。当日の参加者は日本科学未来館への来場者が 170 名（事務局、関係団体、コーディネーターを除く）、WEB 参加者が 216 名であった。

本報告会のテキスト（発表事例）を別冊資料に、コーディネーター・コメンテーターと発表者との質疑応答（議事録）を資料編 6 に収録した。

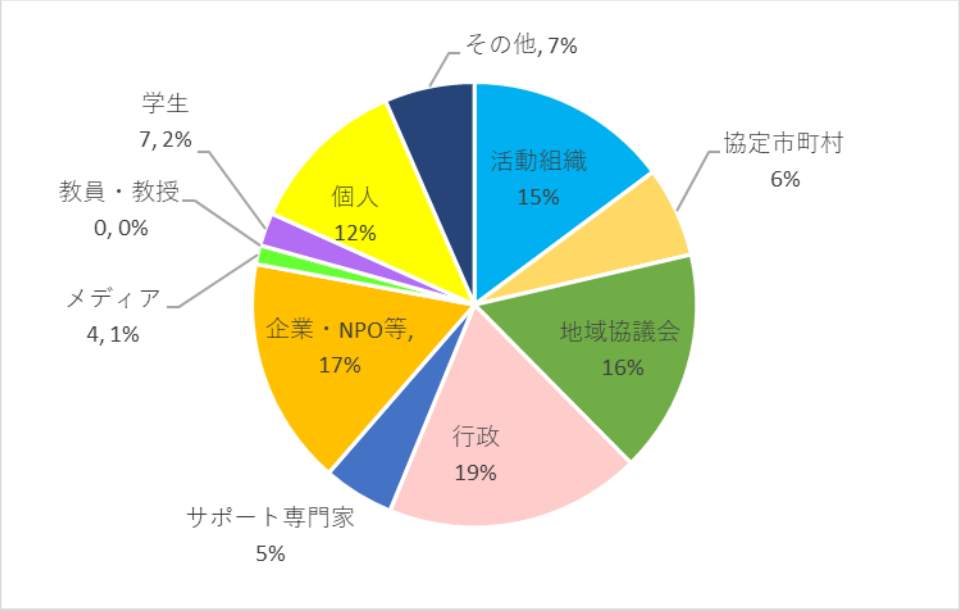


図 2-4-2　申込者の属性

会場

受付

開会挨拶（全漁連）

開会挨拶（水産庁）

話題提供（茂木 洋介氏）

話題提供（佐藤 寛志氏）

話題提供（川畑 友和氏）

活動報告（日和佐）

事例報告（深江）

事例報告（平岩）

ポスター展示

海藻おしば教室

図 2-4-3　報告会の開催状況

3）アンケート結果

東京大学講堂来場者に対し、図 2-4-4 に示すアンケートを実施した。来場者 170 名のうち、123 名から回答を得た（回答率 72%）。

また、ウェブ参加者にもウェブ上でのアンケートを実施しており、参加者 216 名のうち、22 名から回答を得た（回答率 10%）。以下、それぞれの集計結果を示す。

令和6年度 シンポジウム「海の森の今」参加者アンケート

2025.1.25

1．あなた自身について教えてください。

ご年齢 ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80歳以上

ご所属・ご職業

・事業関係者は以下から選択してください。

① 活動組織 ② 協定市町村 ③ 地域協議会会員（道府県庁・漁連等） ④ サポート専門家

・一般参加の方は以下から選択してください。

⑤ 会社員・会社役員 ⑥ 団体職員 ⑦ 自営業・自由業 ⑧ 公務員

⑨ 教職員（小・中・高・高専・大・専） ⑩ 学生（小・中・高・高専・大・専）

⑪ パート・アルバイト ⑫ 専業主婦(夫) ⑬ 無職 ⑭ その他（ ）

2．本日のシンポジウムについてうかがいます。

（1）「話題提供」はいかがでしたか？

① 参考になった・興味深かった ② どちらともいえない ③ 参考にならなかった・興味がない

（2）「活動報告」はいかがでしたか？

① 参考になった・興味深かった ② どちらともいえない ③ 参考にならなかった・興味がない

（3）本日の発表の中で参考になった、または興味がわいた事例はどれですか？（複数選択可）

① 日和佐藻場再生委員会の取り組みについて ② みんなで保全する『アマモすくすくプロジェクト』

③ クロメの森を守る

（4）「ディスカッション」はいかがでしたか？

① 参考になった・興味深かった ② どちらともいえない ③ 参考にならなかった・興味がない

（5）会場はいかがでしたか？

① 次回も同じ会場が良い ② 次回は違う会場が良い ③ 特になし

3．その他ご意見・ご感想をお聞かせください。

4．一般参加（事業関係者以外）の方にお聞きします。このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？

① 新聞広告 ② ウェブサイト※1 ③ 郵送でのご案内（DM） ④ 知人の紹介

⑤ その他（ ）

※1：「ひとうみ.jp」、水産庁のウェブサイト

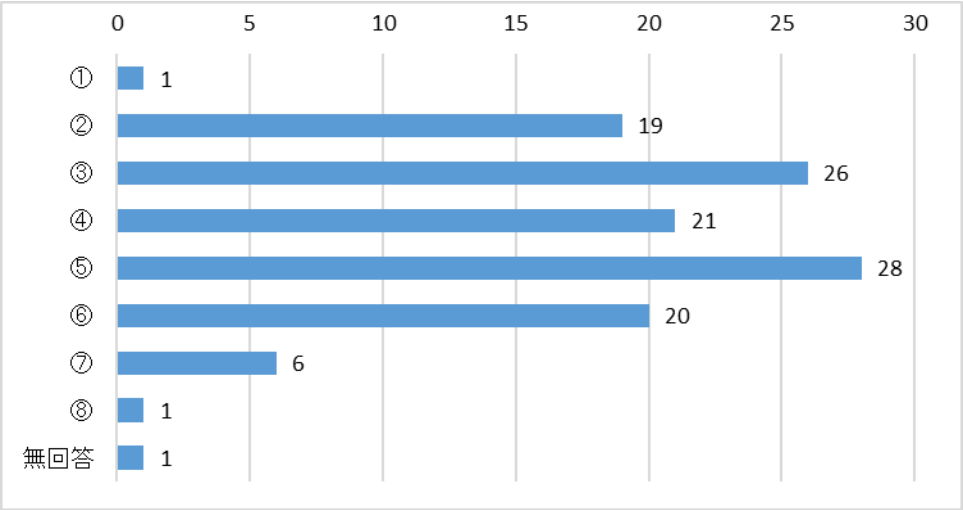
ご協力ありがとうございました。

図 2-4-4　来場者用アンケート用紙

【来場者のアンケートの集計結果】

１．あなた自身について教えてください

●ご年齢）　①10 代　②20 代　③30 代　④40 代　⑤50 代　⑥60 代　⑦70 代　⑧80 歳以上



●ご所属・ご職業）

〇事業関係者は以下から選択してください

①活動組織構成員　②協定市町村　③地域協議会会員　④サポート専門家・委員

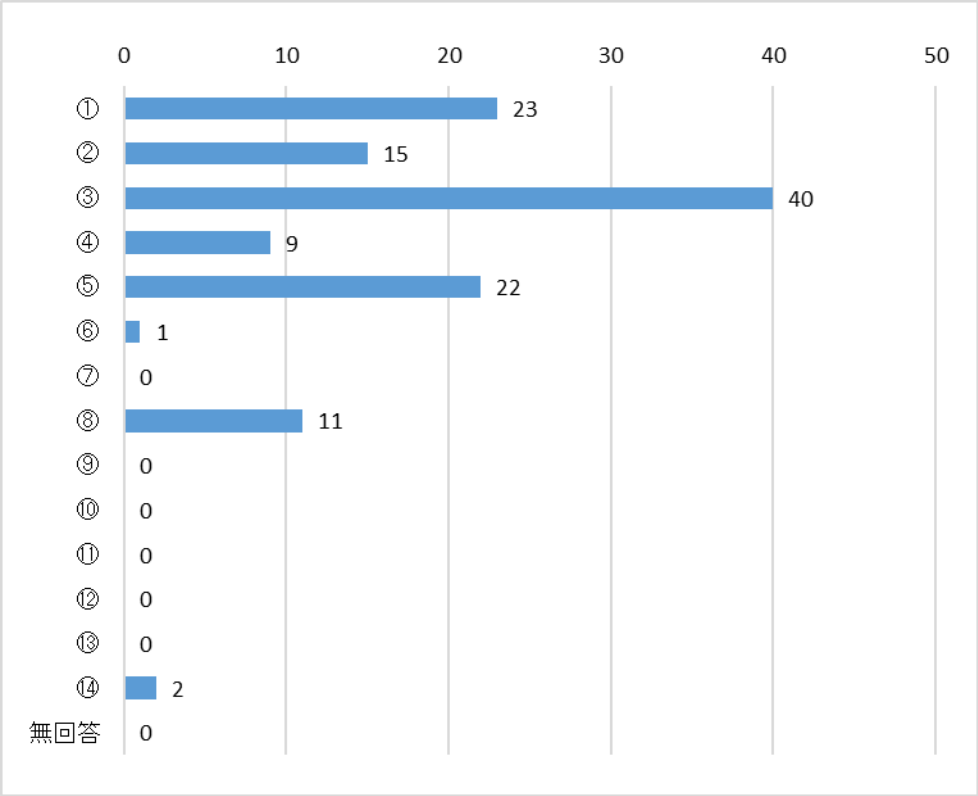
〇一般参加の方は以下から選択してください

⑤漁業者・漁協職員　⑥会社員・会社役員　⑦団体職員　⑧自営業・自由業

⑨公務員　⑩教職員（小・中・高・高専・大・専）

⑪学生（小・中・高・高専・大・専）　⑫パート・アルバイト　⑬専業主婦（夫）

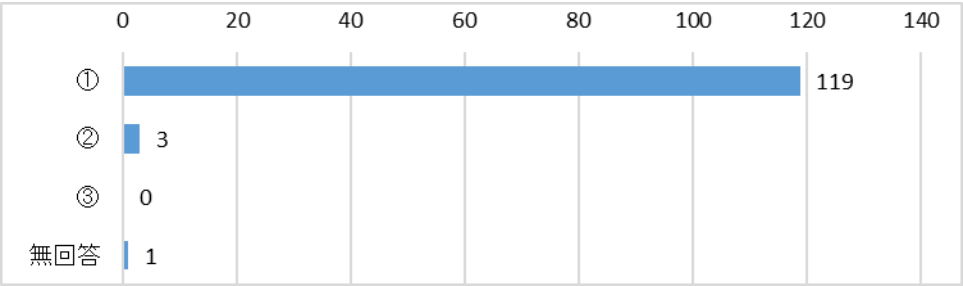
⑭無職　⑮その他（　　）



２．本日のシンポジウムについてうかがいます

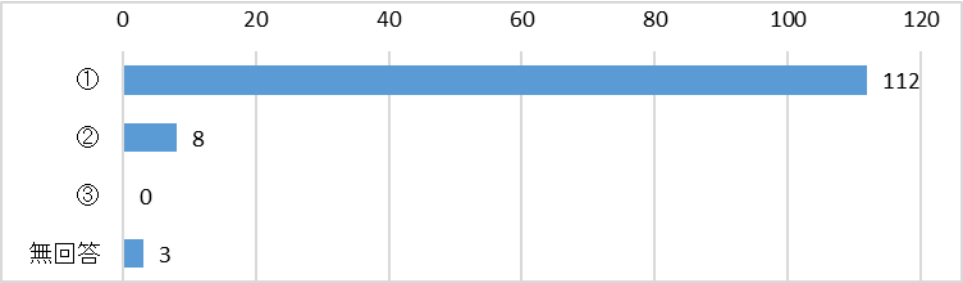
（１）「話題提供」はいかがでしたか？

①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない



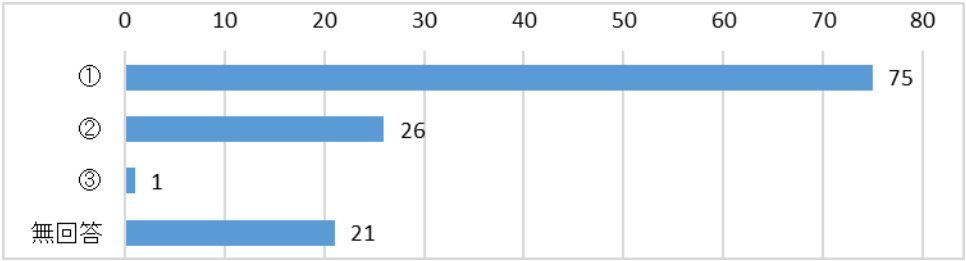
（２）「活動報告」はいかがでしたか？

①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない

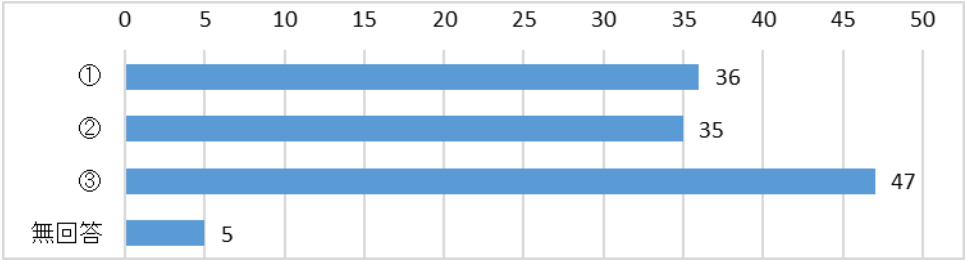


（３）本日の発表の中で参考になった、または興味がわいた事例はどれですか？（複数選択可）
①日和佐藻場再生委員会の取り組みについて　②みんなで保全する「アマモすくすくプロジェクト」　③クロメの森を守る

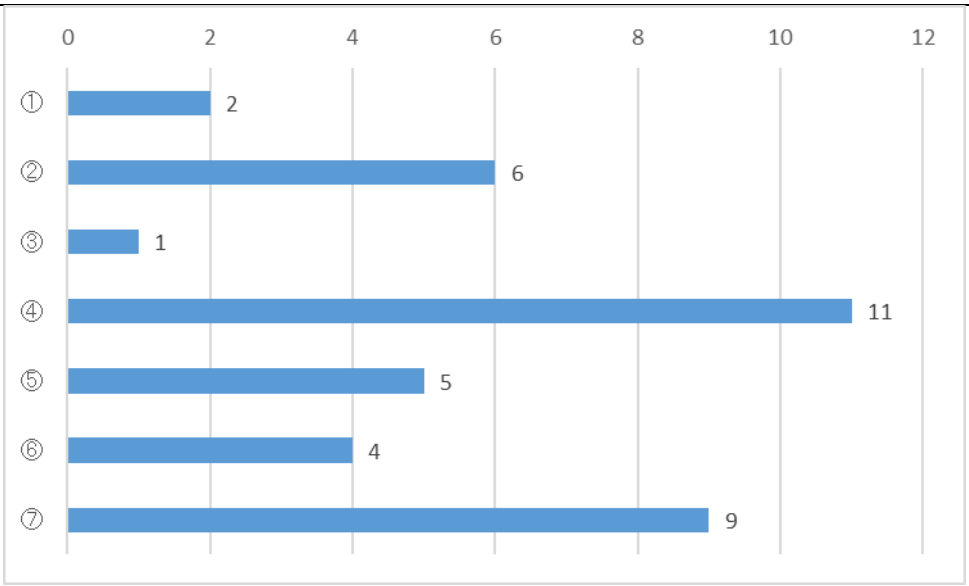
（４）「ディスカッション」はいかがでしたか？
①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない



（５）会場はいかがでしたか？
①次回も同じ会場がよい　②別の会場がよい　③特になし



３．その他ご意見・ご感想をお聞かせください
①「話題提供」について　②「活動報告」について　③「ディスカッション」について
④会場について　⑤開催時期、時間について　⑥報告会の構成等への意見・要望について
⑦その他



①「話題提供」について（2 件）
・三陸のダイバーと漁業者連携の話が面白かったです。
・川畑さんは漁青連の方で知っていたが、より深く話を聞きたくなった。

②活動報告について（6 件）
・次回は東北の自治体や主に福島県の海の安全を発信している団体を知り、学びたいと思います。ご検討くださいませ。アンケートやメモが取りやすい机やコンセントがあるので便利！
・どこも温暖化、水温の上昇、高齢化　若手がいない同じであるが、頑張って活動されている
・問題が①ウニ、魚類による食害、②温暖化（水温上昇）、③高齢化であり、この 3 つに対しこれからも取り組み続ける重要さを感じる
・学生さんへの教育をしている団体さんが多かったと思います。そのような活動に対しても補助金などを取得できるような制度を作っていただきたいです。
・今回も様々な取り組みの提供、ありがとうございました。長期にわたる取り組みになると思いますが、活躍期待します。
・多様な人材と連携し、活動に取り組む重要性がよく分かりました。

③「ディスカッション」について（1 件）
・ディスカッションの時間が不足しましたね。

④会場について（11 件）
・会場が少し狭いなと感じました。
・宿泊を考えた時に近隣のホテルを探すが、今回のような場所だとホテル代が高すぎる。
・席が座りにくい。
・日本科学未来館は場所が悪い。昼ご飯を食べる場所が少ない。
・都心から遠いので、ご検討ください。
・これまでの東大がよいと思います。
・見やすく、聞きやすい良い会場だと思いました。入場人数も適切だったと思います。
・磯焼け対策協議会と同じか近隣の会場だと助かります。
・主要新幹線駅から近い会場での開催をお願いしたいです。
・席の出入りがしづらい。
・大雨が降った際の移動が不安。

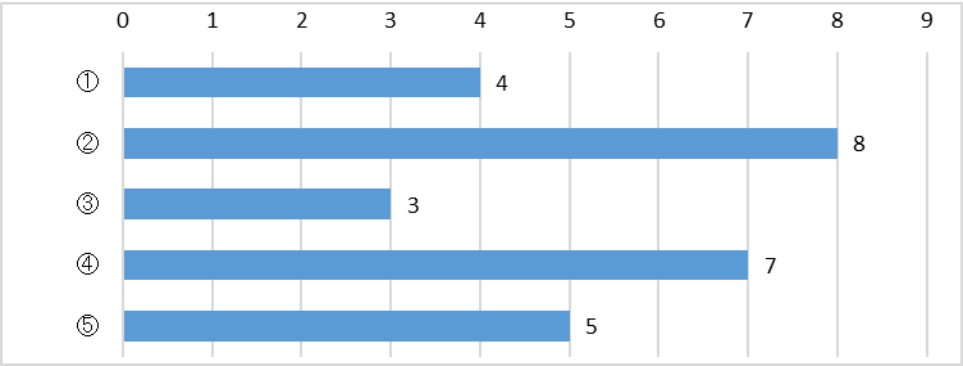
⑤開催時期、時間について（5 件）
・遠方から来る人には開始時間が早すぎる。
・遠方から来る場合、開催時間が 10 時からだと前泊に加え、帰りの時間も遅くなるので、で

きれば午後からの開催をお願いしたい。
・午前 10 時スタートだと前乗りしないと最初から参加できません。
・昼から夕方までの時間のほうがよいです（参加しやすいです）
・平日開催を検討いただきたいです。また、学校に周知して高校生や大学生への参加も促してはどうでしょうか。

⑥報告会の構成等への意見・要望について（4 件）
・ディスカッションの時間が短かった。
・高水温に対応した藻場造成の事例をもっと紹介してほしい。
・名札（シーフードショーのように漁業者、行政、民間、学識や九州、四国、関東など地域分けされて、所属と名前がわかるもの）があるとよいと思った。
・ディスカッションについて、もう少し時間があればよかったです。

⑦その他（9 件）
・大変すばらしいシンポジウムでした
・開催通知等連絡をもっと早くいただけませんでしょうか。毎回ギリギリなので。
・参考になりました。今後の活動に生かしてゆきたいです。
・ありがとうございました。参考になりました。
・とても有意義で胸が熱くなるシンポジウムでした。活動組織の方々にも見てほしい、参加してほしいと思いました。
・参加者の構成は分かりませんが、海に参画を考えている企業を呼ぶことも考えていただきたい。
・話題提供、活動報告ともに勉強になりました。
・ポスター発表の中身がなく、質問もできる。
・海藻おしばが良かったが、じっくり見たり体験時間が取れない。ポスターもゆっくり見たい。お昼時間を長くするとポスターだけでなく名刺交換、人脈作りができると思った。

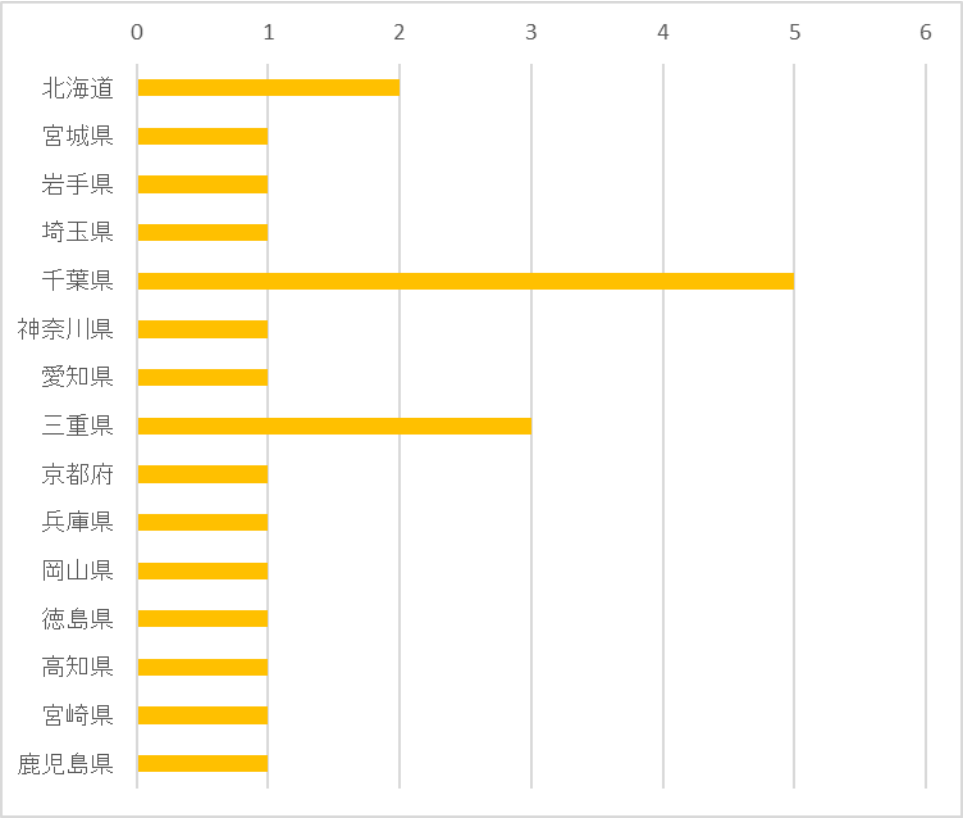
４．一般参加の方にお聞きします。このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？
①新聞広告　②ウェブサイト※1　③郵送でのご案内（DM）　④知人の紹介　⑤その他
※1：「ひとうみ.jp」、水産庁のウェブサイト



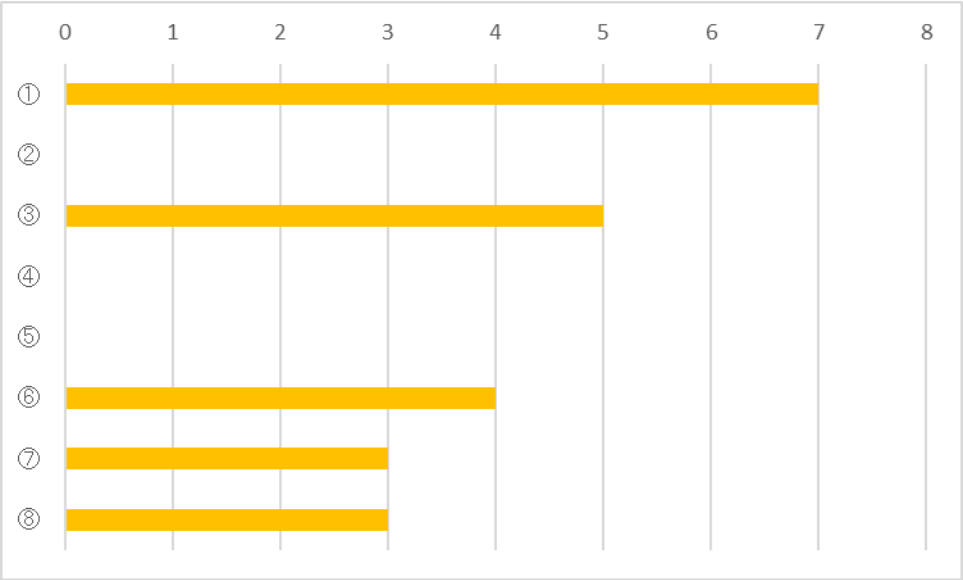
※所属・職業の設問で①活動組織、②協定市町村、③地域協議会、④サポート専門家を選択した回答を除外した。

【ウェブ参加者のアンケートの集計結果】

【アンケート回答】
1．お住まいの都道府県

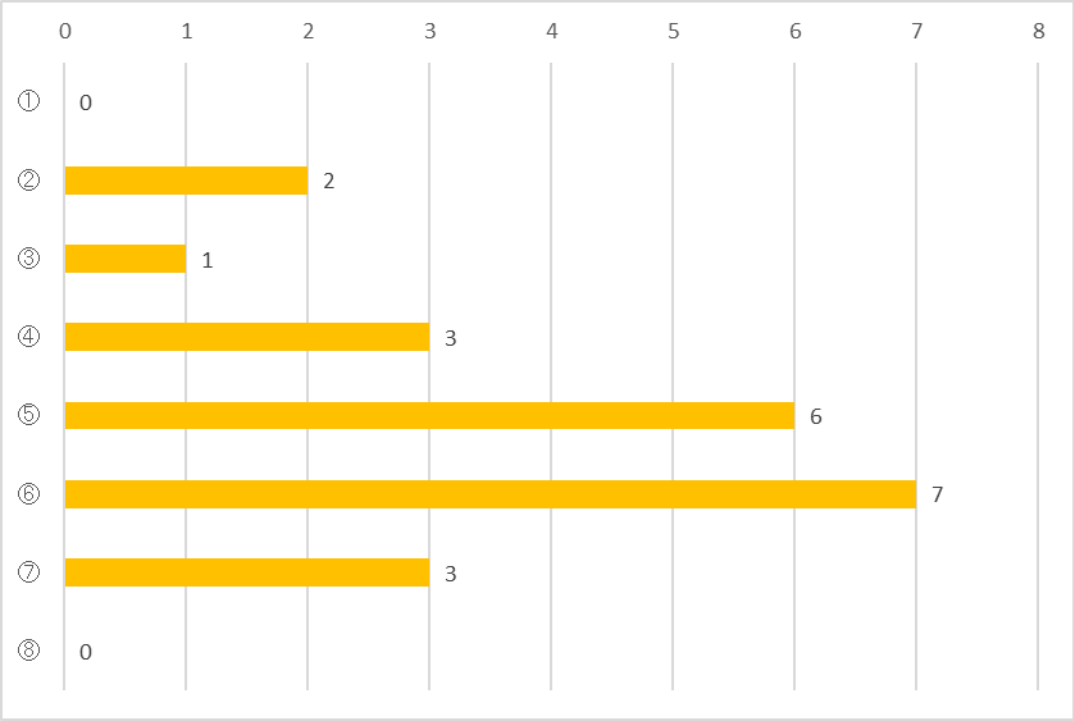


2．属性
①企業、NPO 等　②地域協議会（水産多面的事業）　③サポート専門家（水産多面的事業）
④学生　⑤協定市町村（水産多面的事業）　⑥行政　⑦活動組織（水産多面的事業）
⑧個人



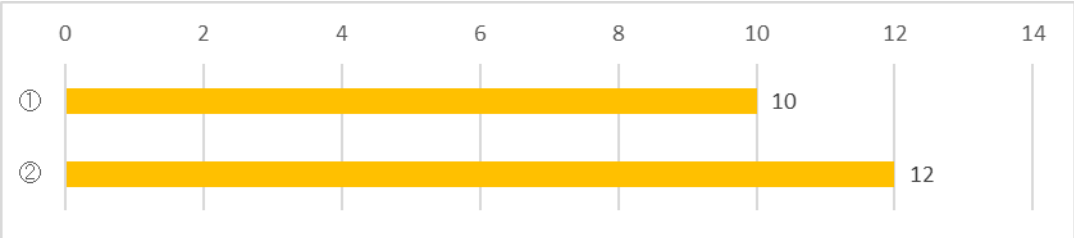
３. 年齢

①10 代　②20 代　③30 代　④40 代　⑤50 代　⑥60 代　⑦70 代　⑧80 歳以上



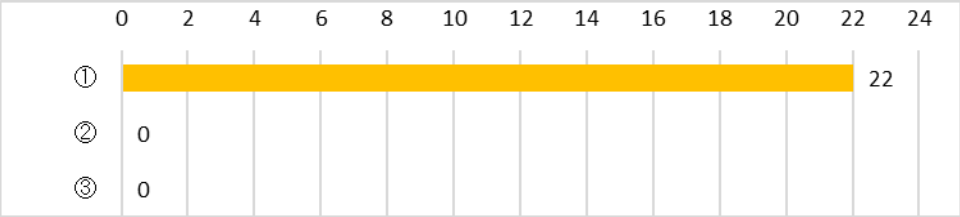
４. 過去の参加経験の有無

①あり　②なし



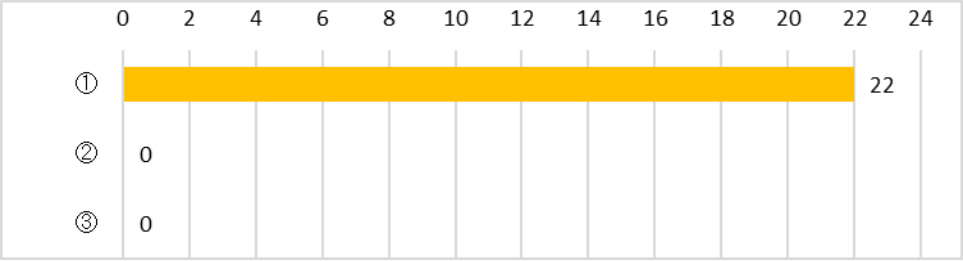
５. 話題提供について

①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない



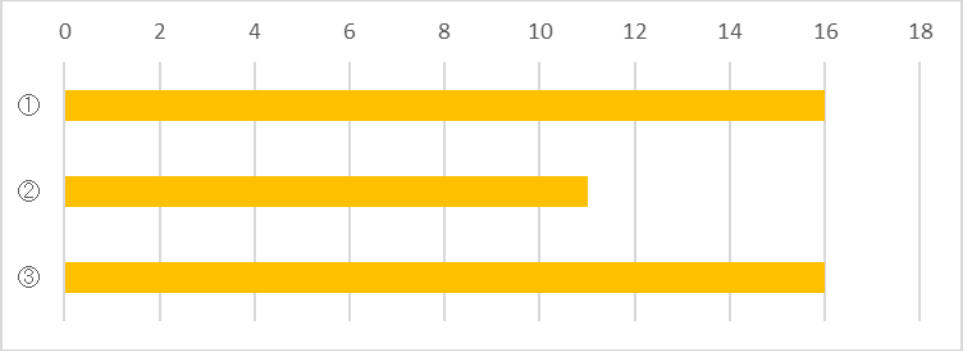
6. 活動報告について

①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない



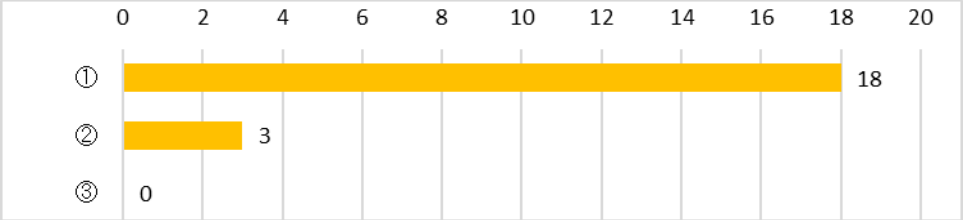
7. 本日の発表の中で参考になった、または興味の湧いた活動組織（複数回答可）

①日和佐藻場再生委員会の取り組みについて　②みんなで保全する「アマモすくすくプロジェクト」③クロメの森を守る



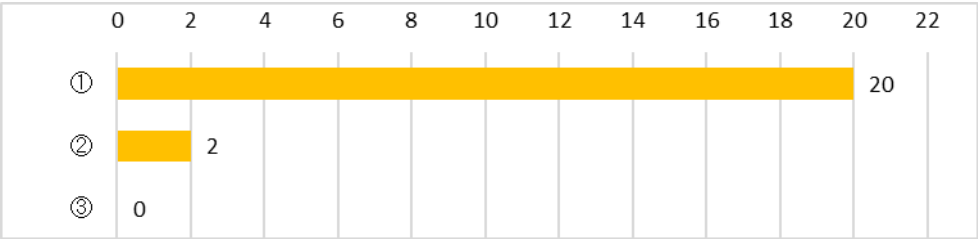
8. ディスカッションについて

①参考になった・興味深かった　②どちらともいえない　③参考にならなかった・興味がない



9. 視聴媒体の種類

①PC（Windows、mac）　②タブレット　③携帯電話



①話題提供について（1 件）

・山川漁協の川畑さんの活動の話しは机上論ではなく、実際に自分がやっていることなのでとても重みがあり、いつも感銘してます。日和佐藻場再生委員会の取り組みの一つの食害魚の買い取り事業を本町の活動にも取組んでいきたいと思いました。

②活動報告について（6 件）

・年毎に成果発表の質が上がっているように感じた。これからもそうありたい。
・新たな問題として海水温の上昇が顕著になってきていると実感した。
・漁業者や人間が関わる沿岸付近の海についての状況や情報は、普段なかなか知る機会が無いので大変参考になった。
・水産というと養殖技術向上や効率的な漁の実施、水産資源を確保した計画的な漁獲というイメージしかなかったが、海洋教育や藻場の再生といった漁獲に直接的につながるかどうか数値化するのが難しいところに関しても取り組みを深めていることに驚いた。様々な事例がきけたことが良かった。また、肥料が高騰しているなか、農業と漁業との連携で持続可能な 1 次産業ができると素晴らしいと感じた。
・他団体の活動を知ることが出来て良かった。今後の参考にしたい。
・皆さんの発表は分かりやすくて非常に良かったし、参考になった。

③その他（8 件）

・水産業界に約半世紀携わっていますが、時代とともにこのような情報共有の場が数多く開催されることは業界にとっても大変良い傾向と思います。反面、全国地域を回り課題に触れると本日の活動報告、事業報告含めまだまだ業界全体での情報共有の場、ネット情報開示の場が少ないと痛切に感じます。　生産者や漁協単協で情報発信することはまだまだ困難であることが多いことを踏まえると県団体や全国団体が単協に変わり発信拡散することで自治体や企業との連携に繋がりやすく課題克服のため一躍担うと経験上思う次第です。　情報収集が困難、情報に飢えている、情報の活用方法や解決方法がわからない、困っている等々の地方のためにも横のつながりが容易になることで解決早まります、今以上に情報を集約できる取りまとめれる専門の機構（部署）が必要ではないか、そこで情報発信のほかに指導・教育までこなせれるようであれば（単協の指導事業って本来こういうことじゃないのかな）気象変動の対応も迅速（後手になりにくい）になると個人的に思います。現に人口の少ない過疎の地域でもアンテナを高く張っているところでは変化に迅速に対応しています。　今回の「海の森の今」大変面白かったです。　今後もシンポジウム開催宜しくお願します。また準備など関わった方々には感謝申し上げます。
・ご苦労様でした。
・大変参考になりました。来年も参加したいので、来年度の企画が決まった際に、今年度の参加者へのご案内もいただけると嬉しいです。
・生協を利用することで漁業の取り組みをカタログや動画などの広報で知る機会が増え、今回は参加してみました。漁業関連、団体のみなさまの活動は素晴らしく、これからの漁業を守るためにも報告を続けていただきたいと思います。温暖化で獲れる魚も海の環境も今まで通りではない現状で、このように実施されている内容を共有してくださったグループの皆さんにも感謝です。海の森が豊かになりますように。。。ありがとうございました。
・磯焼けや海の中の環境変化は関心のある問題なので色々な取り組みや課題について学ぶことができて有意義な時間でした。地域でできることがないか探していきます。ありがとうございました。
・とても興味深く拝聴しました。お話がどれもおもしろくて、あっという間でした。水産庁がこういった助成金に予算をとっていることも知らなかったですし、各地でこんなに様々な活動をされているのは知らなかったです。磯焼けについて被害の深刻さを知れたのはよかったです。機会をありがとうございました。
・私には発表は無理ですが、会場参加したいですね！
・音声が小さく，聞き取りにくかった。

(4) 各種媒体による情報提供

各地の取組の手法を他の地域での活動に活かすとともに、広く国民にも多面的機能発揮に資する活動に対する理解の増進を図るため、ウェブサイト等の媒体を活用して情報を発信した。

① ウェブサイト

ウェブサイト「ひとうみ jp」への月別アクセス数は7月が最も多く（7,637件）、次いで8月（7,307件））と続いた。1月と2月を除いて、昨年度よりもアクセス数が増加した。

また、最も多く閲覧されたページは「みずべの生き物図鑑（磯場の生き物）」（11,659回）であり、次いで「全国の取組情報」（6,809回）であった。

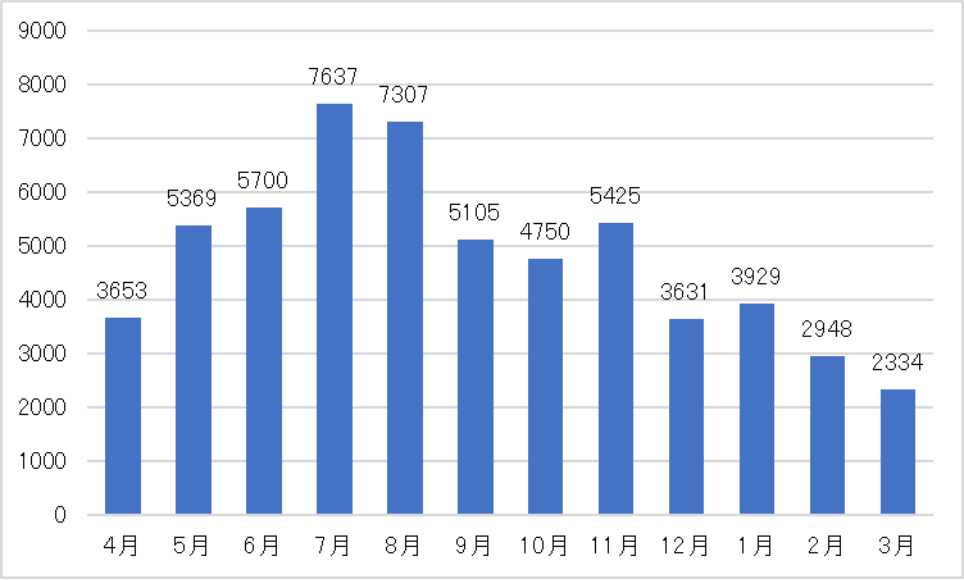


図 2-4-5　月別アクセス数（令和6年4月1日～令和7年3月21日）

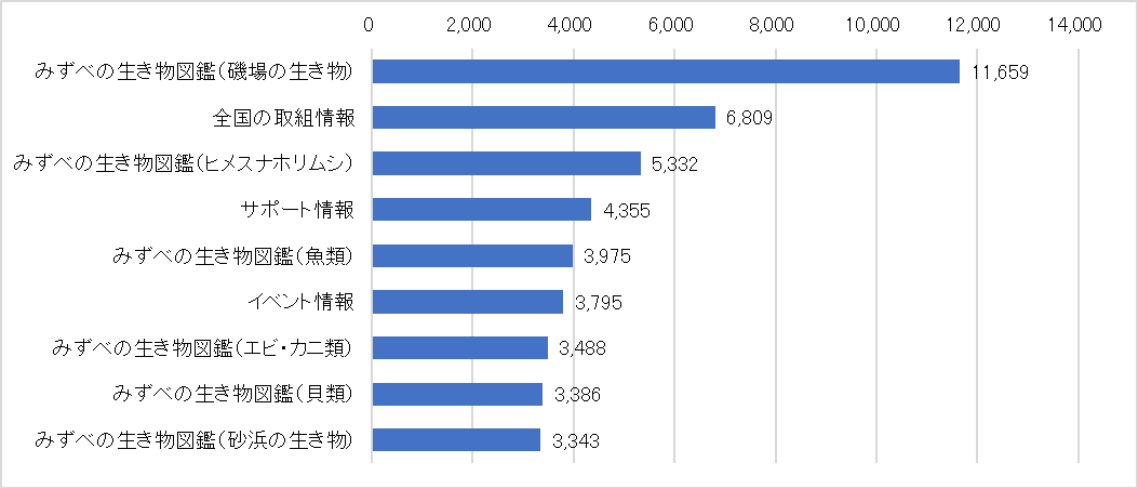


図 2-4-6　ページ別アクセス数（令和6年4月1日～令和7年3月21日）

また、昨年度に引き続き、活動組織が作成した原稿を基に作成した各活動組織の「取組紹介ページ」を本事業のウェブサイト「ひとうみ. jp」に公開した。

守江湾干潟保全の会（大分県杵築市）

●活動項目　干潟等の保全

●組織の構成　漁業者、大分県漁協杵築支店（32名）

●地域の現状・課題

・杵築市は別府湾の北東部に位置しており、市の地先には守江湾と呼ばれる入り江がある。この守江湾には広大な干潟が広がっており、アサリやカキ、ハマグリなど漁獲対象種となっている生き物から、アオギスやカブトガニのように絶滅危惧種として保護の対象となっている生き物まで、多様な生物が生息している。

・守江湾干潟には平成23年頃まで大量のアサリが生息し、毎年春頃には潮干狩りを楽しむ人で干潟が埋め尽くされる程だった。しかし、平成24年7月の豪雨災害以降アサリの漁獲量は激減した。その後も、稚貝発生量の低下やクロダイ等による食害の要因によって、以前のような水準に回復できていない。

・活動の課題としては、年間を通して母貝団地の維持管理が必要となっており、管理手法の簡便化やコストの削減等の対策が求められている。

●活動の内容

・保護区域の設定

被覆網と砂利網袋による母貝団地を造成し、産卵量の増加を図る。

設置した被覆網・砂利網袋には、アサリ稚貝の放流や網のメンテナンス、アサリの密度管理などの管理作業を行う。

・食害生物の除去(複足類)

母貝団地以外の干潟では、対象生物をツメタガイ(卵塊含む)、サキグロタマツメタ、アカニシとして、食害生物の除去を行っている。

●活動の効果

・母貝団地内のアサリ現存量は18トン前後（R6.9月）であり、産卵量の増加には一定程度寄与していると考えられるが、守江湾全体としてのアサリ資源の回復は見られない。

・今後もアサリの産卵する場を確保するために、母貝団地の管理を継続すると共に、地域小学生を対象としたアサリの間引き体験など行って、環境学習・体験学習の場としても広めていく。

モニタリングの状況

図 2-4-7　活動組織データシートの例

② 新聞広告

上記事例報告会の開催にあたり、東京近郊を中心に紙面を提供している東京新聞の紙面において報告会（シンポジウム）の告知広告を掲載した。(図 2-4-8)

また、シンポジウム終了後に東京新聞にて、パブリシティとしての記事が掲載された(図 2-4-9)。

表 2-4-5　掲載紙名及び掲載日

紙名	配達エリア	掲載日
東京新聞	関東地方（主に東京・神奈川・埼玉）	2024 年 1 月 18 日（土）

図 2-4-8　新聞への広告掲載（東京新聞）

海藻茂る藻場 再生への取り組み

全国6団体が、海藻が茂る藻場の再生に向けた先進的な取り組みや、企業や団体との協働を発表。インターネットでも配信され、漁業関係者ら約300人が参加・視聴した。

宮崎県日向市の漁業者らでつくる「平岩採介藻グループ」の岩本愛さん(40)は、海藻クロメを食べるウニの駆除を2010年に始めたところ、藻場が0・4㌶から8・6㌶に拡大し「豊かな森が見られるようになった」と報告＝写真。地元の小学5年生と海藻アマモの種まきを続けて14年目という長崎県南島原市の「深江ブループロジェクト活動組織」の吉田幸一郎さん(58)は、「楽しみながら活動することが継続するのに大事だ」と語った。（増井のぞみ）

「海の森の今」シンポ

江東の日本科学未来館

クロメ

水産庁主催のシンポジウム「海の森の今」（全国漁業協同組合連合会など主管、東京新聞などでつくる地方新聞社連合会後援）が25日、江東区の日本科学未来館で開かれた。

図 2-4-9　新聞への採録掲載（東京新聞）

② 定期的な活動情報の発信

ひとうみ．ｊｐへ活動組織が SNS のような形で簡単に普段の活動の様子を投稿できる「活動情報」のページへ全漁連から記事の投稿を行った。

2 月 28 日までにアップロードした記事の内容を表 2-4-6 に示した。

表 2-4-6　投稿された活動情報一覧

月日	道府県	記事の内容
7 月 10 日	富山県	甲賀地区景観環境保全会が主催する講演会を紹介
9 月 27 日	愛媛県	愛南の藻場を守る会の活動紹介
11 月 30 日	大分県	鎮西地区藻場保全活動の会の活動紹介
12 月 20 日	東京都	水産多面的機能発揮対策事業シンポジウムの告知
1 月 31 日	東京都	平岩採介藻グループの活動紹介
2 月 14 日	東京都	水産多面的機能発揮対策事業シンポジウムの報告

③ イベントへの広告出稿

表 2-4-6 に示すイベントで発行される紀要へ広告を出稿し、水産多面的機能発揮対策事業の周知と事例報告会（シンポジウム）の告知を行った。

表 2-4-6　出展イベント一覧

催事名	日時	会場	主催者
第 55 回全国小中学校環境教育研究大会	2024 年 12 月 26 日	対面開催	全国小中学校環境教育研究会

令和6年6月吉日

関係各小・中・義務教育学校長様

全国小中学校環境教育研究会　会長　關口　寿也
東京都小中学校環境教育研究会 会長　箱崎　高之

第56回全国小中学校環境教育研究大会
第60回東京都小中学校環境教育研究発表会

【 第 一 次 案 内 】

木々の緑が色濃くなる時期となりました。皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、全国小中学校環境教育研究会、東京都小中学校環境教育研究会では、標記の大会を開催いたします。つきましては、全国各地の小中学校、教育関係者をはじめ、多くの皆様のご参加をいただき、環境教育及び ESD のさらなる充実と発展を図るべく、ここにご案内申し上げます。

《研究主題》 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進
環境教育によって育む学力と環境保全意識

【日　時】　令和 6 年 12 月 26 日（木）　13時00分～16時45分
場所　エコギャラリー新宿　東京都新宿区西新宿 2-11-4
対面開催（後日期間限定録画配信予定）

【時　程】13:00 13:30　13:40　14:40 14:50　15:00　16:30　16:45

受付	開会式	研究発表	講評	休憩	講　演	閉会式

【講　演】　「ＥＶシフトはＣＯ２ 削減の救世主になれるのか？」

講師　Touson 自動車戦略研究所 代表　自動車・環境技術戦略アナリスト
愛知工業大学工学部客員教授　博士（工学）
藤村　俊夫　氏

＜講師プロフィール＞

1980 年に岡山大学大学院工学研究科修士課程を修了後、トヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)入社。本社技術部にて 24 年間、新エンジンの開発、エンジンのシステム部品設計に従事。2004 年に基幹職 1 級（部長職）となり、将来エンジンの技術開発推進、パワートレーン戦略策定などを行う。

2011 年に愛知工業大学に転出し、工学部機械学科教授として機械設計工学、熱力学、自動車工学概論などの講義を担当。2018 年 4 月京都市へ転居と同時に同大学工学部客員教授となり、Touson 自動車戦略研究所を立ち上げ、自動車関連企業数社の顧問をはじめ、コンサルティング、執筆・講演活動などを行う。

自動車技術会 代議員／論文校閲委員、機械学会会員。2003 年「ディーゼル PM、NOx 同時低減触媒システム DPNR」で日本機械学会技術賞受賞

著書に『EV シフトの危険な未来 2022 年 4 月発刊』『カーボンニュートラルを実現する自動車・エネルギー産業のあるべき「経営・開発」2022 年 9 月発刊』(共に日経 BP) がある。

【参加費】 対面参加・録画配信（資料代込） 2,000 円　ただし、全国会員は無料

【主　催】 全国小中学校環境教育研究会 ＜http://kankyokyoiku.jp/＞
東京都小中学校環境教育研究会 ＜http://kankyokyoiku.jp/tokyo/＞

【後　援】 文部科学省　環境省　東京都教育委員会　新宿区教育委員会　全国連合小学校長会
全日本中学校長会　東京都公立小学校長会　東京都中学校長会
日本教育公務員弘済会東京支部　日本 ESD 学会　日本環境教育学会　ESD 活動支援センター
関東地方 ESD 活動支援センター　（申請中）

大会事務局　世田谷区立城山小学校　校長　佐藤 弘典
TEL 03-3429-2062　FAX 03-3429-2049
E-mail kou031@setagaya.ed.jp

図 2-4-10　開催案内

図 2-4-11　紀要への掲載広告

(5) 国民の理解・増進に資する取組手法の周知

国民の理解・増進に資する取組については、講習会において、活動組織の構成員、地域協議会、行政など事業に係わる者を対象に、下記の資料等を用いて説明を行い、都市と漁村との交流や活動組織と多様な団体との連携を目的とした活動の手順、内容、留意事項等

を周知した。

① 水産多面的機能発揮対策における多様な連携の手引き（令和３年度水産多面的機能発揮対策支援委託事業成果品）

② 教育・学習活動のすすめ（令和３年度水産多面的機能発揮対策支援委託事業成果品）

2-5 非営利団体・企業との連携についての分析・整理

(1) 連携による効果分析

令和６年度は、昨年度に引き続き、学生と連携することで企業が参加しやすくするモデル地区づくりを実施している（表 2-5-1 参照）。

表 2-5-1　連携するモデル地区づくりリスト

No.	活動組織名	区分	学校	連携企業等
1（継続）	伊江島海の会（沖縄県伊江村）	サンゴ	玉川学園	国際航業㈱、 西松建設㈱
2（〃）	名護屋地区藻場保全活動組織 （大分県佐伯市）	藻場	地元小学校	佐伯市観光協会 ウニノミクス㈱
3（〃）	西彼南部地区活動組織(長崎県長崎市)	藻場	長崎大学	
4（〃）	外海地区活動組織(長崎県長崎市)	藻場	〃 外海中学校	三洋テクノマリン㈱
5（〃）	深江ブループロジェクト活動組織 (長崎県南島原市)	藻場・ 干潟	〃	
6（〃）	大崎上島地域の海辺を守る会 (広島県大崎上島町)	藻場	広島大学	
7（新規）	愛南の藻場を守る会(愛媛県愛南町)	藻場	愛媛大学	愛媛大学ダイビング OB
8（〃）	あいら藻場・干潟再生協議会	藻場	国分高校	
9（〃）	未定（佐賀県と調整中）	藻場	佐賀大学	
10（〃）	城ヶ島藻場保全活動組織	藻場	相模女子大学	
11（〃）	日和佐藻場再生委員会	藻場	小松島西高校	三井共同建設コンサルタント

(2) 人材育成

上記モデル地区の中から、「あいら藻場・干潟再生協議会」でリーダー育成を行っている。リーダーを対象に、アマモの生態から昨今のブルーカーボンに至る多様な取組み関する勉強会を実施した。

2-6 他分野における連携事例の収集と整理

他分野（農業、林業、観光）の事業において、非営利団体や企業等との連携事例について情報を収集し、活動内容、連携の内容やその効果、留意事項、その他参考となる事項をとりまとめた。

農業および林業分野、観光分野の類似事業における連携事例について収集と整理を行い、当事業における今後の連携体制づくりの取り組みの参考とする（表 2-6-1）。

表 2-6-1 事例収集先と収集方法

分野	事業名	収集方法
農業	多面的機能支払交付金制度	・令和 5 年度の取組事例集
林業	森林・山林多面的機能発揮対策交付金制度	・令和 5 年度の活動事例集
観光	観光地域づくり法人（DMO）	・令和 2 年度重点支援 DMO 取組事例集

令和 6 年度の事例の収集では、令和 3 年度事業の（ア）の結果（参考：令和 3 年度自己評価結果とりまとめ報告書 p18～28）から、主なポイントとして以下の 2 点に着目し、事例のリストアップと選定を実施した。

① 活動の継続性

② 活動方針の設定不足

３．令和６年度支援事業の成果と課題

3-1. 活動組織による自己評価

活動組織が提出した令和５年度の自己評価（16 号様式）及びモニタリング結果を整理した。各活動組織のモニタリング技術は一様ではないが、藻場やサンゴ礁の被度の調査にみられるように、年を追ってモニタリング手法が全国的に統一されてきており、モニタリングの重要性が認知され、個々のモニタリング技術とその精度についての精度が向上しているものと推測する。自己評価表の記述欄に詳細な状況を記載している活動組織もあり、活動の振り返りとして、自己評価表が有効に活用されていると考えられた。

また、自己評価結果とその根拠となるモニタリング結果を本委託事業で一元管理できたことは、全国規模の沿岸環境の状況を把握でき、かつ今後の評価のあり方を検討する上でも大きな成果であったと考えられる。

なお、本対策は、令和７年度から新事業として発足するため、令和６年度を区切りとして、過去の情報を整理し、成果をとりまとめる必要がある。とりまとめにあたっては、水産総合研究センター等とも情報共有し、定量的な成果と課題を整理する必要がある。令和 7 年度以降は、自己評価のあり方と自己評価の根拠となるモニタリング手法にも若干の変更が加わるため、混乱を招かないよう、かつ適切な情報を集約するためにも、活動組織を中心とした事業関係者への丁寧な説明が求められる。講習会のほか、必要に応じて事業説明会を開催し、事業関係者に早期に周知する必要があると考える。

3-2. 講習会の開催

講習会は、活動組織が行う水産多面的発揮活動の技術的水準の向上や活動組織相互の交流、情報交換の場を提供すること等を目的に、指導的役割を担う活動組織のリーダーや市町村の担当者、地域協議会事務局を受講対象者として開催した。

今年度は従来の形式の講習会に現地視察を加えた全国講習会と新たな形式の講習会として、現地のニーズに合ったよりきめ細やかな講習により保全技術水準の向上を図ることを目的とした地域講習会と以前から運営業務に携わる協議会、都道府県、市町村の担当者からの運営に関する講習会の開催要望に対応した運営編講習会を開催した。

全国講習会は初日に水産庁担当官による「来年度予算要求」及び「藻場の保全の政策の動向について」枠を設け、その後、藻場及び干潟の保全について部会形式で会場参加とＷｅｂ参加方式を併用した講習会を交通の利便性や収容人員数等を考慮し東京都港区で開催した。そして、藻場部会会場参加者の中から希望者を募り神奈川県下の藻場保全活動組織の現地視察を行った。

第１藻場部会では最近注目されている「海水温上昇に対応した磯焼け対策について」や「ブルーカーボン関連」や「実効性のある継続的な藻場モニタリングの手引きについて」の講義を行い、熱心な質疑応答、意見交換が行われた。

第２藻場部会では現役漁業者である川畑サポート専門家がコーディネーターとなり、同様に現役漁業者である袈裟丸氏が事例紹介者となって臨場感あふれる説明が行われたことにより、会場は非常に盛り上がり、質疑応答も活発であった。

干潟部会では片山サポート専門家から香川県高松市の「高松市漁連活動組織」の耕耘の事例紹介があり、参加者から耕耘についていい事例は少ないので参考になったと好評であった。昨年度の講習会意見交換時に様々な問題で苦労されていた市川市漁業協同組合活動グループに事例紹介をしてもらいサポート専門家をはじめ参加者から課題の解決を図った。

部会後には希望者に対する個別相談の枠を設けサポート専門家等から具体的な助言指導も行った。

最終日には神奈川県下の藻場保全活動組織である「江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（藤沢市）」「諸磯藻場保全活動組織（三浦市）」「城ヶ島藻場保全活動組織（三浦市」の現地視察を活動組織、関係市、神奈川県地域協議会の協力を得て実施した。全国から漁業者を含め１４名のほか協議会事務局等合計２７名が参加し、各組織の活動概要に加え「江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」では会計検査に関わる話や活動組織構成員で相模湾を再現している岩礁水槽で照度計やカジメ石の試験に協力している新江ノ島水族館のバックヤード視察を行った。参加者間と参加者と視察先との活発な情報交換を行うことが出来た。

地域講習会は、現地での講習会を希望する地域協議会の要望するテーマによる講習会を内水面保全に関して「アユの増殖」について京都府京丹後市、藻場の保全に関して、「藻場再生の取組」について北海道函館市、「食害魚の活用」について千葉県鴨川市、「藻場の保全と再生」について沖縄県那覇市にて開催した。

運営編講習会はＷｅｂ形式で水産庁担当官より、①「交付金の交付等事務手続き（交付申請、概算払請求、実績報告等）に係る留意事項、②活動組織への事務指導（計画立案、採択申請、経理関係証拠書類　等）のポイント等のほか③その他参考情報として、会計検査における質疑事項についての説明と菅サポート専門家から、実際現場で指導した活動記録日誌、写真撮影の方法、日当精算他書類の確認事項を履行確認時に参考となる細かい講習を行った。

全国講習会における講師及びコーディネーターを務めてもらうサポート専門家の選定については、第１藻場部会は水産庁委託事業で「海水温上昇に対応した磯焼け対策」や「ブルーカーボン関連」、「実効性のある継続的な藻場モニタリングの手引き」の実施担当した共同機関である一般社団法人水産土木建設技術センターの完山主任研究員と斎藤研究員に依頼した。第２藻場部会については、全国漁業協同組合連合会から提供されたサポート専門家リストから、実際に山川地区藻場保全会で海藻も海草も保全活動を行っていて漁業者でありサポート専門家でもある川畑友和氏に臨場感ある現場の話を依頼した。事例紹介組織についても川畑氏から推薦があった鎮西地区藻場保全活動の会の袈裟丸彰蔵氏を選定した。干潟部会についてはサポート専門家リストの中から干潟を専門とするサポート専門家数名から講習内容について話を伺い、その中から耕耘について特に知見のあった片山貴之氏を選定した。事例紹介組織については昨年度の講習会意見交換時に様々な問題で苦労されていた市川市漁業協同組合活動グループに事例紹介をしてもらい今回の講習会でサポート専門家をはじめ参加者で意見交換を行い課題の解決が図れると考え選定した。

川畑、片山両コーディネーターには参加する活動組織のひとうみ. jp で開示されている活動実績や開示していない組織から提出された活動実績票や事例紹介組織の発表資料、出席予定者名簿、令和５年度水産多面的機能発揮対策事業の評価・検証の結果を事前に送付し、踏

まえた講習内容となるよう依頼し講習内容の充実を図った。

会場参加とＷｅｂ参加の併用なのでＷｅｂ参加者には事前にひとうみ.jp にて資料を開示するとともに講習会当日は、事例紹介やコーディネーターの講習資料を音声と共に配信することに加え、質疑応答など会場の様子の同時映像配信を行うことにより会場参加と変わらぬ情報提供を行った。個別相談については、第１藻場部会と干潟部会後には希望者に対する個別相談の枠を設けサポート専門家等から具体的な助言指導も行われた。

地域講習会については、講師は開催希望地域協議会の要望を優先し、特に講師について要望がなかった京都府については講習内容から全国内水面漁業協同組合連合会の協力を得て講師の選定を行った。

沖縄県那覇市での地域講習会は、県下漁業者の関心が高い「藻場の保全と再生について」をテーマとして、沖縄県の協力も得て活動の中心となる漁協青壮年部の方々にも参加しやすいように日程等を調整した結果、４活動組織からの約３０名の漁業者が参加し、その他、現在水産多面的機能発揮対策事業への参画を検討している多くの漁業者、漁協関係者の出席もありＷｅｂ参加２９名を含め１２６名が講習会に参加した。また、講師には国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所で藻場の保全や機能評価、生態系モニタリング、藻類養殖まで海産植物に関わるあらゆる研究をされている島袋寛盛主任研究員と鹿児島県の薩摩半島の南部の指宿市山川町で定置漁業を営み、山川地区藻場保全会ではガンガゼ駆除による藻場造成とアマモ場造成の活動を行い、他地区のサポートも行っている川畑友和サポート専門家という２名で研究と実際の活動の話を合わせて講習することにより広い視点の講習会を開催することが出来た。

千葉県鴨川市での地域講習会では、「食害魚の有効活用」をテーマに長崎県対馬で食害魚の活用促進に実績のある犬束ゆかりサポート専門家から、資料映像を使った講習に加えて実際に地元のアイゴをその場で捌いてもらいその後の処理を含めテクニックを披露していただくなど参加者が目を離せない充実した講習となった。

京都府では、京丹後市宇川地域平集会所を会場に茨城県水産試験場内水面支場の丹羽増養殖部長を講師として「アユ増殖」に関する講習会を行った。参加者は地元河川で漁を行う漁業者が中心であり、活発な意見交換が行われた。講習会後、丹羽部長による産卵場造成の現地指導も行われ実際の現場にあった講習会を開催することが出来た。

北海道では、「藻場再生の取組」として地域協議会の道南地区の会員が集まり、北海道全域で藻場だけでなく干潟や海の安全確保まで指導されている中尾博己サポート専門家からコンブを含めた藻場造成について講義があり、その後参加者から活動報告が行われ充実した講習会であった。また、アンケートの氏名記述を出席者確認方法としたので、設問に対する回答のばらつきはあるもののアンケート回答率１００％であった。

各会場における出席者数は、沖縄県那覇市（会場９７名、Ｗｅｂ２９名）、千葉県鴨川市（３０名）、京都府京丹後市（１６名）、北海道函館市（３３名）であり４会場で合計２０５名であった。地域講習会は地元の希望する場所や日程に沿って調整を行い開催することが可能なので東京等主要都市で開催している講習会になかなか出席できない方々にも講習を受講できる機会となった。また、地元の要望に即した講習内容等とすることにより、参加者が熱

心に質疑応答や意見交換ができたと考えている。

地域講習会は設備や人員等から基本的には会場参加での開催としたが沖縄家那覇市の場合は沖縄県水産業・漁村の多面的機能発揮対策地域協議会の申し出により協力がありＷｅｂ参加も可能な講習会となった。一部の他の会場出席者からもアンケートにＷｅｂ併用の要望があったので、Ｗｅｂ併用とするには設備、人員等々課題があるので次年度も基本的には会場参加形式での開催とするが、開催要望する地元地域協議会の協力が得られることを前提としてＷｅｂ併用形式での開催にも対応していきたい。

運営編講習会については、参加申し込み時に質問事項を徴収し、その回答を講習会の中で講師から行ってもらい課題の解決を図った。また、実際に活動組織の技術的指導を行っているサポート専門家に対しては講習内容が参考なると判断し、全国漁業協同組合連合会と全国内水面漁業協同組合連合会の協力を得て案内を行った。

講習会の開催目的は、技術的水準の向上や課題の解決、適切な組織運営の推進を図ることだけでなく活動組織相互の交流、情報交換の場を提供することでもある。活動組織が多い藻場と干潟の保全を中心とした従来の形式の全国講習会に加えて、現地視察、地域講習会、運営編講習会を開催することで補完しより充実した講習会を開催することが出来た。

現地視察は、視察先は活動内容に加え、全国講習会会場からの移動等を考慮し、まず「江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」を選定した。そして、貸切バスでの移動なので、高海水温化に対応している早熟カジメを活用している三浦市の「諸磯藻場保全活動組織」と「城ケ島藻場保全活動組織」を選定した。準備として視察先である「江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」や三浦市を訪問し趣旨説明等を行うとともに、適宜メールや電話で情報交換を行い視察当日に備えた。また、第２藻場部会終了後には現地視察説明会の設定し、参加者に対して集合場所や集合時間、スケジュール確認に加え「江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」からは活動概要の一部の説明を行い、視察当日の新江ノ島水族館視察時間の確保を行った。視察は各活動組織の現場で行うスケジュールであったが、荒天時の対応として江ノ島片瀬漁協の会議室や三浦市の施設の研修室を確保し備えた。

全国講習会の参加状況は、会場出席者合計は１９９名であり、Ｗｅｂ出席者合計は３２７名であった。部会の会場及びＷｅｂ出席者数の合計数は、第１藻場部会は１３４名、第２藻場部会は１３９名、干潟部会は９２名であった。また、水産庁担当課による来年度予算等及び藻場の保全に関する政策の動向については１６２名であった。なお、現地視察は２７名であった。会場参加者の中には、積極的に意見交換に参加したり、他の活動組織からの参加者と情報交換を行っていたりする者がいた。また、部会終了後の会場ではサポート専門家や事例紹介者や参加者間で交流を持つ者も見られた。

全国講習会Ｗｅｂ参加した理由については、回答数４５件の中で２４件が「会場までの移動時間や交通費がかからない」「手軽に参加出来る」の両方を選択し、１３件が「会場までの移動時間や交通費がかからない」８件が「手軽に参加出来る」を選択していた。Ｗｅｂ参加者受講形式については回答数４５件の中で４２件（９３．３％）が個別受講であり、複数受講は３件（６．７％）であり、そのうち２件が２名、１件が４名での受講であった。

昨年度のＷｅｂ参加者の所属及び氏名が確認出来ない者が多少見られたので今年度は講習

会に参加する際には、参加申込書に記述した都道府県名及び所属、氏名にて入室するよう再三促したが、未だ不明者が数名見られたとともに複数県にある水産海洋技術センターでの入室があり、都道府県名及び所属、氏名での入室を徹底が必要である。

参加者の課題解決の一助として、今年度もアンケートの中に「講師に対する質問」欄を設けた。回収したアンケートは直ちに講師に対する質問欄への記述の有無の確認を行い、必要に応じて質問の趣旨を聞き、講師に伝え、回答してもらい課題の解決を図った。

全国講習会で実施したアンケート結果分析としては、会場出席者の回答率は、事務局、関係団体、コーディネーター、事例報告者を除いた会場出席者延べ１１８名のうち、１０９件の回答があり、回答率９２．４％と高いものであったが、Ｗｅｂ出席者は１９２名のうち４５件の回答で、回答率２３．４％と低調であった。会場では事務局が繰り返しアンケート回答を促すことが可能であるが、Ｗｅｂ出席者に対しては、会場から進行中に数度呼びかけるだけであることが一因かと思われる。次年度以降、Ｗｅｂの場合は退出後に申込者に対し回答を促すメールを一斉送信するなどして回答率向上を図りたい。また、進行時にアンケートに回答することにより、講習内容の理解度や問題点、要望等が明らかになり、次年度の講習会がより充実したものとなることの説明不足であったと思われ改善したいと考えている。

無回答を除いた１３０件のうち７２件５５．４％が初参加となっていた。初参加の中で最も多いのが公務員で、公務員の参加者で初回の割合は６３．７を占めている。そして公務員回答数１０５件でありその中の６３件６０．０％が初参加となっている。「当県の協議会の運営及び活動組織の活動を見直しする際に参考とします。」「活動組織へのサポートに活用。」「今後の活動組織への指導に役立てたい。」「活動組織に共有し、活動内容の見直しを検討したい。」等々の回答から異動が多い公務員にとっては、この講習会は事業の概要を知るための機会として、また講習会に参加することにより技術的な知識の向上や他県の事例について情報を得られることから、管内の活動組織の指導に役立てるためにも重要な機会であり、平日開催で活動組織からの出席者は多くないが、実際の参加者数以上に活動組織に対する効果があると思われる。なお、地元に情報を持ち帰った時に使用できるように講習会テキストはひとうみ JP からダウンロード可能な体制を取っている。

講習内容は参考になったかの事項について、各部会共にほぼ１００％が「大変参考になった」「一部参考になった」であったが、干潟部会で唯一「参考にならなかった」の回答があったが、選択理由は「市内に干潟がない。」と回答した市職員であった。大変参考になった点は第１藻場部会では海水温上昇に対応した磯焼け対策など講習の内容についてであった。第２藻場部会では、漁業者のコーディネーターと事例紹介者の熱量に対するものが多かった。干潟部会については、耕耘の取組や効果についてであった。

今回の講習会に参加して取り入れたい事項については、第１藻場部会では活動組織からのブルーカーボン申請に対する対応や活動内容見直しへの活用であった。第２藻場部会では、仕切り網の手法や地域ブランド化、民間との連携等であった。干潟部会では耕耘の効果の見せ方や、実施時期やモニタリング手法等についてであった。

開催場所に対する意見としては、現在の場所が適当との回答のほか、福岡、兵庫、茨城、千葉、静岡、愛知等を希望する回答も見られた。講習内容については、専門家の活用方法、

活用事例、失敗例の紹介や藻場部会では水中ドローン、干潟部会では施肥等の希望があった。開催形式は、現状のままとの意見が多くあったが、藻場、干潟以外の活動についての開催要望もあった。

全国講習会は活動組織数等から藻場と干潟の保全に関する講習を会場出席とＷｅｂ出席併用の形式での開催となった。ある程度の広さの会場が必要となることとＷｅｂ配信するには必要な機器があり開催場所を東京としてた。藻場部会参加者の中から希望者を募り行う現地視察は活動内容に加え移動も考慮し神奈川県下で行った。開催時期は会場選定、開催募集、事例紹介、組織選定や資料準備等にある程度期間を要し、来年度予算要求の枠も設けることから９月第１週での開催となった。

地域講習会は、沖縄県では沖縄県及び沖縄県水産業・漁村の多面的機能発揮対策地域協議会と県下漁業者の関心が高いテーマや活動の中心となる漁協青壮年部の方々が参加しやすい日程を協議、調整した結果、沖縄県内の活動組織から多くの漁業者が参加する講習会となった。また、千葉県で開催した地域講習会では、食害魚の活用促進に実績のあるサポート専門家を講師として、講習に加えて、アイゴを捌きその後の処理も習得するという実践的な講習会であった。また、講習会場への移動に時間がかかる地域で講習会を開催することで、東京などで開催する講習会に参加できない現地の活動組織の漁業者が参加しやすい講習会も開催することが出来た。

運営編講習会は、運営業務に携わる協議会、都道府県、市町村の担当者からの運営に関する講習会の開催要望に対して、充実した講習となるよう考慮し水産庁担当官からの「交付金の交付等事務手続きに係る留意事項や会計検査における質疑事項の説明に加え、実際に現場で指導しているサポート専門家から履行確認時に必要な内容を講習してもらった。対象を協議会、都道府県、市町村の担当者に加えサポート専門家にも広げて行った。多くの参加者から疑問点が解消された。次年度以降も開催してほしい。など好評価であった。

次年度の講習会は、今年度と同様にＷｅｂによる運営編講習会、９月第１週に水産庁担当官からの来年度予算要求の枠を設け藻場保全と干潟保全を中心とした全国講習会、活動組織の視察や意見交換を行うブロック講習会とサンゴ礁と内水面の保全講習会も開催可能な地域講習会が考えられる。内容は今年度の講習会で参加者の関心が高かった内容を整理するとともに現在改訂作業がされているモニタリングの手引き等で、講師にはサポート専門家だけでなく、研究者にも加わってもらい広い視点の講習会を開催し、活動組織や地域協議会の課題解決や横展開に繋がるようしたいと考えている。最後に講習会のアンケートに講師に対する質問の欄を設け講習会中に質問できなかった参加者への配慮を行ったが、担当者にアンケートに対する認識が低く放置し回答に時間を要した場合があったことは反省し改善すべき点である。

3-3. サポート専門家による技術的指導

令和 6 年度にサポート専門家が指導した活動組織数は延べ 99 組織であり、全ての活動組織に対し、現地を訪問する個別指導を行った。また、7 会場で研修会形式でのサポートを実施した。

今年度は 5 組織が運営指導の個別サポートを受けたほか、活動組織及び市町村の担当者を対象とした研修会を地域協議会が開催した事例が７件あった。各種書類作成等の事務作業の遂行について課題を抱えている組織が増えている可能性があり、引き続きサポートが必要である。

サポートの内容はモニタリングと保全活動に関するものが多く、特にモニタリングについては、昨年度と同様、多くの活動組織がサポートを求めている状況である。技術の習得と自立を促しつつも、精度を確保するため、今後も継続する必要があると考えられる。

諸磯藻場保全活動組織へ実施している長期サポートは今年度で４年目となり、磯焼けの原因の特定及び対策手法の改良を行っている。次年度は 5 年間の成果をまとめる予定である。

表 3-3-1　長期サポートにおける 5 年間の活動

1 年目	令和 3 年度	現状把握、磯焼けの原因特定
2 年目	令和 4 年度	対策手法（囲い籠）の改良
3 年目	令和 5 年度	周辺海域の藻場の状況確認、種苗生産施設の検討
4 年目	令和 6 年度	早熟カジメの入手と異なる環境での生育試験
5 年目	令和 7 年度	新地点での早熟カジメ育成試験、南方系ホンダワラ類の育成試験

3-4. 保全手法等の開発と普及

(1) 環境生態系保全向け活動記録アプリの改良（継続）

本年度は、活動中の地点登録の追加を行った。以下に改良したアプリの検索画面（図 3-4-1）を示す。

図 3-4-1 の赤枠で示した箇所が本年度にて改良を行った地点追加である。活動開始後に、左図の赤枠の「地点追加」のボタンを押すことで、右図の活動終了後の編集画面にて、活動中の地点を確認でき、さらに編集も可能となった。これらの改良を実施したことにより、詳細な活動の把握が可能となった。

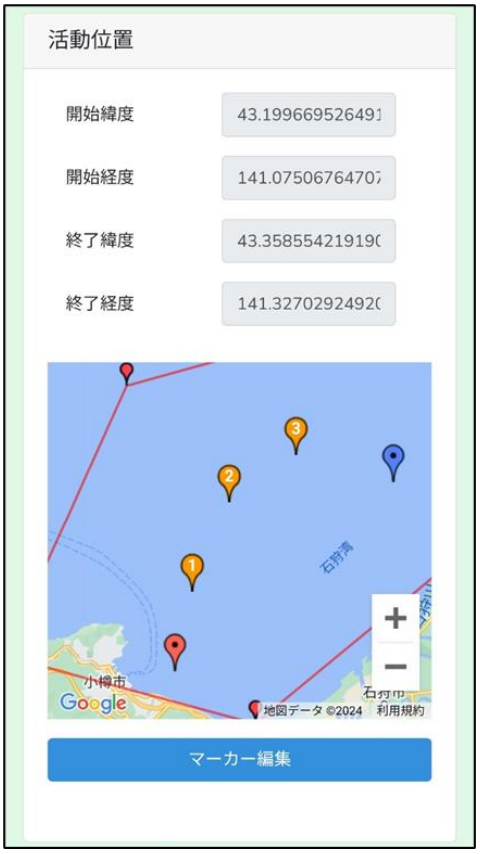


図 3-4-1 検索画面

(2) ワークショップの開催（継続）

1) 藻場保全における技術紹介と環境生態系保全向け活動記録アプリの使い方講座

壱岐市内の漁場に生息している海藻種や藻場保全の歴史に加え、ウニバスターなどの藻場保全技術の紹介を行った。

活動記録アプリのワークショップをでは、漁業関係者の方々に対して、アプリの操作方法や利便性について、講習を行った。

●開催日時：令和 7 年 1 月 15 日（水）14：00～16：00
●開催場所：壱岐市役所石田庁舎内会議室
（長崎県壱岐市石田町石田西触 1290）
●参加者：長崎県職員 2 名、壱岐市役所職員 2 名、漁業者 12 名
●講師と実施内容
・講師：元東京海洋大学　准教授　藤田大介氏（サポート専門家）
水産土木建設技術センター　齋藤論理
・実施内容：①藻場保全における技術紹介
②活動記録アプリワークショップ

●実施の様子

図 3-4-2 ワークショップ開会挨拶

図 3-4-3 藻場保全手法の紹介

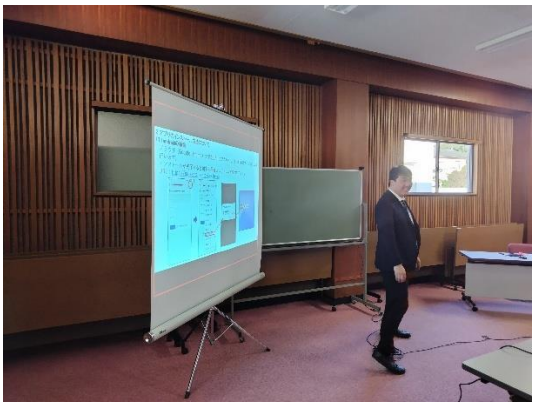


図 3-4-4 活動記録アプリの紹介

2) ウニフェンスづくり体験

本ワークショップでは、ウニフェンスを参加者が実際に作り、今度の活動に役立ててもらうことを目的として実施した。以下に実施内容を示す。

●開催日時：令和 6 年 4 月 25 日（木）14：00～17：00
●開催場所：佐賀玄海漁業協同組合鎮西町支所
（佐賀県唐津市鎮西町名護屋 2-74）
●参加者：漁業者 4 名
●講師と実施内容
・講師：株式会社ベントス　南里海児氏（サポート専門家）
・実施内容：ウニフェンスについての説明
作り方の事前説明
講師による実演を交えながらの作成
質疑応答

●実施の様子

図 3-4-5 講師による事前説明

図 3-4-6 ウニフェンス作成

図 3-4-7 完成した流れ藻キャッチャー

図 3-4-8 終わりの会

3-5. 模範、参考となる活動組織の抽出および事例集の作成・配布

全国から模範、参考となる活動組織を 12 地区抽出し、その活動内容等について現地調査を行い、各地区の活動実績を「事例集」としてとりまとめ、全国の活動組織及び地域協議会等に配布した。また、これら全ての地区の活動実績を、次項の事例報告会において口頭発表もしくはポスターの形式で発表また配付資料として公開した。これら取組により、全国の他の活動組織や当事業関係者への技術等の普及、また水産多面的機能発揮対策事業の一般への普及啓発に寄与したものと考える。

課題としては、活動組織の抽出基準の一つ「不審船または環境異変の早期通報件数が増加した活動組織」が、ほぼ認められなかったことが挙げられた。

現在、外国の不審船等、また北海道等において課題となる海獣の発見数等が減少傾向にあり、全国的に早期通報件数の増加が鈍化していると考えられた。一方で、監視体制の強化や海難救助訓練等を行う組織の構成員の中で、救助や捜索活動等に協力し、海上保安部等より表彰された事例が数地区で認められた。また、数少ない事例であるが、近年問題となっている磯焼けの状態を監視する組織が確認され、これらを対象に事例集としてとりまとめた。

今後、国境･水域監視等を行う活動組織の選定においては、早期通報件数の増加だけでな

く、海難救助や捜索活動等への波及効果が得られている組織、また磯焼けの監視のように、新たな環境課題に対して監視の面で活動を展開する組織を抽出基準に加えるなどの柔軟な対応を図る必要がある。

3-6. 事例報告会（シンポジウム）の開催

今年度の事例報告会は、「海の森の今」と題し、日本科学未来館にて開催した。今回の開催においても、活動組織や地域協議会等の事業関係者のみならず、広く一般に当事業を周知することを目的とし、来場および YouTube によるウェブ参加の募集を行った。周知にあたっては、新聞への広告掲載、大学や教育委員会等への開催案内の送付、過年度の参加者への DM 送付（メール）などを行った。その結果、申込者 288 名（国家公務員を除く）のうち 108 名（37%）の事業関係者外（個人、NPO、企業、大学、高校等）の参加があった。

ウェブ視聴は参加者からは好評だが、アンケートの回答率の低さ等の課題があり、改善が求められる。

3-7. 国民の理解・増進に資する取組手法の周知

下表に示す連携事例において、取組手法の周知を図った。

表 3-7-1　周知を図った連携事例一覧

№.	活動組織名	区分	学校	連携企業等
1（継続）	伊江島海の会（沖縄県伊江村）	サンゴ	玉川学園	国際航業㈱、 西松建設㈱
2（〃）	名護屋地区藻場保全活動組織 （大分県佐伯市）	藻場	地元小学校	佐伯市観光協会 ウニノミクス㈱
3（〃）	西彼南部地区活動組織(長崎県長崎市)	藻場	長崎大学	
4（〃）	外海地区活動組織(長崎県長崎市)	藻場	〃 外海中学校	三洋テクノマリン㈱
5（〃）	深江ブループロジェクト活動組織 (長崎県南島原市)	藻場・ 干潟	〃	
6（〃）	大崎上島地域の海辺を守る会 (広島県大崎上島町)	藻場	広島大学	
7（新規）	愛南の藻場を守る会(愛媛県愛南町)	藻場	愛媛大学	愛媛大学ダイビング OB
8（〃）	あいら藻場・干潟再生協議会	藻場	国分高校	
9（〃）	未定（佐賀県と調整中）	藻場	佐賀大学	
10（〃）	城ヶ島藻場保全活動組織	藻場	相模女子大学	
11（〃）	日和佐藻場再生委員会	藻場	小松島西高校	三井共同建設コンサルタント

3-8. 非営利団体･企業との連携についての分析･整理

(1)連携による効果分析

ブルーカーボンが注目されるようになり企業の藻場への興味は高まっているが、企業がどのように係われるか苦慮していることが窺える。また企業連携における分析と整理から以下の結果が得られた。

①企業連携の体制

問題点：企業連携を行っている活動組織がどのような体制で連携ができているのかが示されていない。

対応策：すでに企業連携を行っている活動組織の例を示すことで、活動組織が何をすれば連携しやすいかを示す必要がある。

②企業連携の効果

問題点：企業連携を行う中で、連携におけるメリットがわからない。

対応策：活動組織に対して、企業連携を行うことで得られる効果（資金確保や技術提供、PR 活動など）を示すことで、より連携が進むことに期待できる。

①においては、「水産多面的機能発揮対策における多様な連携の手引き」の事例を表 2-5-1 に示すモデル地区を対象にして充実を図っているところである。

②においては、「水産多面的機能発揮対策における多様な連携の手引き」（水産庁, 2022.3）に内容を追記し、更新した（資料編 7）。以下に更新した手引きの内容を示す。

3.6 企業との連携

企業との連携は資金や物資の支援、専門技術の活用、活動の認知度向上に貢献します。また、企業の CSR 活動として位置づけることで、持続的な取り組みが可能となり、地域社会とのつながりも強化されます。こうした連携により、より効果的かつ継続的な環境保全が実現してみましょう。

環境生態系保全活動において、企業と連携することはとても重要です。その理由をいくつか挙げます。

- 資金や物資の支援を受けられます：保全活動には、設備や資材の購入、調査などに多くの費用がかかります。企業と連携することで、助成金や寄付、必要な物資の提供を受けられ、活動の継続や拡大が可能になります。
- 専門的な技術や知見を活用できます：企業には、環境技術やデータ分析のノウハウを持つ専門家がいます。企業の技術や研究データを活用することで、より効果的な保全活動ができます。
- 活動の認知度が高まります：企業が環境活動に関わることで、その企業の顧客や取引先にも関心を持ってもらいやすくなります。また、企業が持つ広報

力（SNS、ウェブサイト、広告など）を活用することで、活動の認知度が向上し、より多くの人に参加を促すことができます。

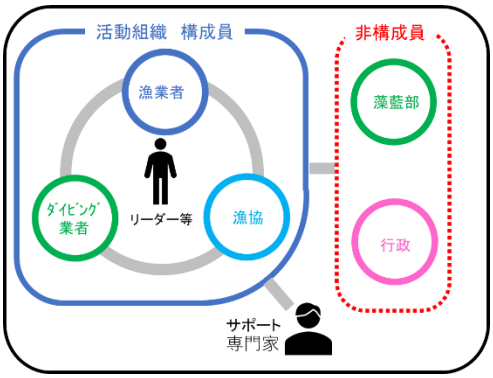
- 持続可能な活動につながる：企業と連携し、長期的な協力関係を築くことで、単発の活動ではなく、継続的な環境保全が可能になります。特に、地元企業と協力することで、地域社会との関係が深まり、住民や自治体とも連携しやすくなります。地域ぐるみの活動になれば、環境意識の向上や次世代の育成にもつながります。

ただし、本保全活動と企業理念等が必ずしも合致するとは限りません。そのためには、学校の教育活動と連携した上で、企業と連携するとスムーズに進みます（コラム 10 参照）。

コラム 11　企業との連携

＜日和佐藻場再生委員会（徳島県美波町）＞

冬季に水温が下がらず、アイゴの食害による磯焼けが発生したため、海士と地元のダイビング業者が保全活動を開始しました。その後、（一社）藻藍部と連携し、アイゴを活用した地場産品や再生資材の開発を進めながら、協力して藻場の再生に取り組んでいます。



藻藍部

藻藍部が開発したアイゴ商品の商談会

(2) 人材育成

あいら藻場・干潟再生協議会は、遠藤新リーダーを中心として、10 月 4 日に学校説明会を、11 月 17 日と 12 月 1 日にアマモの播種活動を高校生と行った。学生とは SNS を活用して情報交換を図り、新年度からアマモの勉強会と高校生コンクールに向けての取組みを話し合うこととしている。

図 3-8-1 あいら藻場・干潟再生協議会のリーダーづくり

(3) 他分野における連携事例の収集と整理

本事業と最も類似する「多面的機能支払交付金制度」および「森林・山村多面的機能発揮対策交付金制度」、「観光地域づくり法人（DMO)」における事例の情報を収集し、そのうち参考となる連携事例を 6 組織抽出した。

抽出した事例は、地域と密着した町内会や子ども会、婦人会、老人会などとの連携が主である。また、NPO 法人化に伴う連携の強化や観光業への理解の増進など、水産分野では、あまり取り組まれていない事例が見受けられた。収集した事例については、資料編 8 を参照。

サポートの成果と課題（1）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
1	青森県	小川原湖地区漁場保全の会	藤田孝康	藤田孝康	・実験区画の状況確認 （今年度から耕耘区・対照区は全面禁漁（周年）、漁業区は6～9月禁漁） ・シジミ放流の事後調査を実施 ・今年度の実施計画策定について助言 ・今年度の結果とりまとめ	・実験区画の状況確認 （耕耘区・対照区は全面禁漁（周年）、漁業区も通年禁漁） ・シジミ放流の事後調査を実施 ・今年度の実施計画策定について助言 ・今年度の結果とりまとめ	【成果】 ・活動組織が東北小学校への説明会や道の駅での直売会などの普及・啓発活動を行った。 【課題】 ・今年度は貧酸素水塊がかなり上昇しており、シジミの生息に影響を与えている可能性がある。引き続き耕転や生物移植を行い、継続的に確認を行うことが望まれる。
2	神奈川県	江ノ島フィッシャーマンズ・プロジェクト	田中和弘 中嶋泰	田中和弘 中嶋泰 大浦佳代	・藻場のモニタリング実施 ・モニタリング方法の指導 ・カジメの種付け、カジメネットの設置方法および場所選定・取り付け方法の指導 ・母藻の選別・採集方法の指導 ・植食生魚類の除去方法を指導	・昨年度に網カゴやスポアバッグを設置した地点のモニタリング ・構成員へのモニタリング方法や海藻の同定方法の指導 ・早熟カジメの扱い方等の指導 ・タイムラプスカメラの設置方法の指導 ・アラメスポアバッグ設置場所の選定 ・新しい教育・学習活動の教材作成補助	【成果】 ・経験の少ないダイバーにサポート専門家から指導を行うことで、全体的なレベルアップが図られている。モニタリングの他、母藻の設置等の活動にも構成員が積極的に参加している。 【課題】 ・これまでの活動から、藻場消失は魚類の食害による影響が大きいことが判明している。昨年度から移植を実施している早熟カジメの定着が期待される。
3	富山県	射水市豊かな海を愛する会	高山優美	高山優美	・小学生へ藻場の重要性についての講義と海藻おしばの作成方法を指導	・小学生へ藻場の重要性についての講義と海藻おしばの作成方法を指導	【成果】 ・構成員が小学生対象の藻場の授業に参加し、活動組織の取り組みについての紹介や、海藻万華鏡の作成方法の指導等を行った。 【課題】 ・活動組織が中心となって授業を行えるようになる必要がある。
4	徳島県	日和佐藻場再生委員会	永田昭廣 三橋公夫	永田昭廣 三橋公夫	・藻場の定期モニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	・藻場の定期モニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	【成果】 ・ウニの密度は低く保たれている。 【課題】 ・当地区では魚類の食害による磯焼けが起きている。食害魚を対象とした釣り大会開催や餌に海藻を使ったカゴ網設置による駆除などの対策を始めたため、今後の成果が期待される。

サポートの成果と課題（2）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
5	徳島県	牟岐の藻場を守る会	永田昭廣 三橋公夫	永田昭廣 三橋公夫	・藻場の定期モニタリング実施 ・インターバルカメラによる藻場の定点調査 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	・藻場の定期モニタリング実施 ・インターバルカメラによる藻場の定点調査 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	【成果】 ・ウニの密度は低く保たれている。 【課題】 ・インターバルカメラ調査の結果から、魚種はブダイである可能性が高い。大型海藻藻場を回復させるためには、ブダイ等の駆除を実施する必要がある。
6	徳島県	木岐藻場育成協議会	永田昭廣 三橋公夫	永田昭廣 三橋公夫	・藻場の定期モニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	・藻場の定期モニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび本年度の保全計画についての助言	【成果】 ・各定点でアラメ等の大型海藻を中心とした健全な四季藻場が維持されている。 【課題】 ・現時点では魚類による過度の食害は見られないが、近隣に魚類の食害で藻場が衰退した地区があるので、注意して観察していく必要がある。
7	長崎県	深堀地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・構成員とともに藻場のモニタリング実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・構成員とともに藻場のモニタリング実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・作年度に積極的に駆除を行なったことからガンガゼ類の生息密度は下がっており、密集箇所は少なくなっていた。 【課題】 ・ウニの密度はやや減少しているが、依然としてウニの過度の食害によるパッチ状磯焼けが全定点で見られる。藻場の被度をさらに高めるためにはウニ駆除を実施する範囲を狭くして、徹底駆除することが望まれる。
8	長崎県	瀬川地区海渚を再生する会	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・マメタワラを中心とした大型海藻の被度が令和3年以降80%前後に維持されている。 【課題】 ・本地区は浮泥の堆積が多く、種の着底や藻体の成長の阻害が藻場の衰退要因となっているため、浮泥厚のモニタリングを継続し、効果の検証を行うことが勧められる。

サポートの成果と課題（3）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
9	長崎県	大瀬戸地区藻場育成会	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・ウニ類の密度は減少傾向にある。 【課題】 ・定点カメラによる記録から本地区にはブダイとアイゴが遊泳しており、ブダイがノコギリモクを摂食することが確認されているため、ブダイの駆除試験除去を行うことが勧められる。
10	長崎県	西彼南部地区活動組織/伊王島地区	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・キレバモク、マメタワラを中心とした藻場が維持されている。 【課題】 ・ウニ類が激減したにも関わらず大型海藻類の被度が下がった。キレバモク以外のホンダワラ類が成熟晩期を迎えていたことも関係していると思われるが、植食性魚類の生息数が増加したことも要因と考えられるため、魚類対策を計画し、魚種の特定とともに効果的な駆除方法の確立を計画することが求められる。
11	長崎県	西彼南部地区活動組織/香焼町地区	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・藻場のモニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび結果報告 ・メカブ移植法によるワカメのタネ播き方法の指導	・藻場のモニタリング実施 ・モニタリング結果の取りまとめおよび結果報告 ・メカブ移植法によるワカメのタネ播き方法の指導	【成果】 ・ウニの密度が大幅に減少し、ウニの食害によるパッチ状磯焼け（ハゲ地）はほとんどみられなくなった。 【課題】 ・昨年度は大型海藻の被度が激増したが、本年度は減少した。昨年度は激増した。原因はいくつか考えられるが、植食性魚類の生息数が増加したことが第一の要因だと思われる。今後ともウニ駆除を継続しつつ、魚類対策を計画して魚種の特定とともに効果的な駆除方法の確立を計画して頂きたい。
12	長崎県	崎山地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・今年度は大型海藻が増加した。仕切網内ではキレバモクとワカメを中心とした藻場、仕切網外ではアントクメが主体の藻場が広がっている。 【課題】 ・魚の食圧がある本地区で大型海藻藻場を拡大させるために、本種の母藻移植等を行うことが勧められる。

サポートの成果と課題（4）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
13	長崎県	塩浜地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・ウニ類の密度は引き続き低く保たれており、8定点で平均1.1個／㎡であった。 【課題】 ・ガラモの生育が見られるのはアラメ籠の内部だけで、今回は籠から拡散されたアラメ・カジメ幼体も見られなかったため、今後は駆除を実施して食害魚の生息数を減らすとともに、籠内の母藻から拡散した幼体を保護する対策を計画することを勧められる。
14	長崎県	橘湾地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・ヤツマタモク等の多年生の大型海藻からなる四季藻場が維持されている。。 【課題】 ・大型海藻は年々確実に減少しているため、食害魚の対策を計画・実施することや、必要に応じて希少種の母藻移植や保護枠の設置などの実施も勧められる。
15	長崎県	外海地区活動組織	安藤亘 南里海児	安藤亘 南里海児	・長崎大学の学生へのスキューバダイビングによるウニ駆除方法の指導および現場での監督 ・長崎大学の学生とともに小学生を対象とした体験学習を実施	・漁業者とともに潜水し、モニタリングを指導 ・長崎大学の学生へのスキューバダイビングによるウニ駆除方法の指導および現場での監督 ・長崎大学の学生とともに小学生を対象とした体験学習を実施	【成果】 ・ウニ類の生息密度が低下するとともに、小型海藻の生育がみられるようになった。近年では活動範囲の全域でホンダワラ類が点生～疎生程度で観察されるようになっている。また、新たに設定した対策区でも効果がみられている。 【課題】 ・構成員が少なく、ほとんどが高齢者であるため、効率的に除去する手法を身に着ける必要がある。
16	長崎県	佐須奈地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ ・活動組織が作成する書類の内容確認・修正指導	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・小型海藻藻場の被度が昨年度から微増した。 【課題】 ・ウニ類の平均個体数が昨年度と比べて増加していたため、引き続き駆除を継続する必要がある。

サポートの成果と課題（5）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
17	長崎県	河内地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・小型海藻藻場の被度が昨年度から増加した。 【課題】 ・ウニ類の密度が増加している定点があったため、駆除を継続する必要がある。
18	長崎県	三浦湾地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ ・活動組織が作成する書類の内容確認・修正指導	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・小型海藻藻場が維持されている。 【課題】 ・植食性魚類の食害が進み、ノコギリモクが消失した地先が多い。 魚の食害がこのまま続いた場合、ノコギリモクが消失する恐れがあるため、食害防止籠を活用して、ノコギリモクの母藻自体の保護にも取り組むことが勧められる。
19	長崎県	玉之浦地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ	【成果】 ・ウニの除去がきちんと行われており、ガンガゼの密度は低く維持されている。 【課題】 ・一部にウニ除去をしていないところも残っており、緩やかな増加傾向が見られることから、ウニ除去を徹底することが望まれる。
20	大分県	名護屋地区藻場保全活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ ・植食性魚類の生息状況調査	・定期モニタリングの実施および結果報告 ・今後の対策の進め方について打合せ ・植食性魚類の生息状況調査	【成果】 ・テングサなどの小型海藻藻場が維持されている。 【課題】 ・大型海藻が魚類の食害によって激減し、確認できなくなった。引き続き食植性魚類の除去を実施する必要がある。

サポートの成果と課題（6）

No	都道府県	活動組織名					サポートの成果と課題
			R5	R6	R5	R6	
21	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	渡辺耕平 安藤亘	渡辺耕平 安藤亘	・アマモを播種した場所のモニタリング ・今根度の活動計画策定について助言 ・アマモの播種作業	・アマモを播種した場所のモニタリング ・今根度の活動計画策定について助言 ・アマモの播種作業	【成果】 ・U字溝を設置した定点でアマモの繁茂が確認され、流失防止策の効果が窺えた。 【課題】 ・一部に植食性魚類による食害が見られたため、注意が必要である。
22	鹿児島県	日置市多面的環境保全協議会	川畑友和 酒井章	酒井章	・アマモマットの作成指導 ・アマモマットの設置補助	・アマモマットの作成指導 ・アマモマットの設置補助	【成果】 毎年アマモマットの作成を実施しているため、スムーズに作業を行うことができている。 【課題】 ・構成員に潜水士がおらず外注しているため、こうした人材にも活動に参加してもらうことが望まれる。
23	沖縄県	伊江島海の会	永田昭廣 石田和敬	永田昭廣 石田和敬 山本貴史	・天然サンゴの現状と移殖サンゴの生存、成長についてモニタリングを実施 ・小学生を対象としたサンゴ礁についての授業の講師 ・移殖用親サンゴの確保、断片化、移殖場所の選定、移殖方法の指導 ・玉川学園の水槽で育てたサンゴの搬入・移植 ・玉川学園の学生のサンゴ移植作業補助 ・試験区、水槽、保護区の海草モニタリングおよび管理方法の指導	・天然サンゴの現状と移殖サンゴの生存、成長についてモニタリングを実施 ・構成員へのモニタリングの指導 ・試験区、水槽、保護区の海草モニタリングおよび管理方法の指導	【成果】 ・構成員が適切なモニタリング方法を習得した。 ・初期に移植したサンゴが、産卵可能なサイズにまで成長した。 ・西松建設からこの活動に参加する人数が増えた。 【課題】 ・移植した海草の生育不良の主要因は砂礫の移動、食害、移植場所の水深等が考えられるため、天然の株が生育する場所と似た環境を見つけることが求められる。